

第1回みえ県民意識調査

報告書

平成24年5月

三重県戦略企画部

目次

調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査の設計	1
3. 調査の内容	1
4. 回収結果	1
5. 報告書の見方	2
6. 回答者の属性	3
調査結果（県全体）	5
1. 幸福感について	5
2. 地域や社会の状況について	8
3. 日ごろの暮らしについて	10
4. 食の安全・安心について（個別テーマ）	12
5. 観光振興について（個別テーマ）	15
6. 地球温暖化対策について（個別テーマ）	18
調査結果（属性別集計）	21
1. 幸福感	21
2. 地域や社会の状況	32
3. 日ごろの暮らし	70
4. 食の安全・安心（個別テーマ）	98
5. 観光振興（個別テーマ）	108
6. 地球温暖化対策（個別テーマ）	116
7. 自由意見	130
（参考）標本誤差と調査の精度	132

集計資料

調査票

調査の概要

1. 調査の目的

県では、平成24年度からのおおむね10年先を見据えた県の戦略計画である「みえ県民カビジョン」において、『県民力でめざす「幸福実感日本一」の三重』を基本理念として掲げており、県民の「幸福感」についての意識や、現在の暮らしや社会の状況に対する実感などについて把握するため、「みえ県民意識調査」を実施した。

2. 調査の設計

- (1) 調査地域 三重県全域
- (2) 調査対象 県内居住の20歳以上の男女
- (3) 標本数 10,000人
- (4) 抽出方法 各市町の選挙人名簿を使用した等間隔無作為抽出法による。標本数は各市町の選挙人名簿登録者数の比率によって割り当てた。
- (5) 調査方法 郵送による発送・回収
- (6) 調査期間 平成24年1月～平成24年2月
- (7) 調査主体 三重県政策部企画室（平成24年4月より戦略企画部戦略企画総務課）
- (8) 調査委託機関 株式会社百五経済研究所

3. 調査の内容

調査の内容は、下記の項目から49の設問により成り立っている。

- (1) 幸福感
- (2) 地域や社会の状況
- (3) 日ごろの暮らし
- (4) 個別テーマ（今回は、下記の3テーマについて質問）
 - ・食の安全・安心
 - ・観光振興
 - ・地球温暖化対策
- (5) 属性質問（回答者ご自身のことについて）
- (6) 自由意見

4. 回収結果

- (1) 標本数 10,000人
- (2) 実回収総数 5,726人（回収率 57.3%）
- (3) 有効回答数 5,710人（有効回答率 57.1%）
- (4) 無効回答数 16人

調査地域区分と地域別標本数、ならびに有効回答数は次表のとおりである。

図表 1-4-1 調査地域区分と地域別標本数

居住地域	市町	標本数	有効回答数	有効回答率(%)	構成比(%)
北勢地域	四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菟野町、朝日町、川越町	4,432	2,515	56.7	44.0
伊賀地域	名張市、伊賀市	969	535	55.2	9.4
中南勢地域	津市、松阪市、多気町、明和町、大台町	2,705	1,635	60.4	28.6
伊勢志摩地域	伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町	1,441	801	55.6	14.0
東紀州地域	尾鷲市、熊野市、紀北町、御浜町、紀宝町	453	224	49.4	3.9
合計		10,000	5,710	57.1	100.0

5 . 報告書の見方

- (1) 比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- (2) 複数回答の設問における比率の合計は通常100%を超える。
- (3) 内容が判別できない回答や無回答については「不明」とした上で、内閣府の国民生活選好度調査等と比較するため、問1のみサンプル数(n)から除外している。問2から問6についてはサンプル数(n)に含めている。
- (4) 図表の見出しや回答の選択肢の表現では、スペース等の都合上、趣旨が変わらない程度に簡略化して掲載している場合がある。
- (5) 報告書中のグラフにおいて、5%未満の値については表示していない。
- (6) サンプル数(n)が100未満の属性、ならびに主な職業の「その他」、世帯構成の「その他」、年間の世帯収入の「わからない」の属性については、コメントを省略している。

6. 回答者の属性

【地域別】

「北勢地域」が44.0%と最も高く、次いで「中南勢地域」(28.6%)、「伊勢志摩地域」(14.0%)、「伊賀地域」(9.4%)、「東紀州地域」(3.9%)となっている。

【性別】

「男性」が46.8%、「女性」が51.3%となっている。

【年代別】

「60歳代」が24.6%と最も高く、次いで「70歳以上」(21.3%)、「50歳代」(17.5%)、「40歳代」(15.1%)、「30歳代」(13.1%)、「20歳代」(6.6%)となっている。

【主な職業別】

「企業、役所、団体、病院などの正規職員」が26.2%と最も高く、次いで「無職」(21.8%)、「パート、アルバイト、派遣社員など」(17.5%)、「専業主婦、専業主夫」(13.6%)、「自営業、自由業」(10.9%)などとなっている。

【結婚別】

「既婚」が74.3%と最も高く、次いで「未婚」(12.6%)、「離婚・死別」(10.6%)となっている。

【世帯構成別】

「二世帯世帯」が45.1%と最も高く、次いで「一世帯世帯」(29.8%)、「三世帯世帯」(14.2%)、「単身世帯」(7.4%)となっている。

【世帯全体の年間収入別】

「100万円以上～300万円未満」が27.2%と最も高く、次いで「300万円以上～500万円未満」(26.9%)、「500万円以上～1,000万円未満」(26.0%)、「1,000万円以上」(6.5%)、「100万円未満」(5.6%)となっている。

図表1-6-1 回答者の属性

属性	属性項目	件数	構成比
地域	北勢地域	2,515	44.0
	伊賀地域	535	9.4
	中南勢地域	1,635	28.6
	伊勢志摩地域	801	14.0
	東紀州地域	224	3.9
	不明	0	0.0
性別	男性	2,675	46.8
	女性	2,931	51.3
	不明	104	1.8
年代	20歳代	377	6.6
	30歳代	746	13.1
	40歳代	865	15.1
	50歳代	1,002	17.5
	60歳代	1,404	24.6
	70歳以上	1,219	21.3
	不明	97	1.7
	主な職業	農林水産業	213
自営業、自由業		621	10.9
正規職員		1,496	26.2
パート・アルバイト・派遣		1,000	17.5
専業主婦・主夫		776	13.6
学生		77	1.3
無職		1,246	21.8
その他		152	2.7
不明		129	2.3
結婚	未婚	719	12.6
	既婚	4,242	74.3
	離婚・死別	607	10.6
	不明	142	2.5
世帯構成	単身世帯	421	7.4
	一世帯世帯	1,701	29.8
	二世帯世帯	2,578	45.1
	三世帯世帯	809	14.2
	その他	81	1.4
	不明	120	2.1
世帯全体の年間収入	100万円未満	317	5.6
	100～300万円未満	1,551	27.2
	300～500万円未満	1,535	26.9
	500～1,000万円未満	1,483	26.0
	1,000万円以上	371	6.5
	わからない	272	4.8
	不明	181	3.2
有効回答数		5,710	100.0

調査結果（県全体）

1. 幸福感について

【問1 - 1】現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけで囲んでください。（は1つだけ）

とても 不幸	0点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10点	とても 幸せ
-----------	----	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-----	-----------

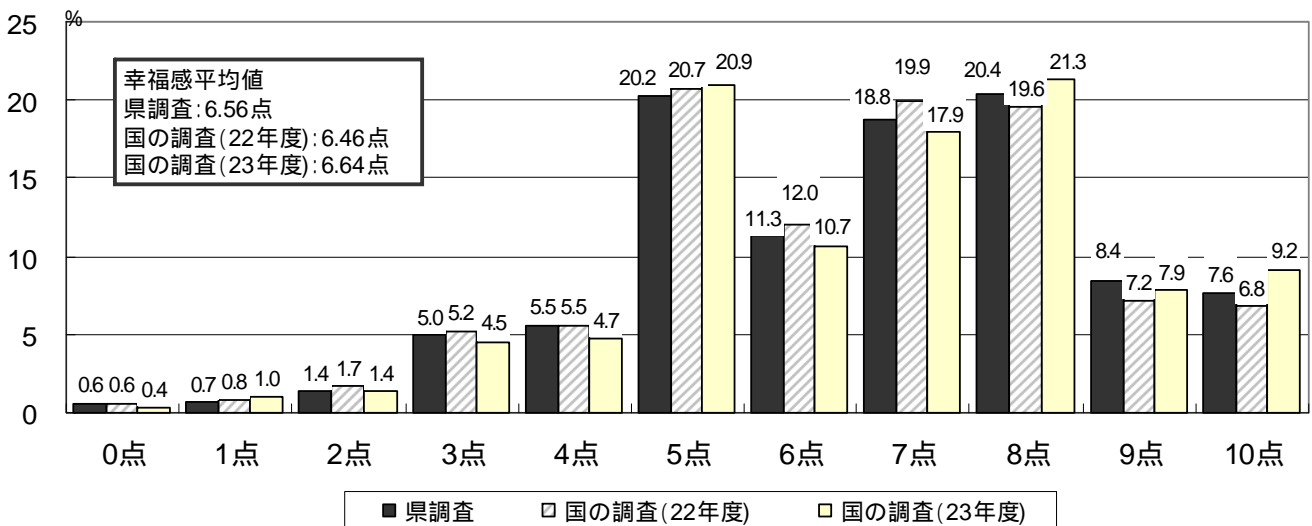
（日ごろ感じている幸福感について）

日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について、内閣府の国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）の質問に準じ、10点満点で質問したところ、平均値は6.56点となっている。分布をみると、「8点」が20.4%と最も高く、次いで「5点」が20.2%、「7点」が18.8%となっており、M字曲線を描いている。

国の調査（22年度）の平均値は6.46点となっており、「5点」が20.7%と最も高く、次いで「7点」（19.9%）、「8点」（19.6%）となっている。

なお、内閣府経済社会総合研究所が新たに平成24年3月に実施した「第1回生活の質に関する調査」においても同様の質問をしており、その結果によれば、幸福感の平均値は6.64点となっている。

図表2-1-1 日ごろ感じている幸福感の平均値と分布(国の調査との比較)



国の調査は、15歳以上を対象としていることや、調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法であることなど、本県の調査方法と異なる点がある。

国の調査（22年度）…平成22年度国民生活選好度調査（内閣府、平成23年3月実施、n=3,569）

国の調査（23年度）…第1回生活の質に関する調査（内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施、n=6,451）

【問1 - 2】幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてに をつけてください。(はいくつでも)

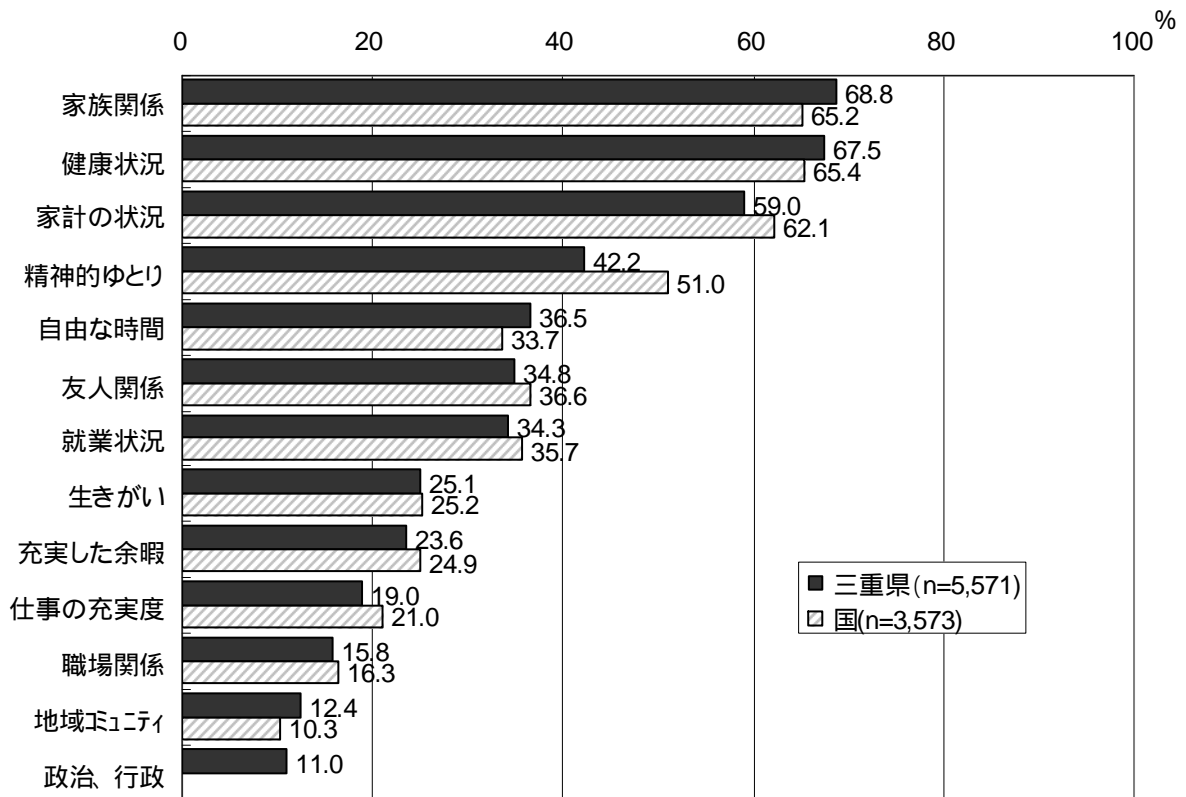
1	家計の状況(所得・消費)	8	趣味、社会貢献などの生きがい
2	就業状況(仕事の有無・安定)	9	家族関係
3	健康状況	10	友人関係
4	自由な時間	11	職場の人間関係
5	充実した余暇	12	地域コミュニティとの関係
6	仕事の充実度	13	政治、行政
7	精神的なゆとり		

(幸福感を判断する際に重視した事項について)

幸福感を判断する際に重視した事項では、「家族関係」が68.8%と最も高く、次いで「健康状況」(67.5%)、「家計の状況(所得・消費)」(59.0%)、「精神的なゆとり」(42.2%)となっている。

国の調査によると、「健康状況」が65.4%と最も高く、次いで「家族関係」(65.2%)、「家計の状況」(62.1%)となっている。国の調査と比較すると、重視した事項に大きな差はみられないが、「家計の状況(所得・消費)」、「精神的なゆとり」などの割合は三重県調査の方が国の調査よりやや低くなっている。

図表2-1-2 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(国の調査との比較)



国の調査・・・平成22年度国民生活選好度調査(内閣府、平成23年3月実施)。なお、「政治、行政」の選択肢はない。

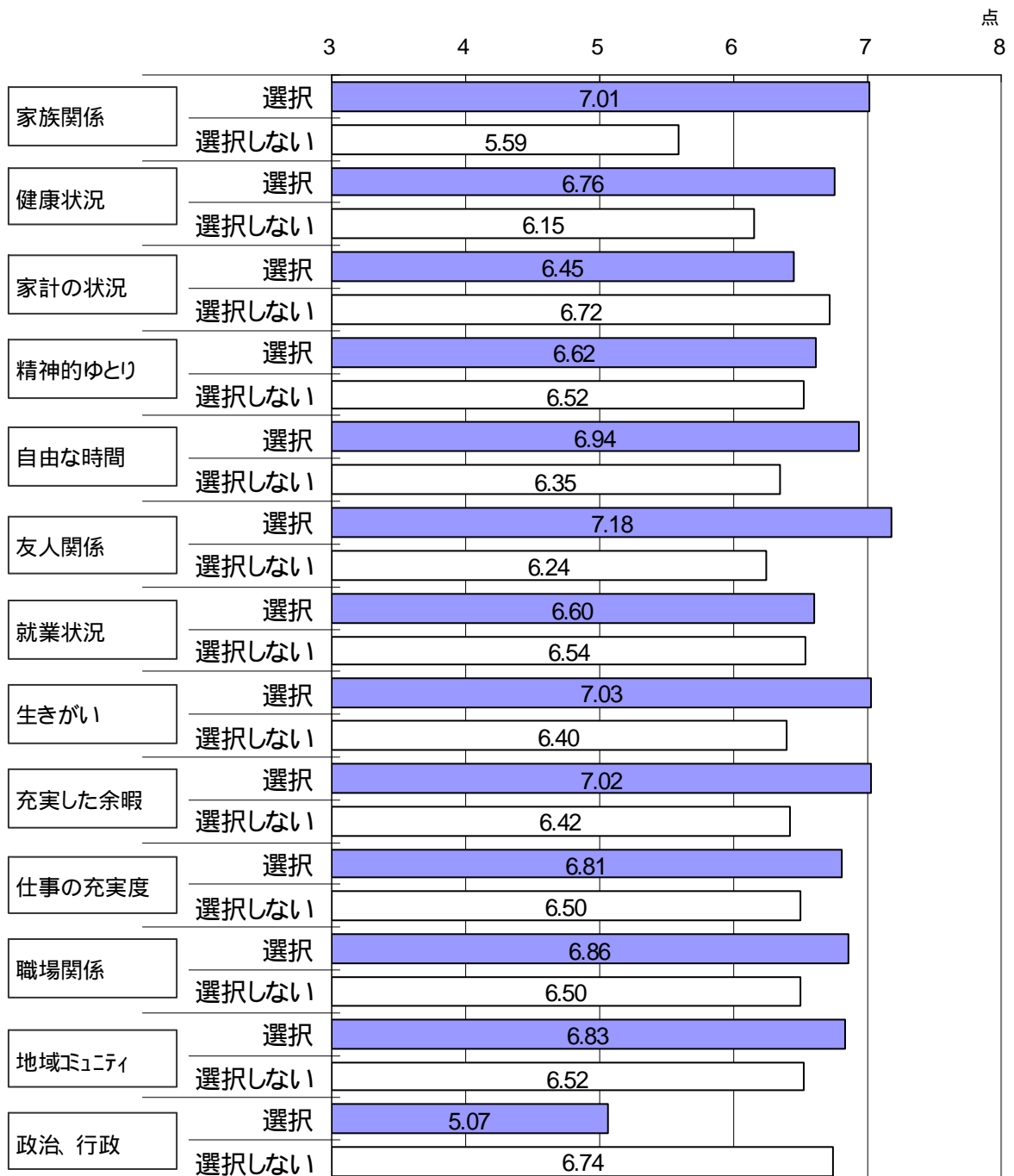
「第1回生活の質に関する調査」(内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施)にこの質問は含まれていない。

(幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係について)

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した人の幸福感の平均値と、選択しなかった人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族関係」が最も差が大きく、選択した(重視する)人は7.01点で、選択しなかった(重視しない)人(5.59点)より1.42点高くなっている。

また、「家計の状況(所得・消費)」と「政治、行政」の2項目について、選択した(重視する)人は選択しなかった(重視しない)人より幸福感は低くなっている。

図表2-1-3 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した人と選択しない人の幸福感の平均値



2. 地域や社会の状況について

【問2】地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

- (1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。
- (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。
- (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしていると感じますか。
- (4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。
- (5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。
- (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。
- (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。
- (8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。
- (9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。
- (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。
- (11) 文化芸術や地域の歴史等について学び親しむことができると感じますか。
- (12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。
- (13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。
- (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。
- (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。
- (16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

() 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1 感じる 2 どちらかといえば感じる

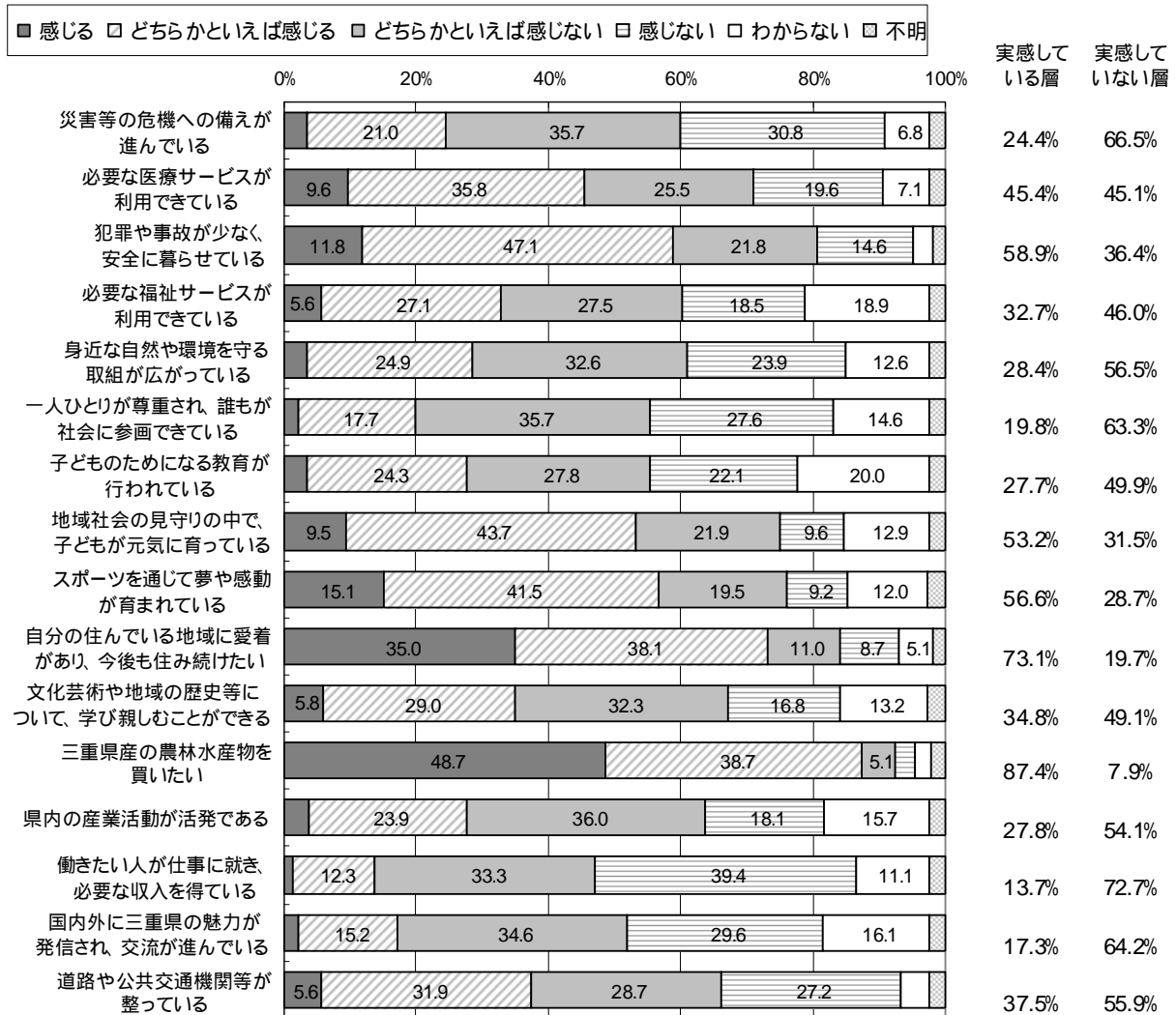
3 どちらかといえば感じない 4 感じない 9 わからない

「みえ県民カビジョン」に掲げる政策分野ごとの16の「幸福実感指標」に基づいて地域や社会の状況について実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、『三重県産の農林水産物を買いたい』が87.4%と最も高く、そのうち、「感じる」も48.7%と最も高くなっている。次いで『自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』(73.1%) 『犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』(58.9%)の順となっている。

一方、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合は、『働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が72.7%と最も高く、そのうち、「感じない」も39.4%と最も高くなっている。次いで『災害等の危機への備えが進んでいる』(66.5%) 『国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』(64.2%)の順となっている。

下の図表2-2-1に記載の「実感している層」の割合は、「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を合計したものであり、「実感していない層」の割合は、「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を合計したものである。

図表2-2-1 地域や社会の状況について(項目別)



3. 日ごろの暮らしについて

【問3】あなた自身の日ごろの暮らしについて、実感をお聞かせください。

次の(1)から(12)までの12の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

(1) 自由な時間はありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(2) 余暇は充実していますか。

- 1 充実している 2 どちらかといえば充実している
3 どちらかといえば充実していない 4 充実していない 9 どちらともいえない

(3) 健康だと思いますか。

- 1 健康だと思う 2 どちらかといえば健康だと思う
3 どちらかといえば健康だと思わない 4 健康だと思わない 9 どちらともいえない

(4) 仕事は充実していますか。

- 1 充実している 2 どちらかといえば充実している
3 どちらかといえば充実していない 4 充実していない 9 どちらともいえない

(5) 生きがいにしているものはありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(6) 精神的なゆとりはありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(7) ご家族との関係は良好ですか。

- 1 良好である 2 どちらかといえば良好である
3 どちらかといえば良好でない 4 良好でない 9 どちらともいえない

(8) いざという時に相談できる友人や知人はいますか。

- 1 いる 2 どちらかといえばいる
3 どちらかといえばいない 4 いない 9 どちらともいえない

(9) 職場での人間関係は良好ですか。

- 1 良好である 2 どちらかといえば良好である
3 どちらかといえば良好でない 4 良好でない 9 どちらともいえない

(10) ご近所付き合いや、地域での活動(自治会、青年団、子供会など)はされていますか。

- 1 している 2 どちらかといえばしている
3 どちらかといえばしていない 4 していない 9 どちらともいえない

(11) 日常生活を営むうえで必要な収入はありますか。

- 1 ある 2 どちらかといえばある
3 どちらかといえばない 4 ない 9 どちらともいえない

(12) あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

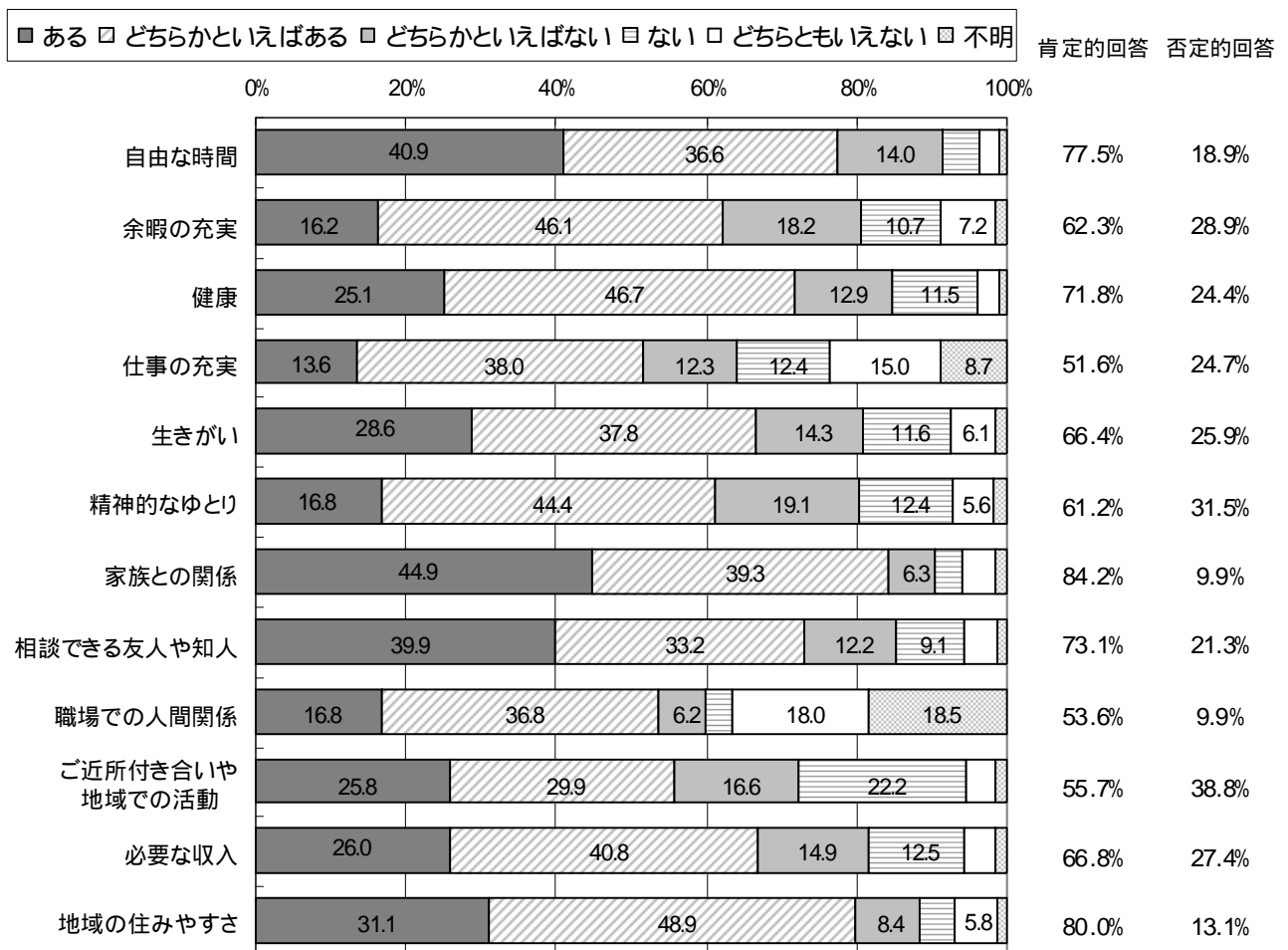
- 1 住みやすい 2 どちらかといえば住みやすい
3 どちらかといえば住みにくい 4 住みにくい 9 どちらともいえない

日ごろの暮らしについての12項目の実感を聞いたところ、肯定的回答の割合は『家族との関係』が84.2%と最も高く、そのうち、「良好である」も44.9%と最も高くなっている。次いで『地域の住みやすさ』が80.0%と高く、『自由な時間』、『健康』、『相談できる友人や知人』も7割以上と高くなっている。

一方、否定的回答の割合は『ご近所付き合いや地域での活動』が38.8%と最も高く、そのうち、「していない」も22.2%と最も高くなっている。次いで『精神的なゆとり』が31.5%と高く、『余暇の充実』、『必要な収入』、『生きがい』も25.0%以上となっている。

- 1 問3の選択肢は項目によって異なるため、下記の通り、「ある」、「どちらかといえばある」、「どちらかといえばない」、「ない」を代表的なものとして表記した。
- 肯定的回答
- ・「ある」は、「している」、「良好である」、「思う」、「いる」、「住みやすい」を含む。
 - ・「どちらかといえばある」は、「どちらかといえばしている」、「どちらかといえば良好である」、「どちらかといえば思う」、「どちらかといえばいる」、「どちらかといえば住みやすい」を含む。
- 否定的回答
- ・「ない」は、「していない」、「良好でない」、「思わない」、「いない」、「住みにくい」を含む。
 - ・「どちらかといえばない」は、「どちらかといえばしていない」、「どちらかといえば良好でない」、「どちらかといえば思わない」、「どちらかといえばいない」、「どちらかといえば住みにくい」を含む。
- 2 下の図表2-3-1に記載の肯定的回答は、「ある」と「どちらかといえばある」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「ない」と「どちらかといえばない」の割合を合計したものである。

図表2-3-1 日ごろの暮らしについて(項目別)



今回の調査では、個別テーマに関する質問として、「食の安全・安心」、「観光振興」、「地球温暖化対策」も合わせてお聞きしています。

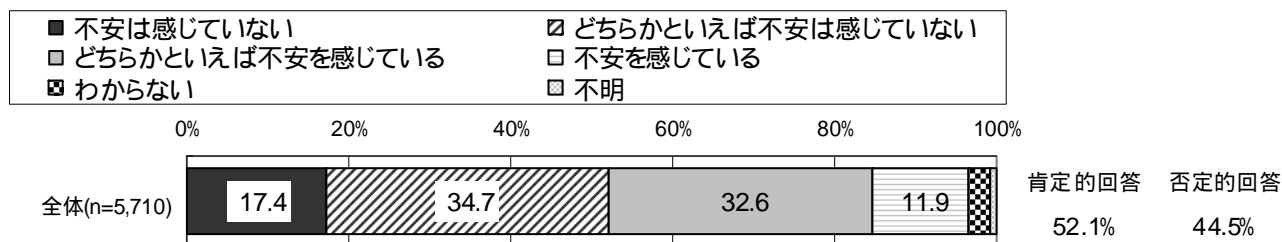
4. 食の安全・安心について（個別テーマ）

【問4-1】あなたは、食品の安全性について、普段どう感じていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（は1つだけ）

食品の安全性について、普段どう感じているかを質問したところ、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」を合計した割合が52.1%となっており、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」を合計した割合（44.5%）よりやや高くなっている。

下の図表2-4-1に記載の肯定的回答は、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」の割合を合計したものである。

図表2-4-1 食品の安全性について

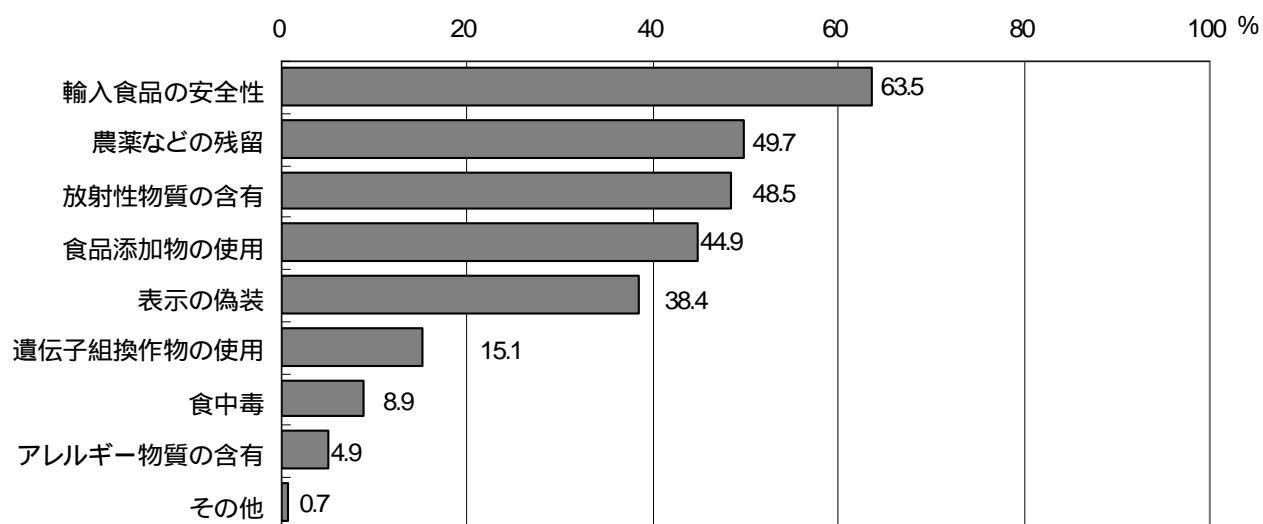


【問4 - 2】(問4 - 1で、「どちらかといえば不安を感じている」、「不安を感じている」と答えた方のみ)

あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

食品の安全性について感じる不安の内容は、「輸入食品の安全性」が63.5%と最も高く、次いで「農薬や動物用医薬品(抗生物質など)の残留」(49.7%)、「放射性物質の含有」(48.5%)、「食品添加物の使用」(44.9%)となっている。

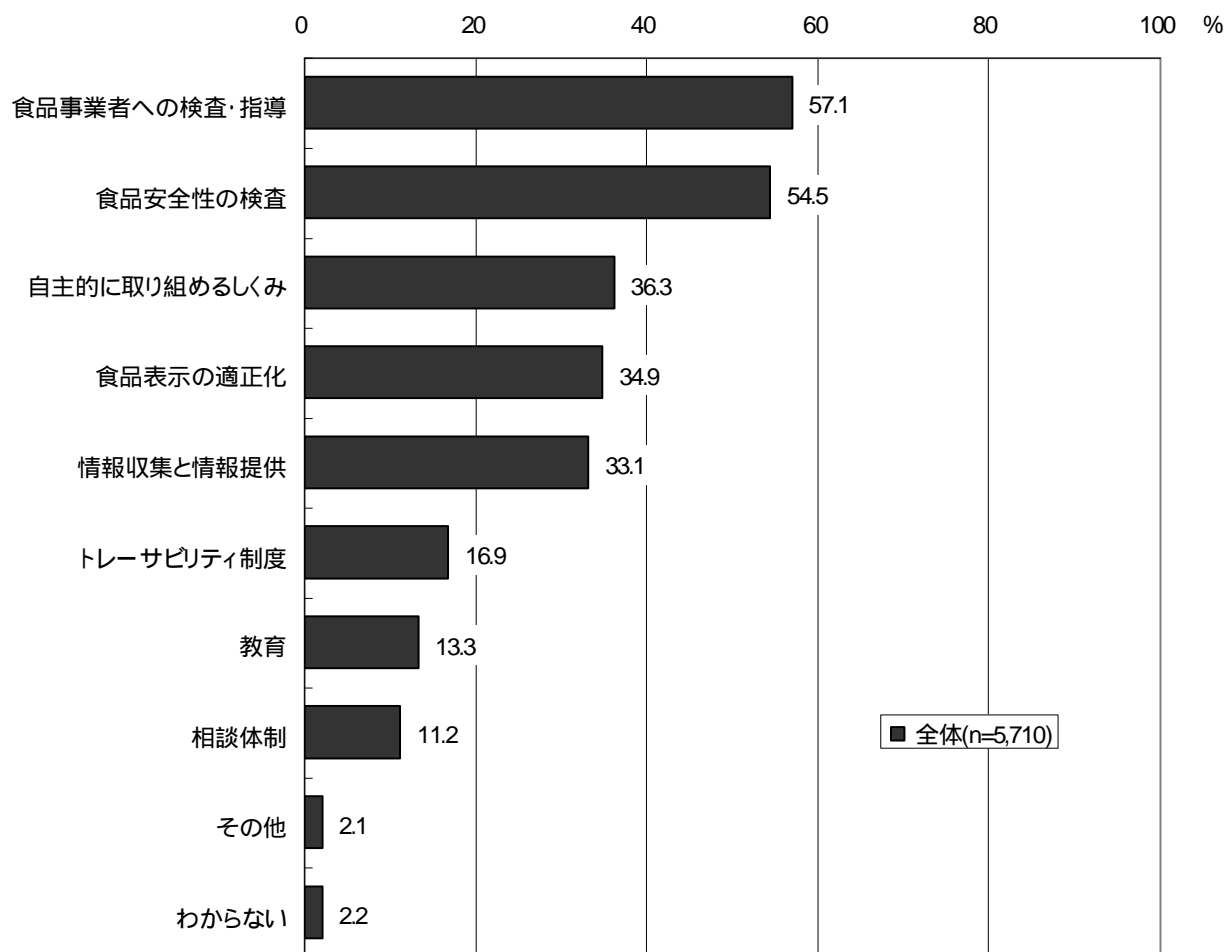
図表2-4-2 食品の安全性について感じる不安(複数回答)



【問4 - 3】あなたが食品の安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

食品の安心のために行政に期待する取組については、「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が57.1%と最も高く、次いで「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」(54.5%)、「生産者などが食の安全・安心の確保に自主的に取り組めるしくみ(みえの安心食材表示制度など)を推進する」(36.3%)となっている。

図表2-4-3 食品の安心を得るために、行政に期待する取組(複数回答)



5. 観光振興について（個別テーマ）

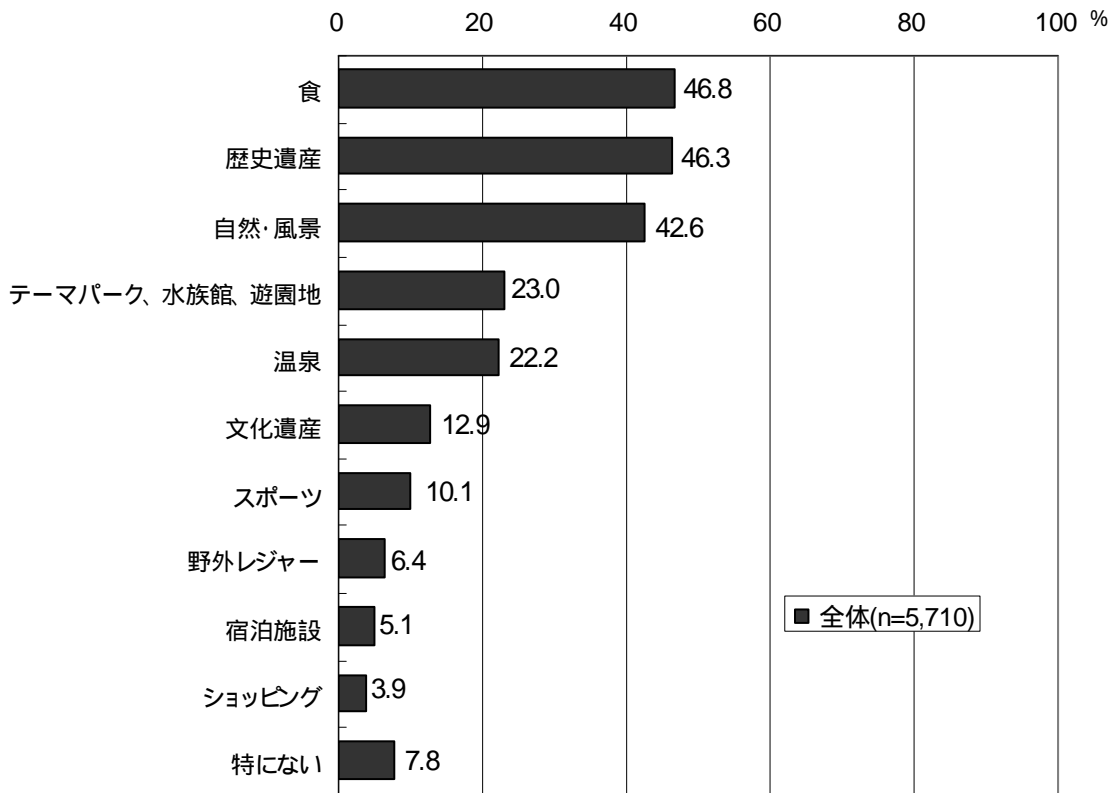
【問5 - 1】あなたが県外の友人等に勧めたいと思う三重県の観光施設や観光資源はどのようなものですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。（は3つまで）

また、 をつけた項目の中で、特に勧めたいと思う観光施設や観光資源があれば、〔 〕に具体例をご記入ください。

県外の友人等に勧めたいと思う三重県の観光施設や観光資源については、「食（海の幸や山の幸）」が46.8%と最も高く、次いで「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」（46.3%）、「自然・風景（山・川・海）」（42.6%）となっている。

具体例では、「歴史遺産」が最も多く、伊勢神宮のほか、熊野古道や関宿などが挙げられている。次いで、松阪牛や海産物などの「食」、伊勢志摩や御在所（ロープウェイ含む）などの「自然・風景」となっている。

図表2-5-1 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源（複数回答）



図表2-5-2 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源の具体例（複数回答）

歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）	1,815	自然・風景（山・海・川）	1,211
うち 伊勢神宮	1,287	うち 伊勢志摩	172
うち 熊野古道	65	うち 御在所（ロープウェイ含む）	102
うち 関宿	61	うち 熊野古道	95
食（海の幸や山の幸）	1,390	テーマパーク、水族館、遊園地	1,048
うち 松阪牛	297	鳥羽水族館	278
うち 伊勢志摩の海産物・海鮮料理	179	ナガシマスパーランド	248
うち 海産物	108	ナガシマリゾート	117

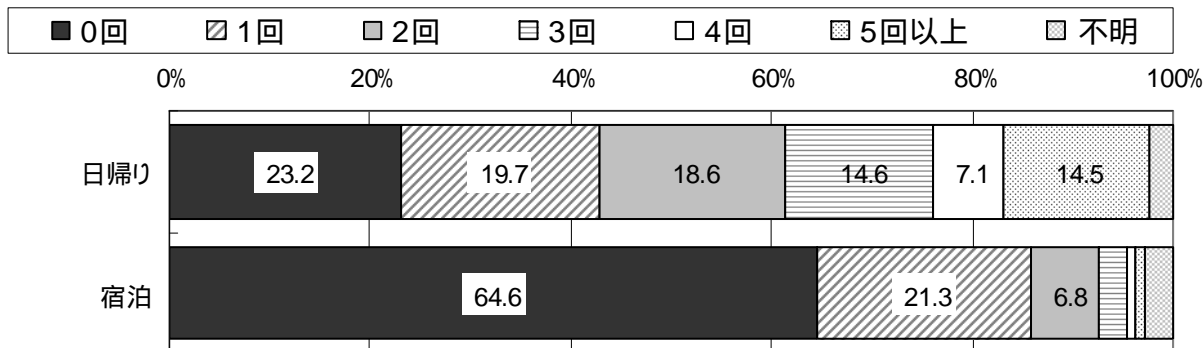
【問5 - 2】あなたは、この1年間に日帰りで観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内の各観光地（観光施設）を、どのくらい訪れましたか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。1日に2カ所以上訪れた場合も1回と数えてください。（は1つだけ）

【問5 - 3】あなたが、この1年間に宿泊をともなって観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内を旅行した回数はどのくらいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。2泊3日以上の場合も1回と数えてください。（は1つだけ）

1年間に日帰りで観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内の観光地（観光施設）を訪れた回数は、「0回」が23.2%で最も高く、次いで「1回」（19.7%）、「2回」（18.6%）となっている。

また、1年間に宿泊をともなって県内を旅行した回数は、「0回」が64.6%と突出して高く、次いで「1回」の21.3%、「2回」の6.8%となっている。

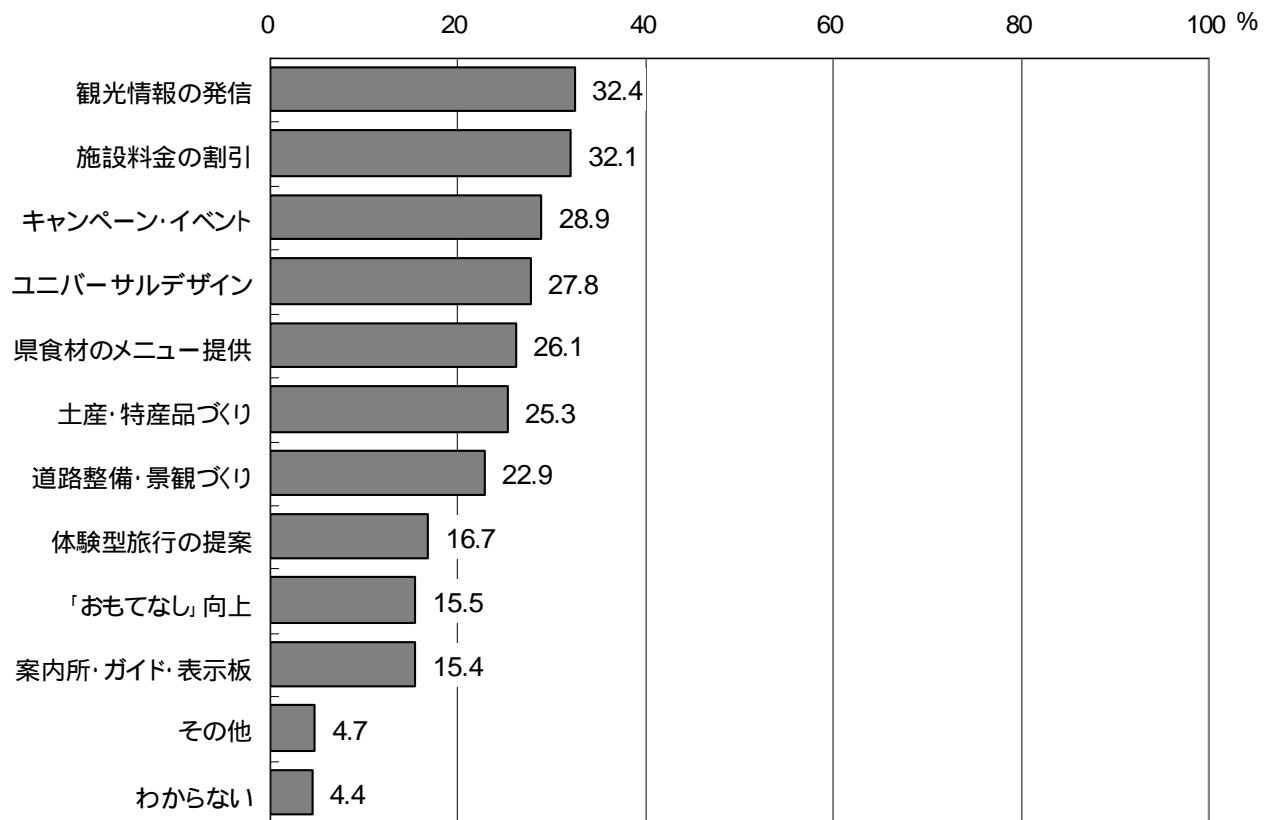
図表2-5-3 県内の観光地(観光施設)へ訪れた回数



【問5 - 4】もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうためには、どのような取組が必要と思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。
(は3つまで)

もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうために必要な取組について質問したところ、「ホームページやパンフレットを活用した観光情報の発信」が32.4%で最も高く、次いで「施設の利用料金の割引(クーポンなど)」(32.1%)、「観光キャンペーンや誘客イベントの実施」(28.9%)となっている。

図表2-5-4 もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうための取組(複数回答)



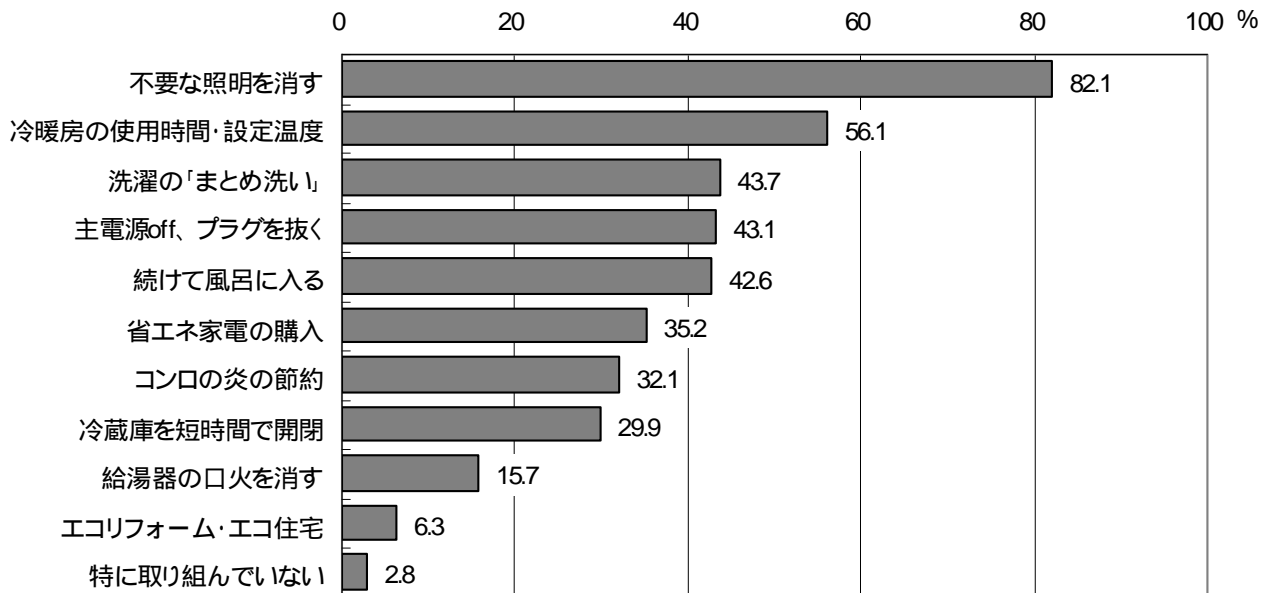
6. 地球温暖化対策について（個別テーマ）

【問6 - 1】以下の取組は、地球温暖化の防止に役立つと考えられています。
 あなたが、日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組についておたずね
 します。あなたが積極的に取り組んでいるものはどれですか。次の中からあてはまる
 ものすべてを選んでください。（はいくつでも）

日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組については、「不要な照明はこまめに消す」
 が82.1%と最も高く、次いで「冷暖房時は使用時間や設定温度に気をつける」(56.1%)、「洗濯は
 できるだけ「まとめ洗い」をする」(43.7%)となっている。

また、「特に取り組んでいない」は2.8%となっている。

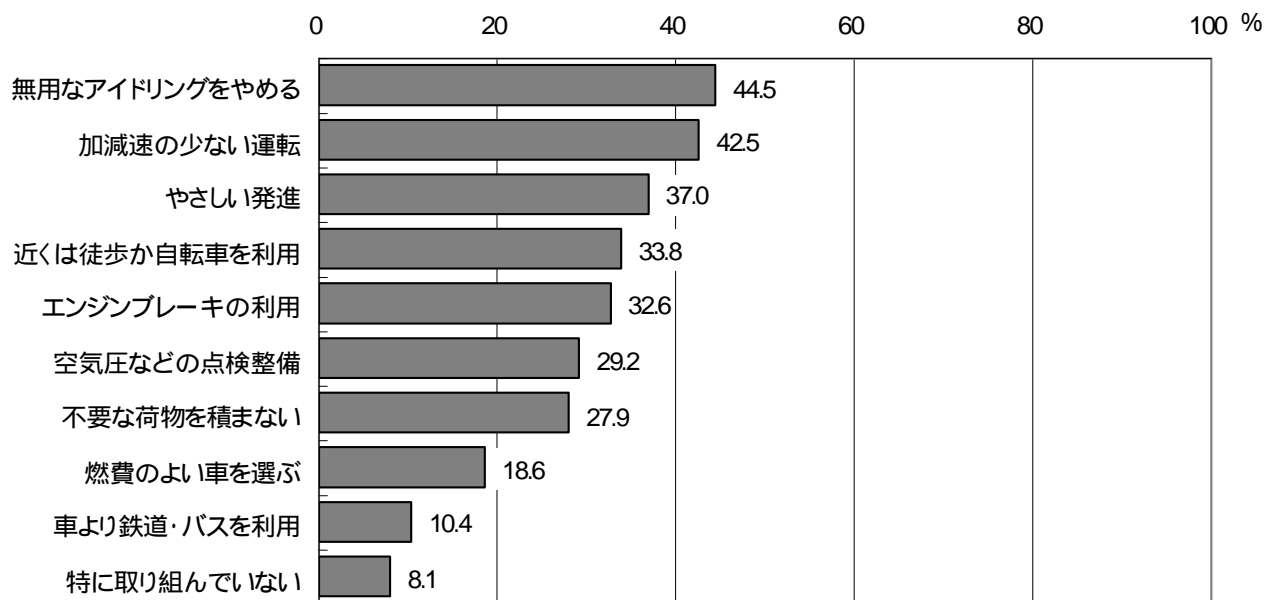
図表2-6-1 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策のための取組(複数回答)



【問6 - 2】あなたが、自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組に
 ついておたずねします。あなたが積極的に取り組んでいるものはどれですか。次の中
 からあてはまるものすべてを選んでください。（はいくつでも）

自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組については、「駐車時や停車時に無用
 なアイドリングをやめる」が44.5%と最も高く、次いで「車間距離に余裕をもって加減速の少ない
 運転をする」(42.5%)、「ふんわりアクセルでやさしい発進をする」(37.0%)となっている。

図表 2-6-2 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策のための取組(複数回答)

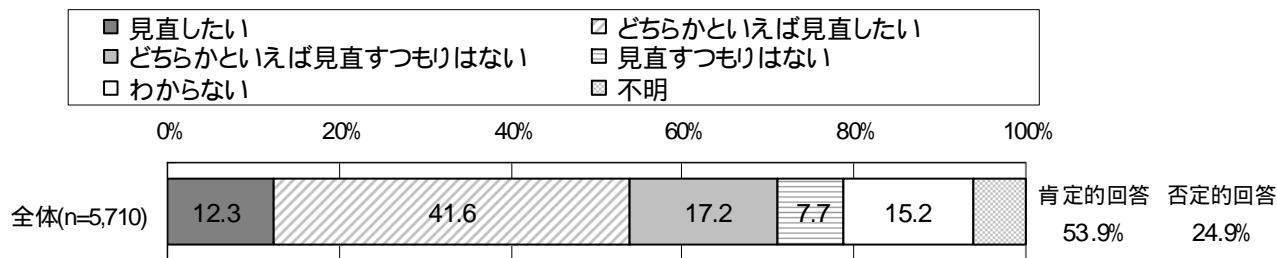


【問 6 - 3】地球温暖化を防止するためには、今の生活の仕方(ライフスタイル)を見直さなければならないという考え方がありますが、あなたはご自身のライフスタイルについてどのようにお考えですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。(は1つだけ)

地球温暖化を防止するためにライフスタイルを見直すかどうかについては、「見直したい」と「どちらかといえば見直したい」を合計した割合が 53.9%で、「見直すつもりはない」と「どちらかといえば見直すつもりはない」を合計した割合(24.9%)より高くなっている。

下の図表 2-6-3 に記載の肯定的回答は、「見直したい」と「どちらかといえば見直したい」の割合を合計したものであり、否定的回答は「見直すつもりはない」と「どちらかといえば見直すつもりはない」の割合を合計したものである。

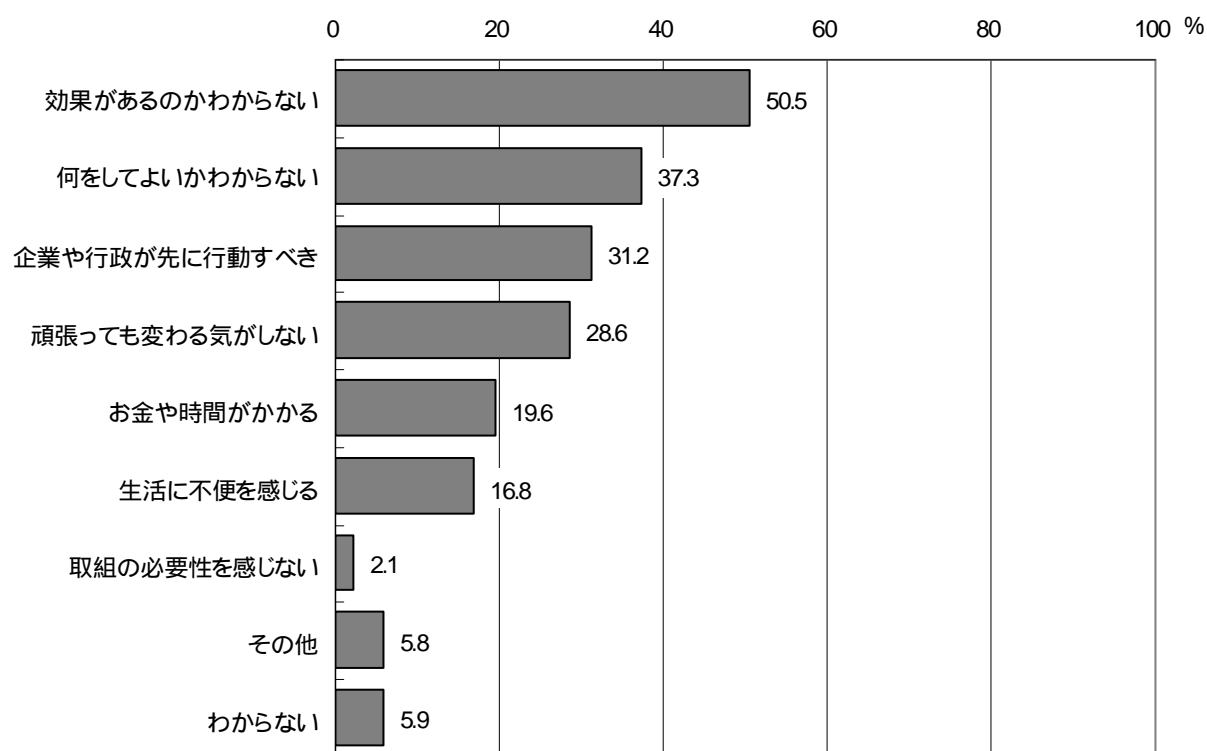
図表 2-6-3 地球温暖化防止のためにライフスタイルを見直すことについての考え方



【問 6 - 4】家庭から排出される温室効果ガスの排出量は、1990 年度に比べて 2008 年度では、約 2 割増加しており、温室効果ガスの排出削減が進んでいない現状があります。家庭での取組が進まない要因として、あなたはどのような理由があると思いますか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(はいくつでも)

家庭における温室効果ガスの排出削減に向けた取組が進まない理由を質問したところ、「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が 50.5%と最も高く、次いで「具体的に何をしてよいかかわからないから」(37.3%)、「企業や行政などが、県民より先に行動を起こすべきだと思うから」(31.2%)となっている。

図表 2-6-4 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)



調査結果（属性別集計）

1. 幸福感

問1-1 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。いずれかの数字を1つだけ で囲んでください。（は1つだけ）

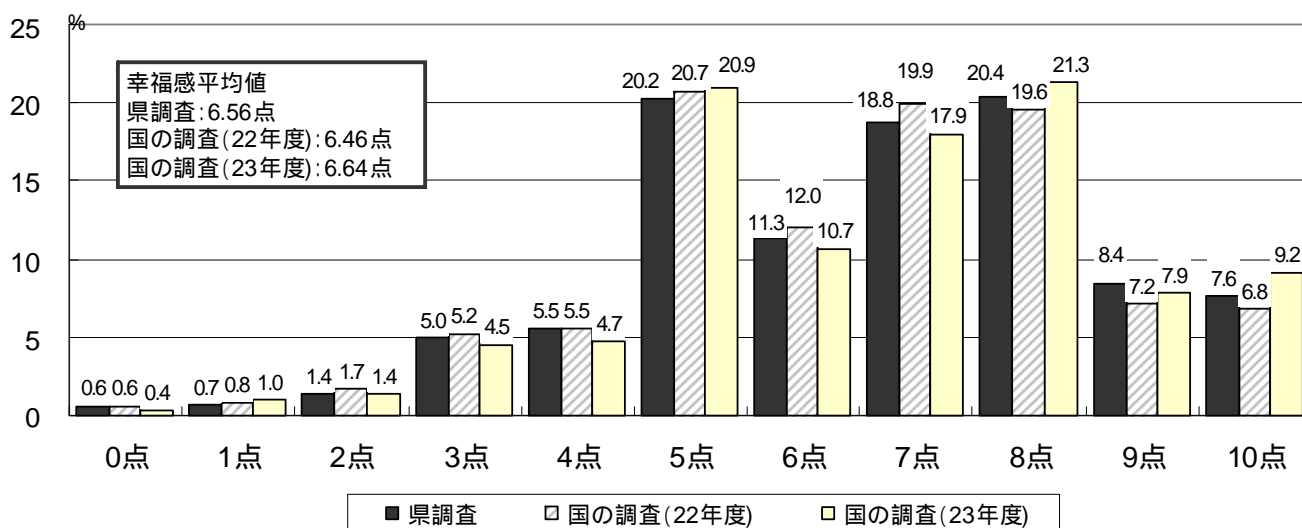
日ごろ感じている幸福感（以下、「幸福感」と記載）について、内閣府の国民生活選好度調査（以下、「国の調査」と記載）の質問に準じ、10点満点で質問したところ、平均値は6.56点となっている。

分布をみると、「8点」が20.4%と最も高く、次いで「5点」が20.2%、「7点」が18.8%となっており、M字曲線を描いている。

国の調査（22年度）の平均値は6.46点となっており、「5点」が20.7%と最も高く、次いで「7点」（19.9%）、「8点」（19.6%）となっている。

なお、内閣府経済社会総合研究所が新たに平成24年3月に実施した「第1回生活の質に関する調査」においても同様の質問をしており、その結果によれば、幸福感の平均値は6.64点となっている。

図表3-1-1 日ごろ感じている幸福感の平均値と分布(国の調査との比較)



国の調査は、15歳以上を対象としていることや、調査員が調査票を配布、回収する訪問留置法であることなど、本県の調査方法と異なる点がある。

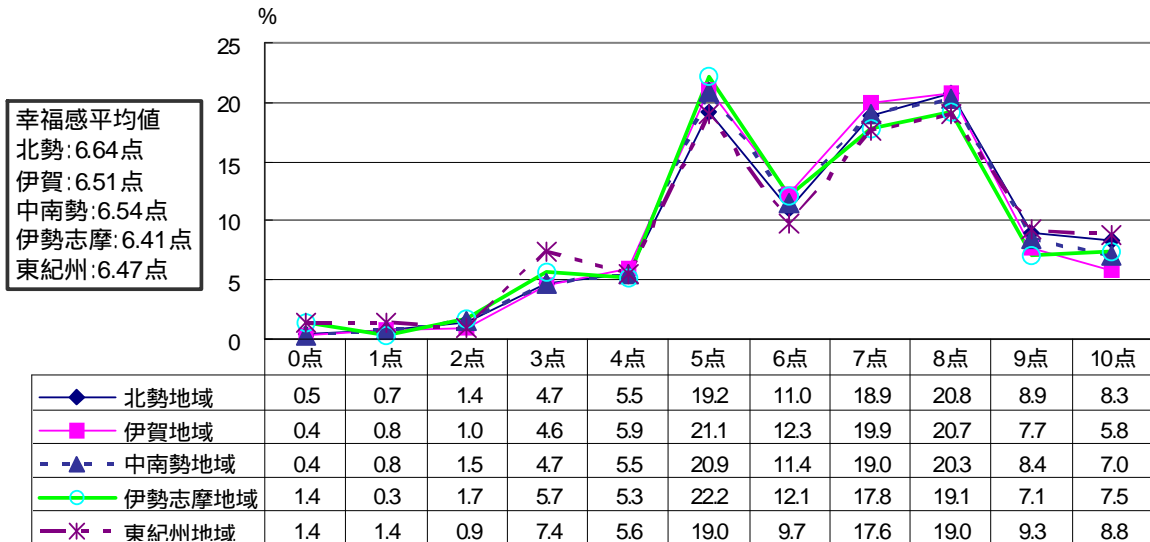
国の調査（22年度）…平成22年度国民生活選好度調査（内閣府、平成23年3月実施、n=3,569）

国の調査（23年度）…第1回生活の質に関する調査（内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施、n=6,451）

【地域別】

幸福感の平均値は、北勢地域が 6.64 点で最も高く、次いで中南勢地域が 6.54 点、伊賀地域が 6.51 点、東紀州地域が 6.47 点、伊勢志摩地域が 6.41 点となっている。

図表 3-1-2 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(地域別)



【性別】

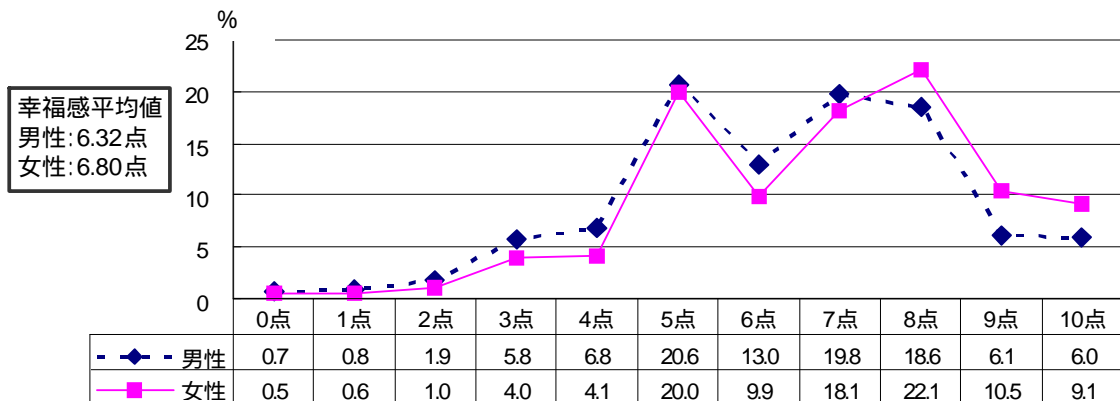
幸福感の平均値は、女性が 6.80 点で、男性 (6.32 点) より高くなっている。

国の調査においても、平均値は女性の方が男性より高くなっている。

分布をみると、男性は「5点」(20.6%)、女性は「8点」(22.1%) が最も多くなっている。

また、女性は7点以上が 59.8%を占める一方、男性では 50.5%となっている。

図表 3-1-3 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(性別)

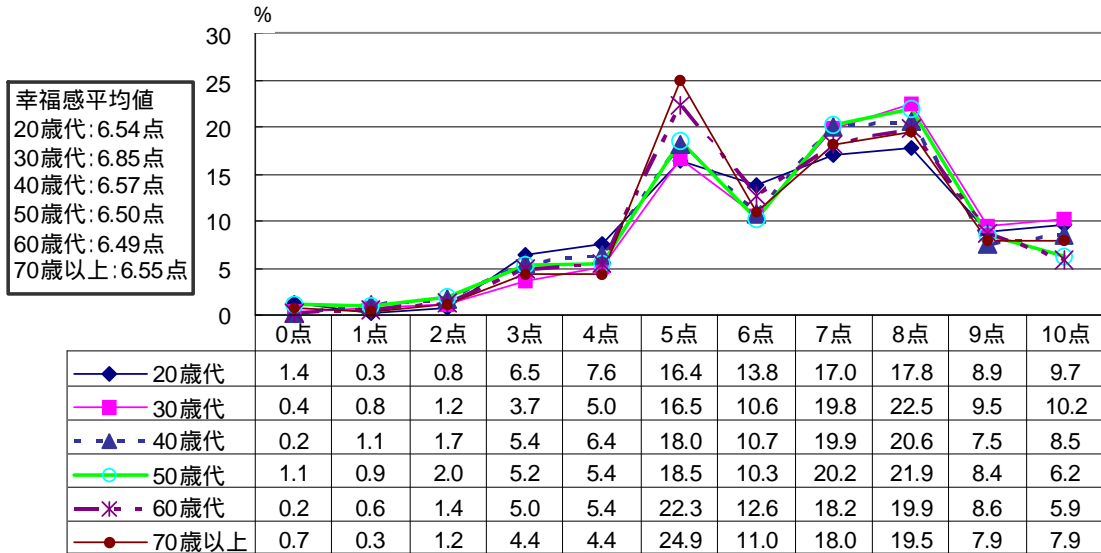


【年代別】

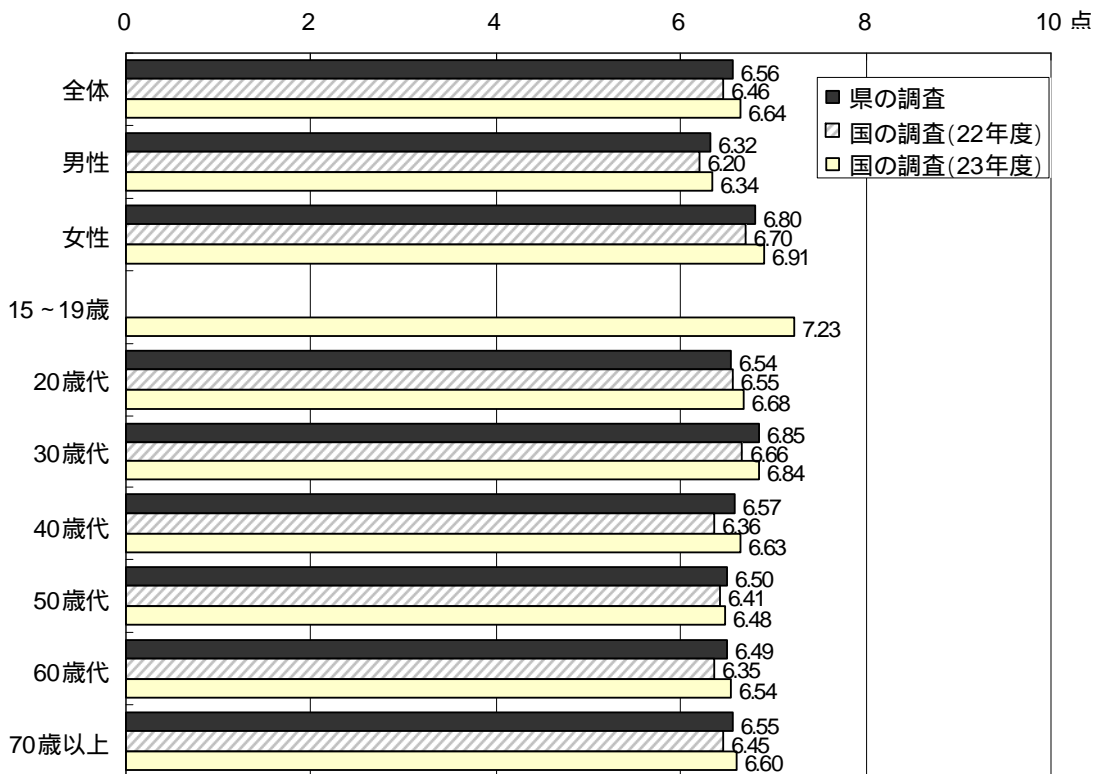
30歳代の平均値が6.85点と最も高く、次いで40歳代(6.57点)、70歳以上(6.55点)となっている。分布をみると、20歳代から50歳代は「8点」、60歳代以上は「5点」が最も高く、特に、30歳代は7点以上の割合が61.8%と高くなっている。

国の調査(22年度)によると、30歳代が6.66点と最も高く、次いで20歳代が6.55点、70歳以上が6.45点となっている。

図表3-1-4 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(年代別)



図表3-1-5 日ごろ感じている幸福感平均値(性別、年代別による国の調査との比較)



国の調査(22年度)・・・平成22年度国民生活選好度調査(内閣府、平成23年3月実施)

国の調査(23年度)・・・第1回生活の質に関する調査(内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施)

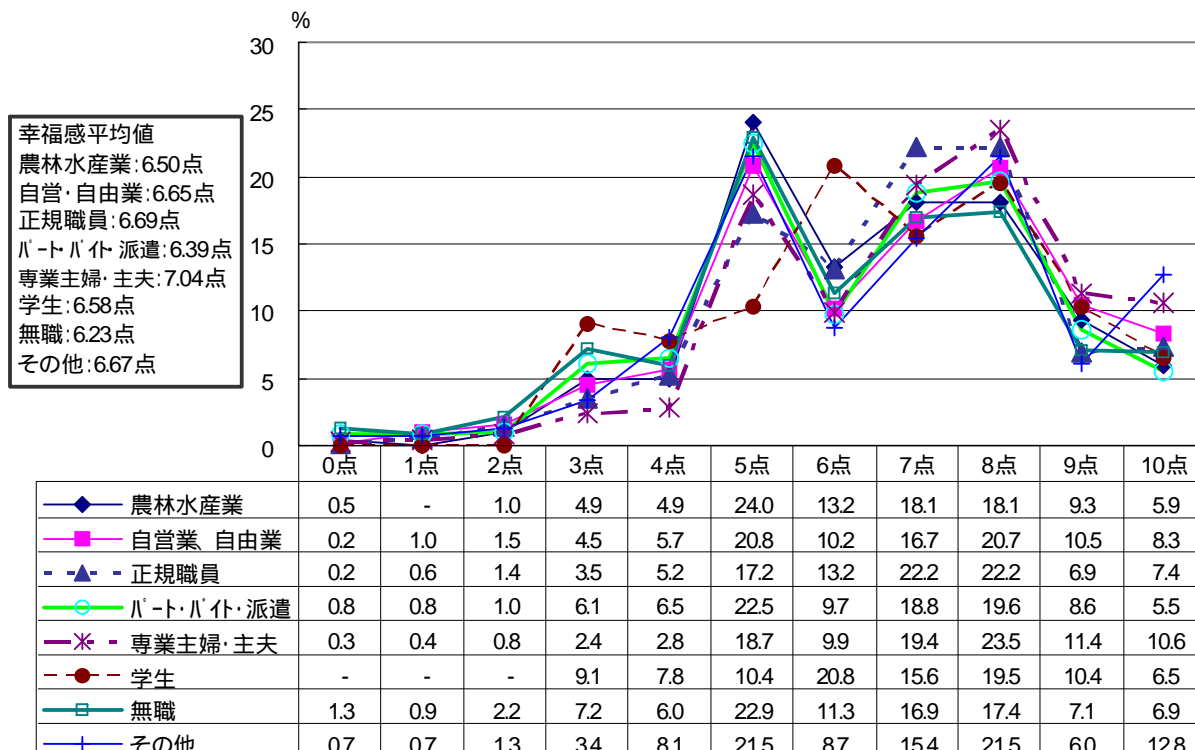
国の調査は15歳以上を調査対象とし、国の調査(22年度)では15~29歳で集計しているが、ここでは20歳代として示した。

【主な職業別】

専業主婦・主夫の平均値が7.04点と最も高く、次いで正規職員(6.69点)、自営業・自由業(6.65点)となっている。一方、無職は6.23点とやや低くなっている。

7点以上の割合は、専業主婦・主夫が64.8%と高い一方、無職は48.3%と低くなっている。

図表3-1-6 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(主な職業別)



グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

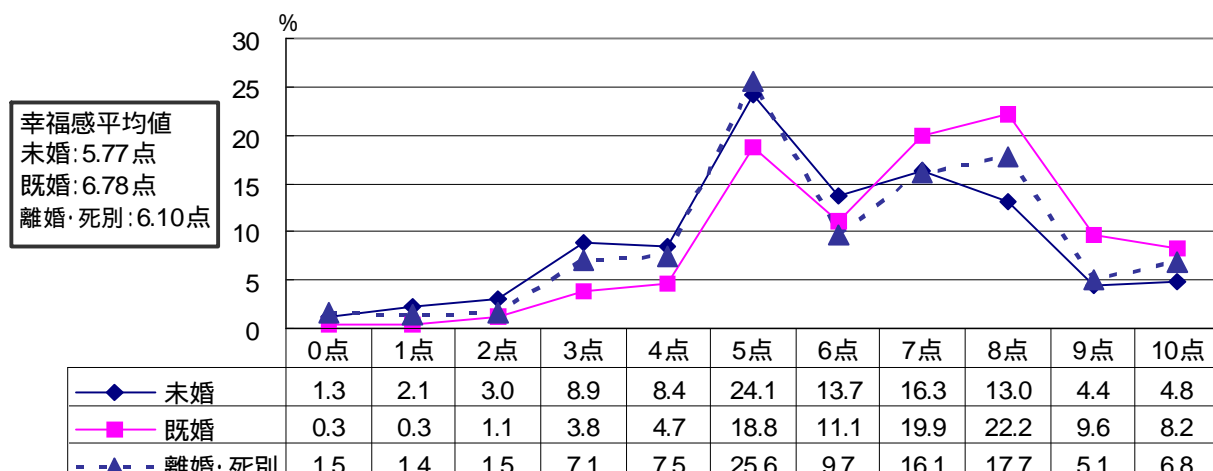
【結婚別】

既婚が6.78点と高く、離婚・死別(6.10点)、未婚(5.77点)の順となっている。

未婚は7点以上の割合が38.5%と低く、4点以下の割合が23.6%と高くなっている。

離婚・死別も未婚と同様に、7点以上が45.7%と低く、4点以下の割合が19.0%と高くなっている。

図表3-1-7 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(結婚別)

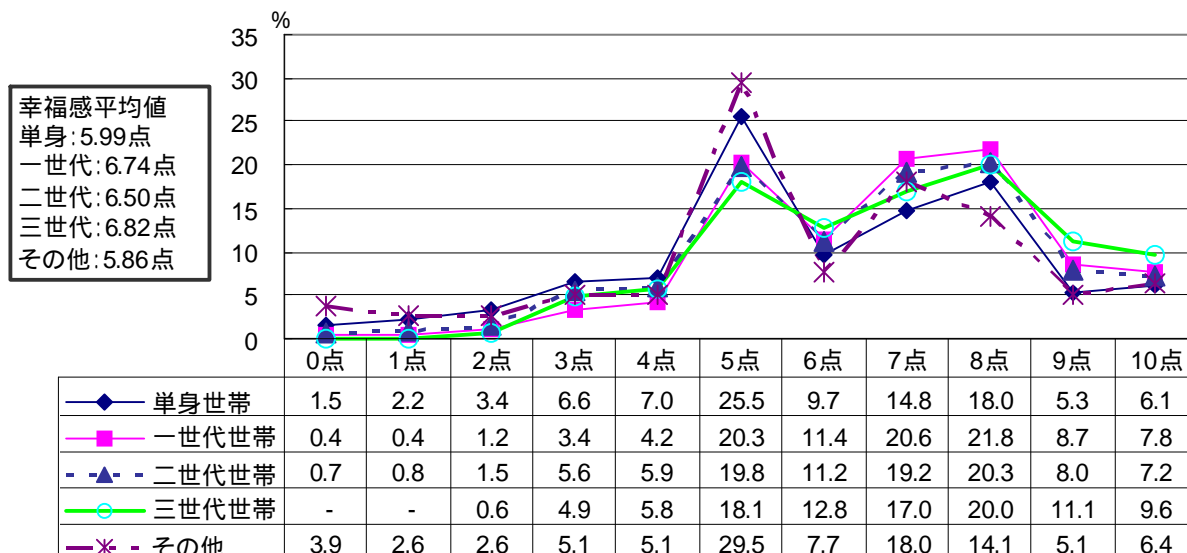


グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

【世帯構成別】

三世帯世帯が6.82点と最も高く、次いで一世代世帯(6.74点)、二世帯世帯(6.50点)となっている。単身世帯は5.99点と低く、7点以上の割合は44.2%となっている。

図表3-1-8 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(世帯構成別)



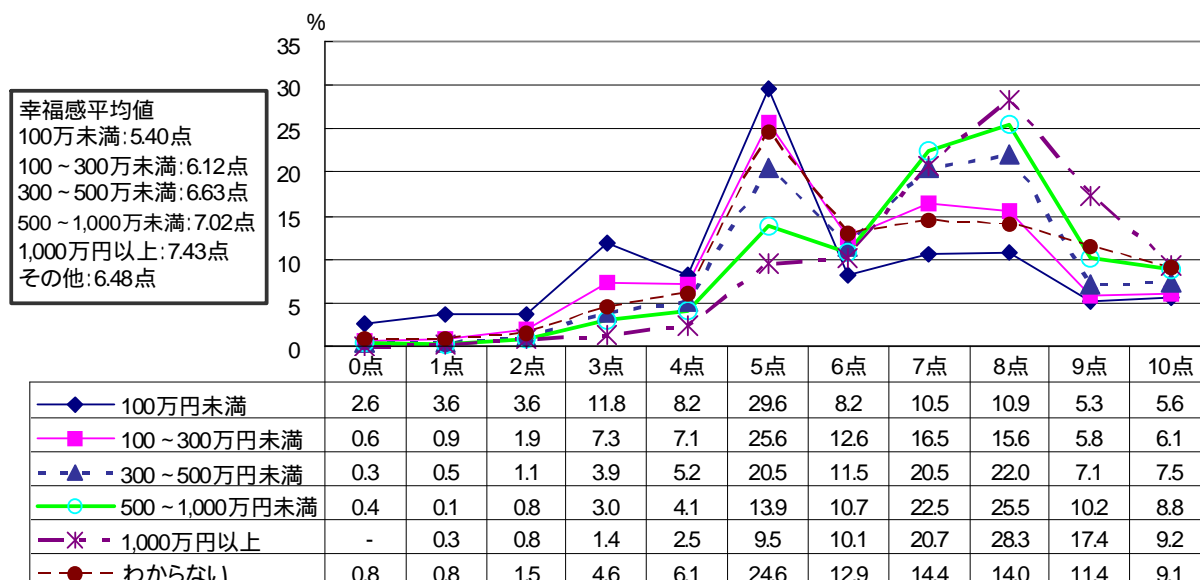
グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

【世帯全体の年間収入別】

1,000万円以上は7.43点と高い一方、100万円未満は5.40点と低く、世帯全体の年間収入額が高くなるほど平均値も高くなっている。

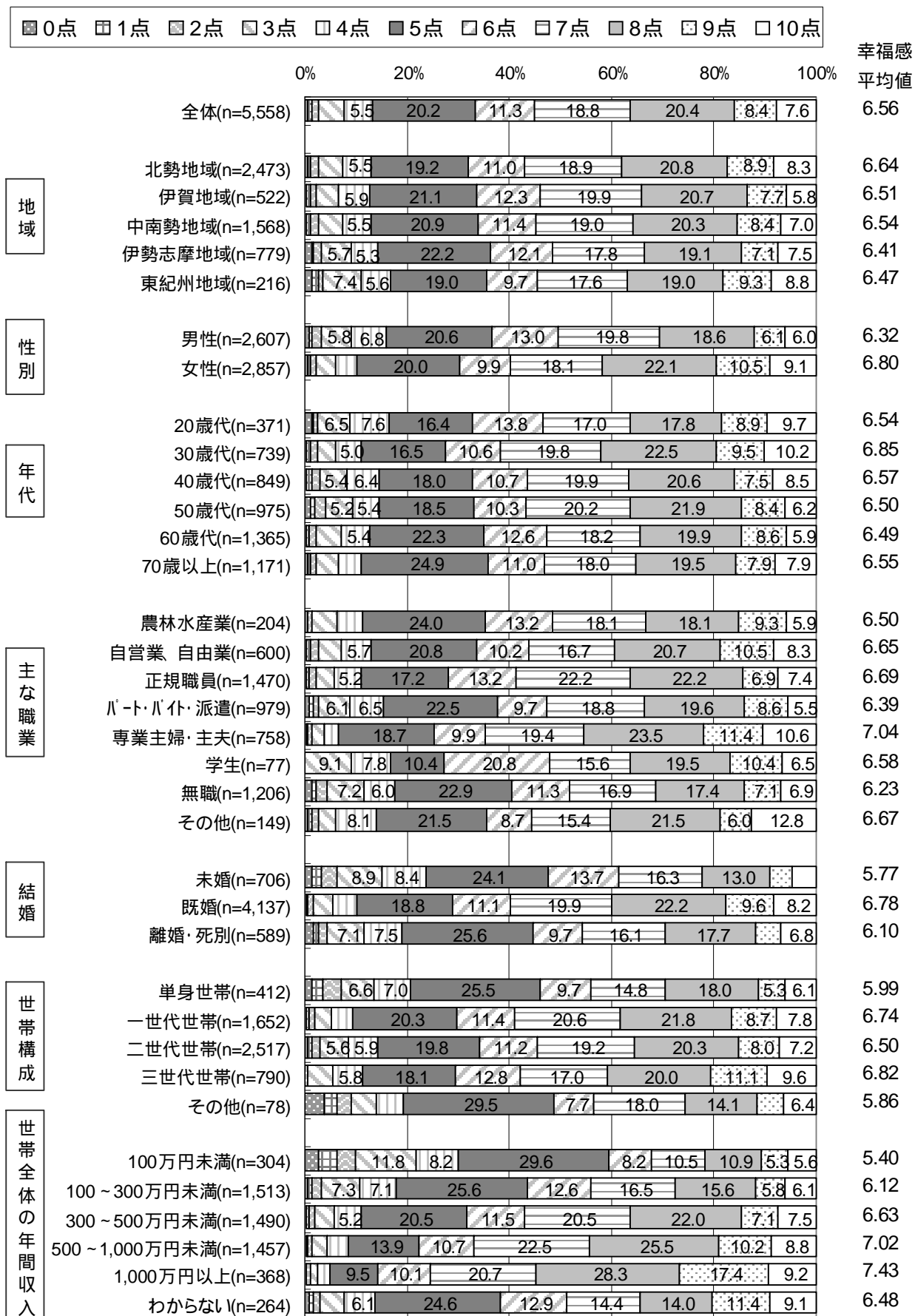
7点以上の割合は、1,000万円以上は75.5%と高い一方、100万円未満は32.2%、100~300万円は44.0%と低くなっている。4点以下の割合では、1,000万円以上は4.9%と低い一方、100万円未満は29.9%、100~300万円未満は17.8%と高くなっている。

図表3-1-9 日ごろ感じている幸福感平均値と分布(世帯全体の年間収入別)



グラフでは、それぞれの点数の割合を小数点第2位以下を四捨五入しており、説明文の数値と合わないことがある。

図表3-1-10 日ごろ感じている幸福感平均値と分布

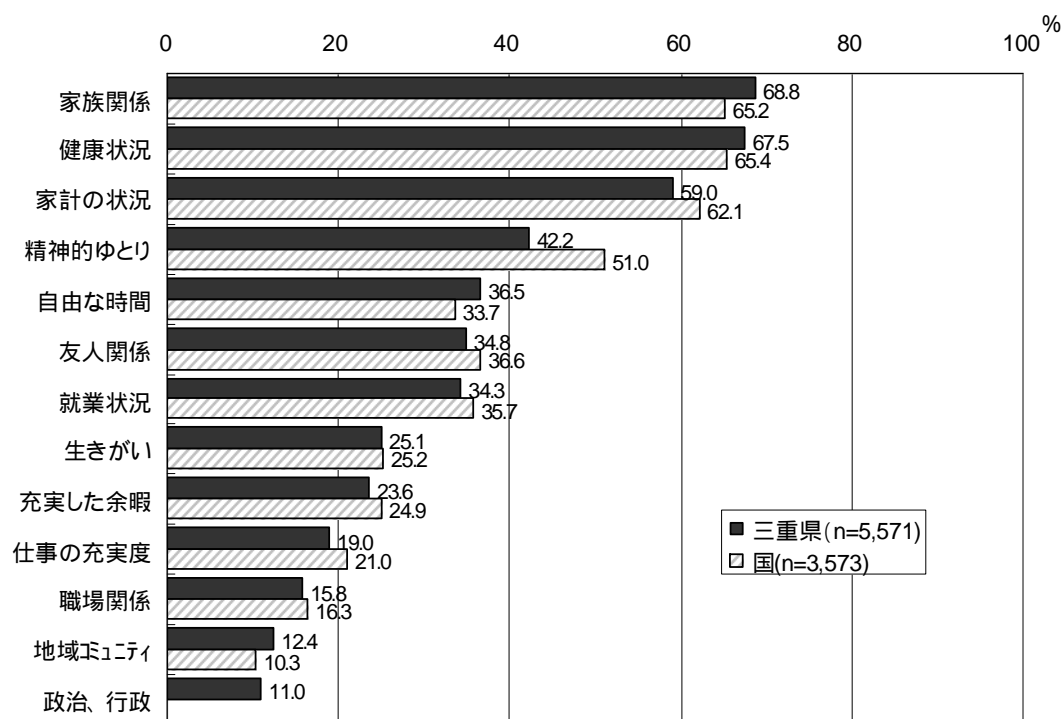


問1-2 幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。次の中からあてはまるものすべてにをつけてください。(はいいくつでも)

幸福感を判断する際に重視した事項では、「家族関係」が68.8%と最も高く、次いで「健康状況」(67.5%)、「家計の状況(所得・消費)」(59.0%)、「精神的なゆとり」(42.2%)となっている。

国の調査によると、「健康状況」が65.4%と最も高く、次いで「家族関係」(65.2%)、「家計の状況」(62.1%)となっている。国の調査と比較すると、重視した事項に大きな差はみられないが、「家計の状況(所得・消費)」、「精神的なゆとり」などの割合は三重県調査の方が国の調査よりやや低くなっている。

図表3-1-11 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(国との比較)



国の調査…平成22年度国民生活選好度調査(内閣府、平成23年3月実施)。なお、「政治、行政」の選択肢はない。「第1回生活の質に関する調査」(内閣府経済社会総合研究所、平成24年3月実施)にこの質問は含まれていない。

【地域別】

すべての地域で「家族関係」が最も高く、次いで「健康状況」、「家計の状況(所得・消費)」、「精神的なゆとり」となっており、特に大きな差はみられない。

図表3-1-12 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(地域別上位5項目)

(%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	家族関係 68.7	健康状況 67.6	家計の状況 60.2	精神的ゆとり 43.6	友人関係 35.7
伊賀地域	家族関係 71.2	健康状況 70.9	家計の状況 57.1	精神的ゆとり 40.6	自由な時間 36.8
中南勢地域	家族関係 69.4	健康状況 68.1	家計の状況 59.8	精神的ゆとり 40.7	自由な時間 38.1
伊勢志摩地域	家族関係 65.6	健康状況 64.6	家計の状況 54.5	精神的ゆとり 42.2	自由な時間 37.9
東紀州地域	家族関係 72.1	健康状況 65.1	家計の状況 60.9	精神的ゆとり 40.9	自由な時間 40.5

【性別】

男性は「健康状況」(67.0%)、女性は「家族関係」(71.8%)が最も高くなっている。

上位4項目は同じ項目となっているが、5位に、男性は就業状況(37.3%)、女性は友人関係(41.2%)が挙がっている。

図表3-1-13 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(性別上位5項目) (%)

性別	1位	2位	3位	4位	5位
男性	健康状況 67.0	家族関係 65.6	家計の状況 60.1	精神的ゆとり 41.0	就業状況 37.3
女性	家族関係 71.8	健康状況 68.2	家計の状況 58.4	精神的ゆとり 43.6	友人関係 41.2

【年代別】

いずれの年代も「家族関係」を重視する割合は高くなっている。また、60歳代以上は「健康状況」が最も高くなっている。20歳代では、「友人関係」が2位に挙がっている。

「家計の状況(所得・消費)」は20歳代、70歳以上はそれぞれ49.3%、45.7%となっているが、40歳代、50歳代はそれぞれ69.0%、68.4%と高くなっている。

図表3-1-14 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(年代別上位5項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 60.5	友人関係 52.0	家計の状況 49.3	健康状況 49.1	精神的ゆとり 47.7
30歳代	家族関係 74.2	健康状況 62.2	家計の状況 61.0	就業状況 45.3	精神的ゆとり 43.2
40歳代	家族関係 72.6	家計の状況 69.0	健康状況 68.5	就業状況 50.7	精神的ゆとり 40.3
50歳代	家族関係 71.1	健康状況 69.5	家計の状況 68.4	就業状況 49.2	精神的ゆとり 42.5
60歳代	健康状況 71.1	家族関係 66.7	家計の状況 59.8	精神的ゆとり 44.9	自由な時間 37.7
70歳以上	健康状況 70.7	家族関係 66.0	自由な時間 51.4	家計の状況 45.7	友人関係 39.3

【性・年代別】

さらに、性・年代別でみると、40歳代と50歳代の男性は「家計の状況(所得・消費)」が「家族関係」や「健康状況」よりもわずかではあるが高くなっている。また、30歳代の女性は「家族関係」が80.0%と特に高くなっている。

図表3-1-15 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(男性・年代別上位5項目) (%)

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家計の状況 家族関係 51.1	就業状況 49.4	健康状況 友人関係 48.9		
30歳代	家族関係 66.7	家計の状況 61.7	健康状況 58.3	就業状況 48.0	精神的ゆとり 42.1
40歳代	家計の状況 69.0	家族関係 68.7	健康状況 64.5	就業状況 50.4	精神的ゆとり 37.1
50歳代	家計の状況 67.9	健康状況 家族関係 66.6	就業状況 53.5	精神的ゆとり 42.2	
60歳代	健康状況 71.8	家族関係 67.7	家計の状況 62.6	精神的ゆとり 44.8	就業状況 32.2
70歳以上	健康状況 73.3	家族関係 64.5	家計の状況 48.0	自由な時間 45.9	精神的ゆとり 37.0

図表 3-1-16 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(女性・年代別上位5項目)

(%)

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位
20歳代	家族関係 69.2	友人関係 55.1	精神的ゆとり 51.0	健康状況 49.0	家計の状況 47.5
30歳代	家族関係 80.0	健康状況 65.2	家計の状況 60.5	友人関係 46.0	精神的ゆとり 44.1
40歳代	家族関係 75.5	健康状況 71.4	家計の状況 69.0	就業状況 50.8	精神的ゆとり 42.7
50歳代	家族関係 75.2	健康状況 72.2	家計の状況 68.9	就業状況 45.3	精神的ゆとり 42.7
60歳代	健康状況 70.4	家族関係 65.9	家計の状況 57.1	精神的ゆとり 44.9	自由な時間 43.5
70歳以上	健康状況 67.9	家族関係 67.4	自由な時間 57.7	友人関係 48.4	家計の状況 43.6

【主な職業別】

農林水産業、自営業・自由業、無職は「健康状況」、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員、専業主婦・主夫は「家族関係」がそれぞれ最も高くなっている。

図表 3-1-17 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(主な職業別上位5項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位
農林水産業	健康状況 69.3	家族関係 67.3	家計の状況 51.7	精神的ゆとり 40.5	自由な時間 35.6
自営業、自由業	健康状況 69.0	家族関係 68.4	家計の状況 60.1	就業状況 42.5	精神的ゆとり 42.0
正規職員	家族関係 70.0	健康状況 66.8	家計の状況 66.6	就業状況 53.6	精神的ゆとり 41.4
パート・アルバイト・派遣	家族関係 66.8	健康状況 65.3	家計の状況 62.1	就業状況 48.2	精神的ゆとり 39.9
専業主婦・主夫	家族関係 78.8	健康状況 72.1	家計の状況 60.6	精神的ゆとり 46.1	自由な時間 43.8
学生	友人関係 67.5	家族関係 64.9	精神的ゆとり 59.7	自由な時間 55.8	健康状況 51.9
無職	健康状況 69.1	家族関係 64.1	自由な時間 50.1	家計の状況 49.7	精神的ゆとり 43.1
その他	家族関係 64.7	健康状況 64.0	家計の状況 58.0	精神的ゆとり 39.3	就業状況 36.7

【結婚別】

いずれも、「健康状況」、「家族関係」、「家計の状況(所得・消費)」が上位に挙がっており、既婚は「家族関係」が73.8%と特に高くなっている。

図表 3-1-18 幸福感を判断する際に重視した事項(複数回答)(結婚別上位5項目)

(%)

結婚	1位	2位	3位	4位	5位
未婚	健康状況 57.8	家計の状況 55.3	家族関係 49.3	精神的ゆとり 48.4	就業状況 48.0
既婚	家族関係 73.8	健康状況 69.9	家計の状況 61.4	精神的ゆとり 41.5	自由な時間 34.5
離婚・死別	健康状況 64.0	家族関係 58.6	家計の状況 50.7	自由な時間 44.8	精神的ゆとり 42.2

【世帯構成別】

単身世帯を除くすべての世帯で、「家族関係」が最も高く、次いで「健康状況」、「家計の状況（所得・消費）」となっている。

単身世帯は「健康状況」（67.0％）が最も高く、次いで「家計の状況（所得・消費）」、「自由な時間」となっている。

図表 3-1-19 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（世帯構成別上位5項目）（％）

世帯構成	1位		2位		3位		4位		5位	
単身世帯	健康状況	67.0	家計の状況	51.7	自由な時間	47.8	精神的ゆとり	47.0	家族関係	43.8
一世代世帯	家族関係	70.8	健康状況	70.6	家計の状況	59.3	精神的ゆとり	43.0	自由な時間	41.4
二世帯世帯	家族関係	69.2	健康状況	66.2	家計の状況	61.2	精神的ゆとり	41.9	就業状況	40.3
三世帯世帯	家族関係	77.2	健康状況	67.8	家計の状況	57.3	精神的ゆとり	39.9	友人関係	37.7
その他	家族関係	65.0	健康状況	56.3	家計の状況	53.8	精神的ゆとり	47.5	自由な時間	36.3

【世帯全体の年間収入別】

300万円未満の層は「健康状況」、300万円以上の層では「家族関係」が最も高くなっている。「家族関係」、「健康状況」、「家計の状況（所得・消費）」は、世帯全体の年間収入額が多いほど高くなっている。

図表 3-1-20 幸福感を判断する際に重視した事項（複数回答）（世帯全体の年間収入別上位5項目）（％）

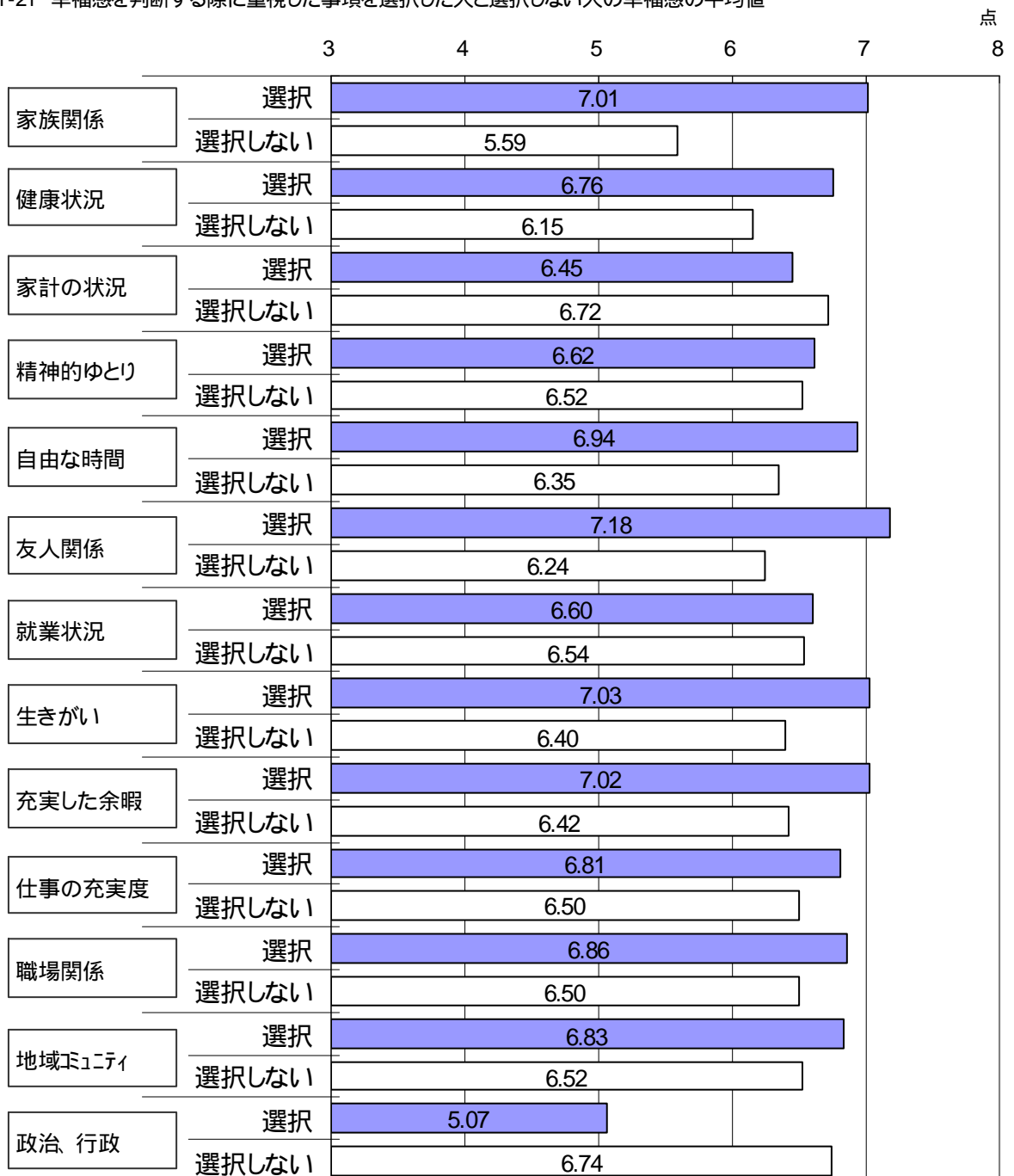
世帯全体の年間収入	1位		2位		3位		4位		5位	
100万円未満	健康状況	59.5	家族関係	50.5	家計の状況	44.2	自由な時間	40.8	精神的ゆとり	37.8
100～300万円未満	健康状況	65.9	家族関係	61.4	家計の状況	52.3	精神的ゆとり	41.3	自由な時間	38.9
300～500万円未満	家族関係	71.6	健康状況	67.8	家計の状況	59.6	精神的ゆとり	44.2	自由な時間	37.1
500～1,000万円未満	家族関係	76.2	健康状況	69.8	家計の状況	68.0	就業状況	46.8	精神的ゆとり	41.5
1,000万円以上	家族関係	78.3	健康状況	75.9	家計の状況	75.1	就業状況	51.2	精神的ゆとり	45.0
わからない	家族関係	64.3	健康状況	62.4	自由な時間	51.7	友人関係	48.7	家計の状況 精神的ゆとり	43.7

(幸福感を判断する際に重視した事項と幸福感との関係について)

幸福感を判断する際に重視した事項について、選択した人の幸福感の平均値と、選択しなかった人の幸福感の平均値を比較したところ、「家族関係」が最も差が大きく、選択した(重視する)人は7.01点で、選択しなかった(重視しない)人(5.59点)より1.42点高くなっている。

また、「家計の状況(所得・消費)」と「政治、行政」の2項目について、選択した(重視する)人は選択しなかった(重視しない)人より幸福感は低くなっている。

図表3-1-21 幸福感を判断する際に重視した事項を選択した人と選択しない人の幸福感の平均値



2. 地域や社会の状況

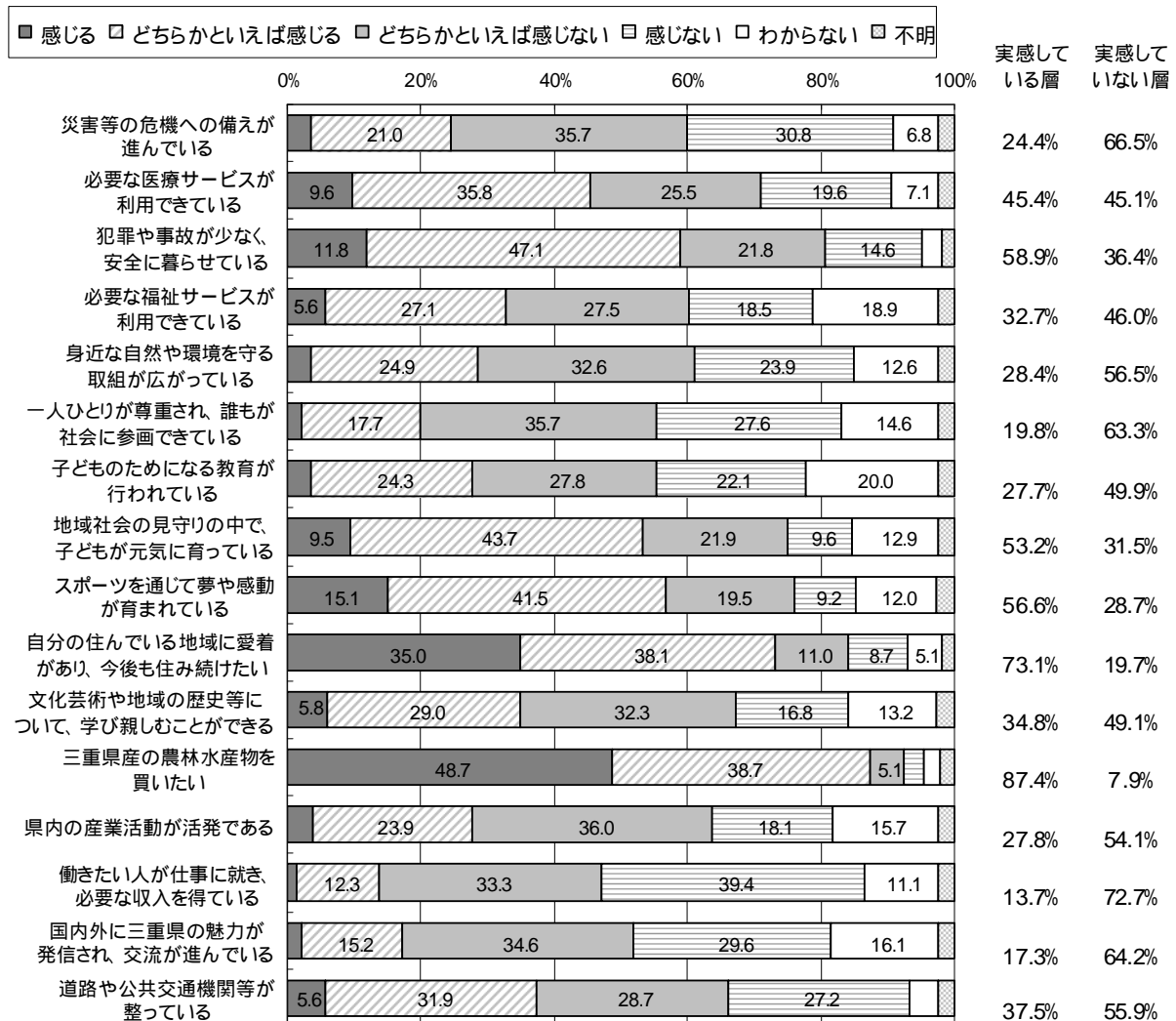
問2 次の(1)から(16)までの16の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

「みえ県民カビジョン」に掲げる政策分野ごとの16の「幸福実感指標」に基づいて地域や社会の状況について実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は、『三重県産の農林水産物を買いたい』が87.4%と最も高く、そのうち、「感じる」も48.7%と最も高くなっている。次いで『自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい』(73.1%)、『犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』(58.9%)の順となっている。

一方、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合は、『働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が72.7%と最も高く、そのうち、「感じない」も39.4%と最も高くなっている。次いで『災害等の危機への備えが進んでいる』(66.5%)、『国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』(64.2%)の順となっている。

下の図表3-2-1に記載の「実感している層」の割合は、「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を合計したものであり、「実感していない層」の割合は、「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を合計したものである。

図表3-2-1 地域や社会の状況について(項目別)



【地域別】

「実感している層」の割合をみると、すべての地域で『三重県産の農林水産物を買いたい』が最も高く、上位5項目は、順位に違いはあるものの、同じ項目となっている。また、東紀州地域では『犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている』が73.7%で2番目に高くなっている。

一方、「実感していない層」の割合はすべての地域で『働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』が最も高くなっている。2番目に高い項目は、北勢地域、中南勢地域では『災害等の危機への備えが進んでいる』、伊賀地域と東紀州地域では『道路や公共交通機関等が整っている』、伊勢志摩地域では『国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる』となっている。

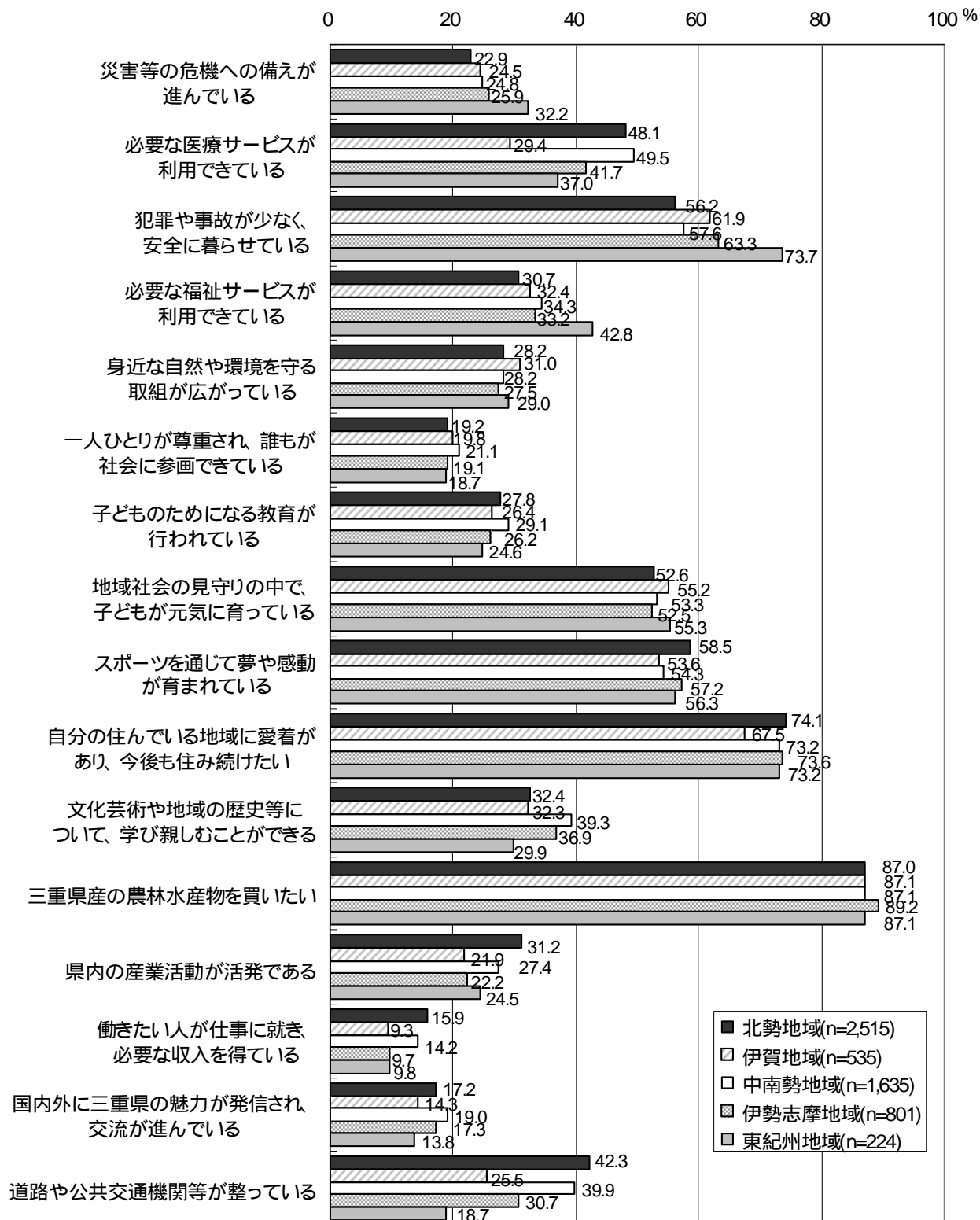
図表3-2-2 地域や社会の状況について「実感している層」の割合(地域別上位5項目)
(%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	三重県産の農林水産物を買いたい 87.0	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 74.1	スポーツを通じて夢や感動が育まれている 58.5	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている 56.2	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 52.6
伊賀地域	三重県産の農林水産物を買いたい 87.1	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 67.5	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている 61.9	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 55.2	スポーツを通じて夢や感動が育まれている 53.6
中南勢地域	三重県産の農林水産物を買いたい 87.1	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 73.2	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている 57.6	スポーツを通じて夢や感動が育まれている 54.3	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 53.3
伊勢志摩地域	三重県産の農林水産物を買いたい 89.2	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 73.6	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている 63.3	スポーツを通じて夢や感動が育まれている 57.2	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 52.5
東紀州地域	三重県産の農林水産物を買いたい 87.1	犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている 73.7	自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい 73.2	スポーツを通じて夢や感動が育まれている 56.3	地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている 55.3

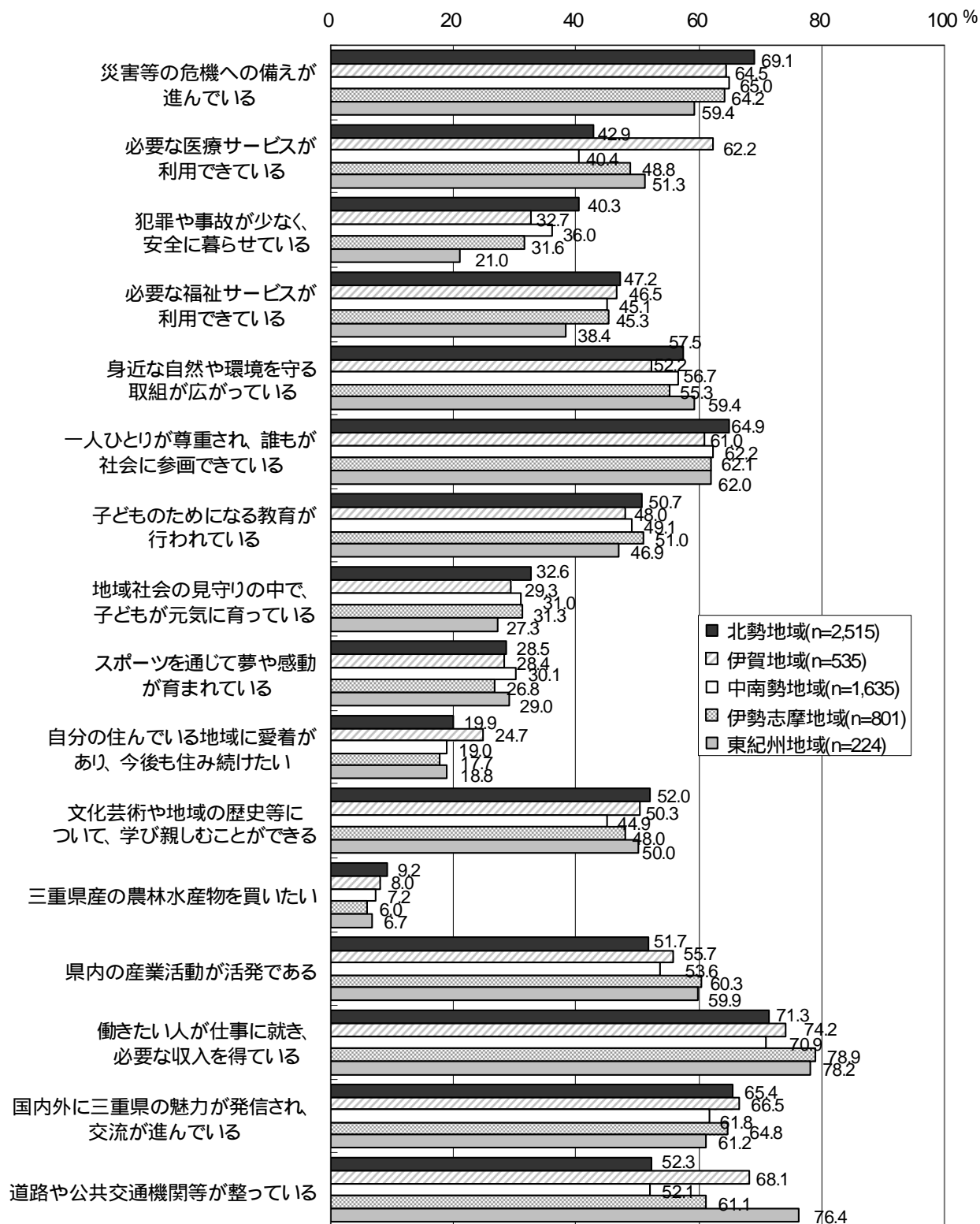
図表3-2-3 地域や社会の状況について「実感していない層」の割合(地域別上位5項目)
(%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 71.3	災害等の危機への備えが進んでいる 69.1	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 65.4	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 64.9	身近な自然や環境を守る取組が広がっている 57.5
伊賀地域	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 74.2	道路や公共交通機関等が整っている 68.1	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 66.5	災害等の危機への備えが進んでいる 64.5	必要な医療サービスが利用できる 62.2
中南勢地域	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 70.9	災害等の危機への備えが進んでいる 65.0	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 62.2	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 61.8	身近な自然や環境を守る取組が広がっている 56.7
伊勢志摩地域	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 78.9	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 64.8	災害等の危機への備えが進んでいる 64.2	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 62.1	道路や公共交通機関等が整っている 61.1
東紀州地域	働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている 78.2	道路や公共交通機関等が整っている 76.4	一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている 62.0	国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる 61.2	県内の産業活動が活発である 59.9

図表3-2-4 地域や社会の状況について「実感している層」の割合(地域別)



図表3-2-5 地域や社会の状況について「実感していない層」の割合(地域別)



問2 - (1) 災害等の危機への備えが進んでいると感じますか。

災害等の危機への備えが進んでいるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が66.5%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(24.4%)より高くなっている。問2の16項目の中では、『働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている』に次いで「実感していない層」の割合が高くなっている。また、「感じない」が30.8%となっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。北勢地域は「実感していない層」の割合が69.1%と最も高く、東紀州地域(59.4%)より9.7ポイント高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は70.4%で女性(63.2%)より7.2ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、20歳代は「実感していない層」の割合が71.4%、そのうち「感じない」が39.3%と最も高くなっている。70歳以上は「実感していない層」の割合が57.7%と他の年代に比べ低くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、正規職員は「実感していない層」の割合が72.2%と最も高くなっている。農林水産業は「実感していない層」の割合が59.2%と他の職業に比べ低く、「実感している層」の割合が30.1%となっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が高くなっている。特に、未婚は「実感していない層」の割合が72.5%、そのうち「感じない」が38.0%と最も高くなっている。

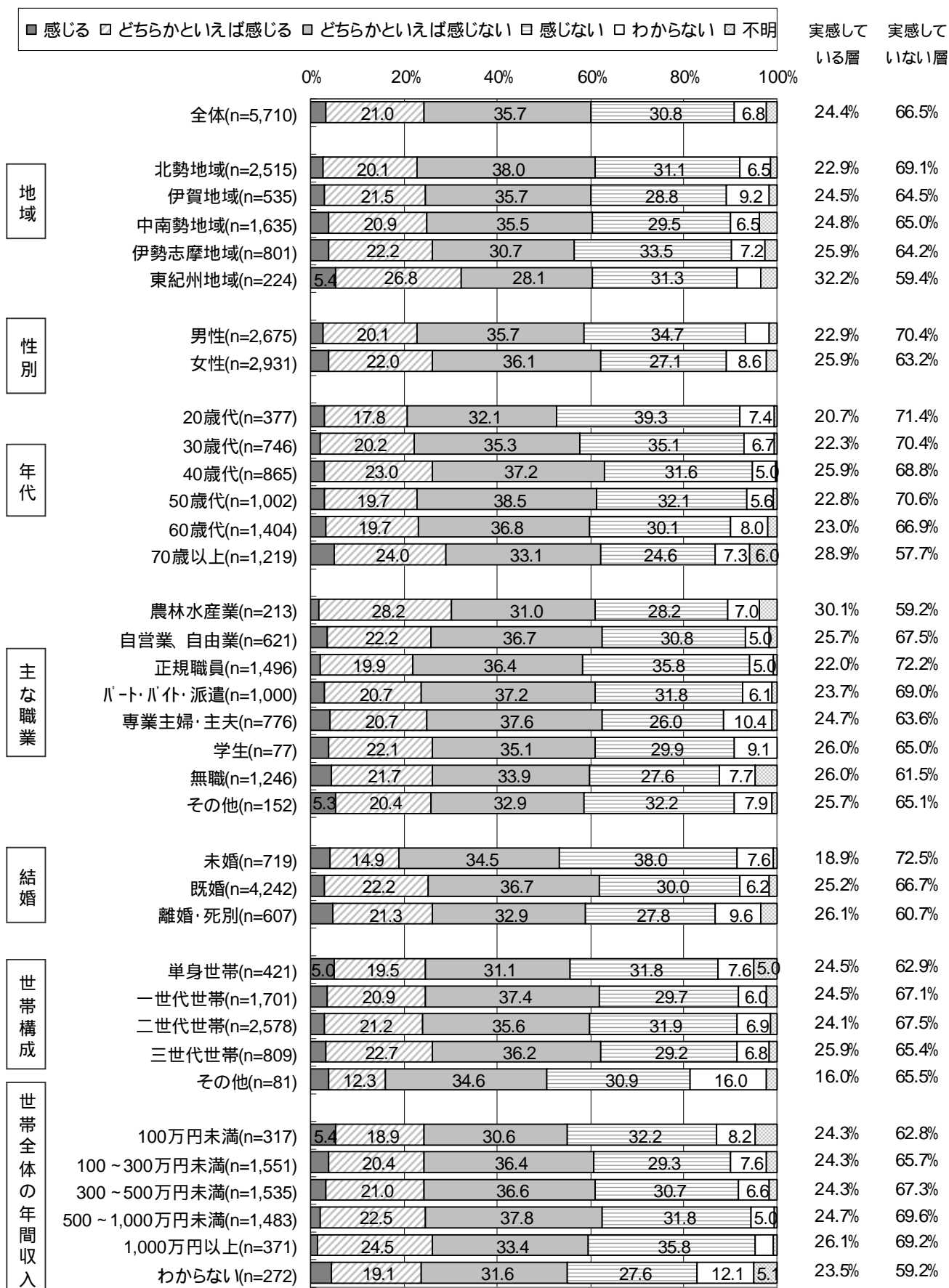
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

図表3-2-6 災害等への危機への備えが進んでいる



問2 - (2) 必要な医療サービスが利用できていると感じますか。

必要な医療サービスが利用できているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が45.4%、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が45.1%とほぼ同率となっている。

【地域別】

北勢地域と中南勢地域は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、伊賀地域、伊勢志摩地域及び東紀州地域は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。特に、伊賀地域は「実感していない層」の割合が62.2%、そのうち「感じない」が32.3%と最も高くなっている。また、伊勢志摩地域、東紀州地域も「実感していない層」の割合がそれぞれ48.8%、51.3%と、北勢地域、中南勢地域に比べ高くなっている。

【性別】

男性は「実感している層」の割合(47.0%)が「実感していない層」の割合(44.8%)よりやや高く、女性は「実感していない層」の割合(45.9%)が「実感している層」の割合(44.0%)よりやや高くなっている。

【年代別】

20歳代と70歳以上は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、30歳代から60歳代は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。特に、70歳以上は「実感している層」の割合が57.8%、「感じる」も18.6%と最も高くなっている。一方、40歳代、50歳代は「実感していない層」の割合がそれぞれ52.0%、52.9%と他の年代に比べ高くなっている。

【主な職業別】

自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、それ以外の職業は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。特に、パート・アルバイト・派遣社員は「実感していない層」の割合が52.4%と最も高くなっている。

【結婚別】

既婚と離婚・死別は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、未婚は「実感している層」の割合より「実感していない層」の割合が高くなっている。

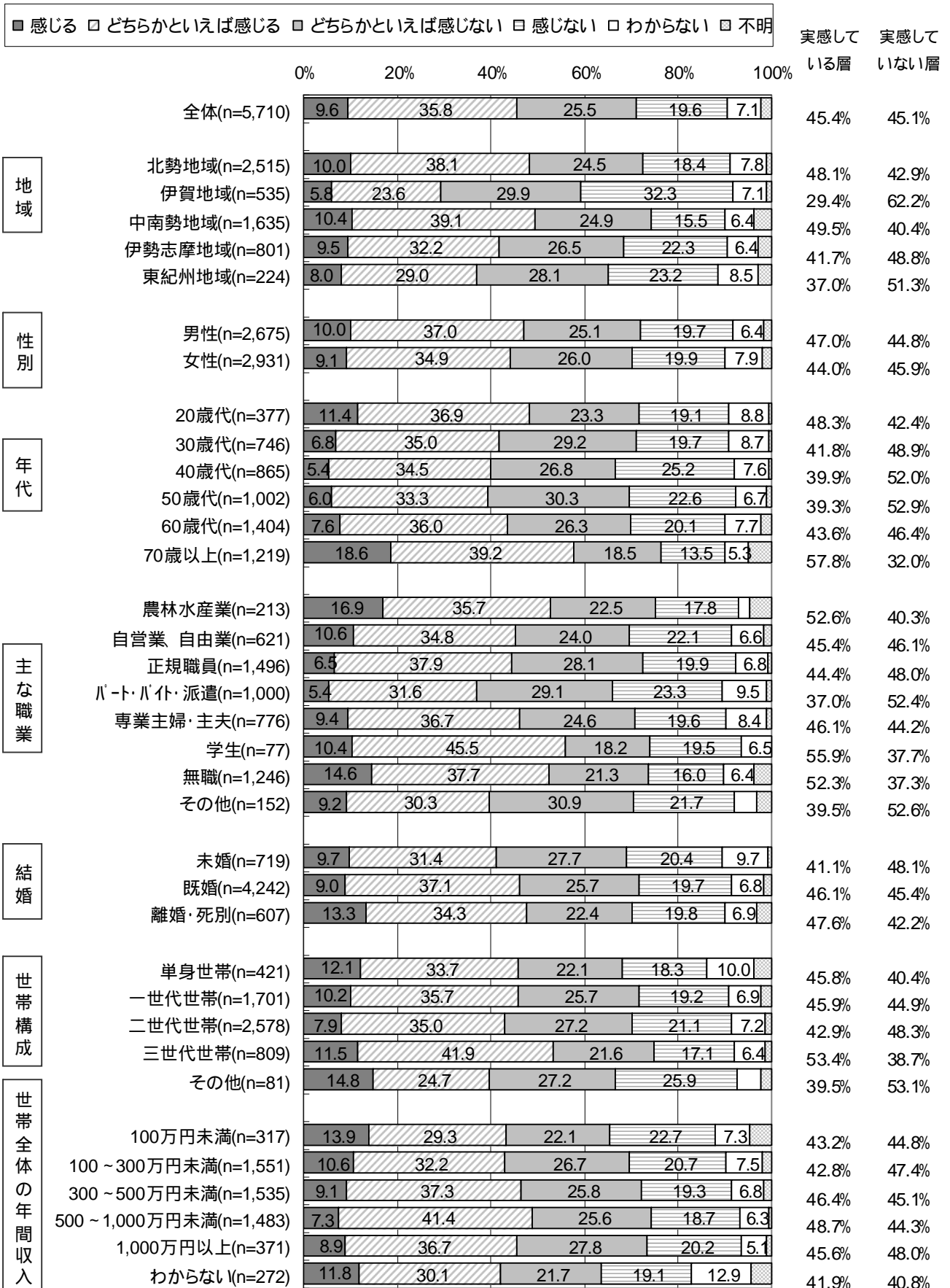
【世帯構成別】

二世帯世帯では「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、それ以外の世帯では「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。特に、三世帯世帯は「実感している層」の割合が53.4%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

300万円以上1,000万円未満の層は「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、それ以外の年間収入額の層は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

図表 3-2-7 必要な医療サービスが利用できている



問2 - (3) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じますか。

犯罪や事故が少なく、安全に暮らせているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 58.9%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合（36.4%）より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。特に、東紀州地域は「実感している層」の割合が 73.7%で、そのうち「感じる」が 24.1%と最も高くなっている。また、伊賀地域、伊勢志摩地域でも「実感している層」の割合がそれぞれ 61.9%、63.3%と高くなっている。一方、北勢地域は「実感していない層」の割合が 40.3%、そのうち「感じない」が 16.4%と最も高くなっている。

【性別】

男女とも「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。農林水産業は「実感している層」の割合が 65.7%、そのうち「感じる」が 19.7%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

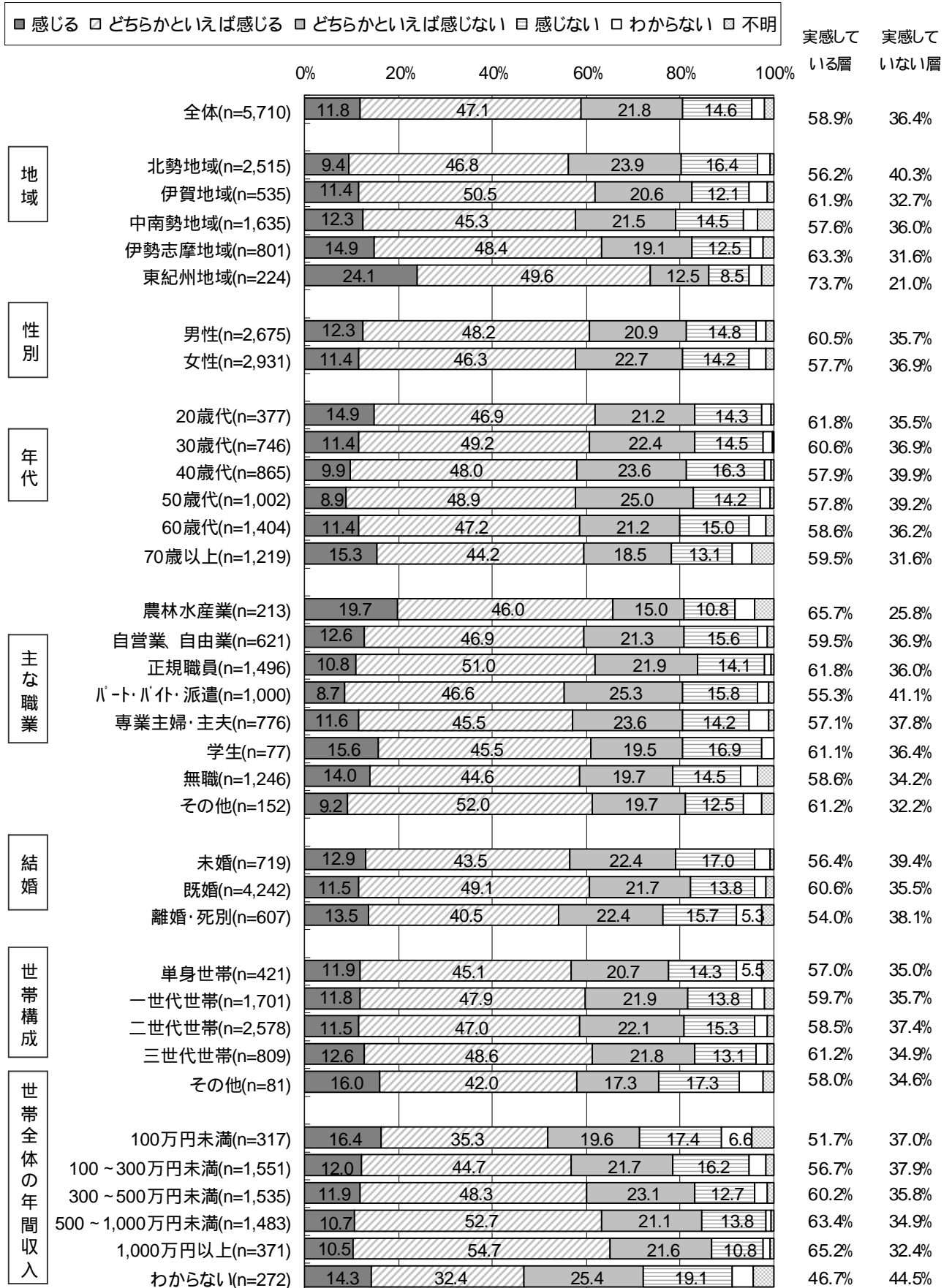
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「どちらかといえば感じる」の割合が高くなっている。

図表3-2-8 犯罪や事故が少なく、安全に暮らしている



問2 - (4) 必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。

必要な福祉サービスが利用できているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が46.0%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(32.7%)より高くなっている。なお、「わからない」は18.9%となっている。

【地域別】

東紀州地域を除くすべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。東紀州地域は「実感している層」の割合が42.8%と「実感していない層」の割合(38.4%)より高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は48.8%、女性は43.7%となっている。

【年代別】

20歳代から60歳代は「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、40歳代、50歳代がそれぞれ52.6%、52.0%と高くなっている。一方、70歳以上は「実感している層」の割合が43.4%で「実感していない層」の割合(38.5%)より高くなっている。また、若い世代ほど「わからない」が高く、20歳代は34.2%となっている。

【主な職業別】

農林水産業を除くすべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員は「実感していない層」の割合がそれぞれ50.7%、49.1%と高くなっている。農林水産業は「実感している層」の割合が49.7%と「実感していない層」の割合(36.6%)より高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。未婚は「わからない」が25.0%とやや高くなっている。

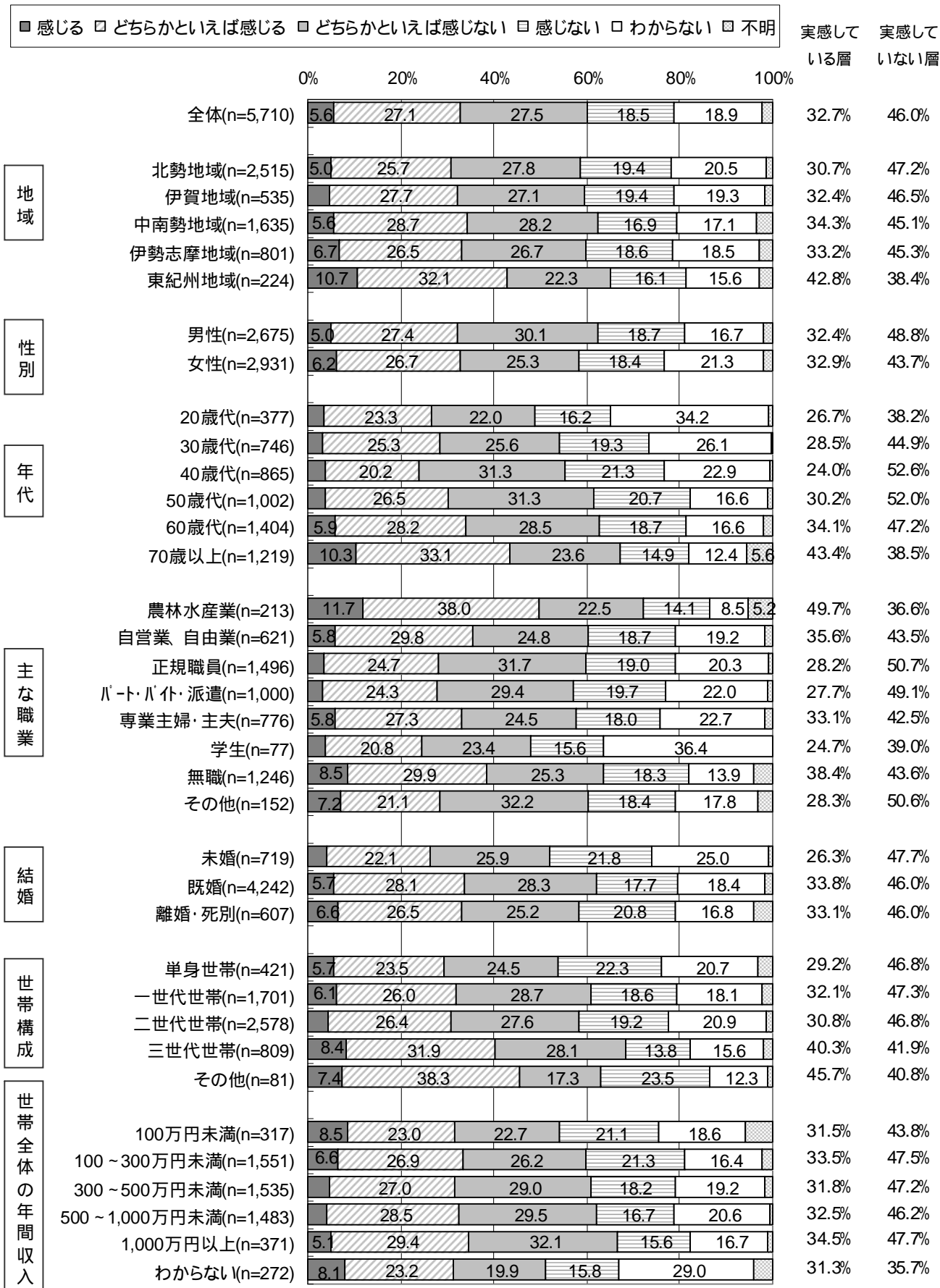
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。三世帯世帯は「実感している層」の割合が40.3%とやや高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

図表3-2-9 必要な福祉サービスが利用できている



問2 - (5) 身近な自然や環境を守る取組が広がっていると感じますか。

身近な自然や環境を守る取組が広がっているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が56.5%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(28.4%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。東紀州地域は「感じない」が30.4%と最も高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は61.1%で女性(52.7%)より8.4ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。50歳代は「実感していない層」の割合が59.7%、30歳代、60歳代はいずれも59.0%となっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。正規職員は「実感していない層」の割合が60.3%と最も高くなっている。農林水産業は「実感している層」の割合が34.3%とやや高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

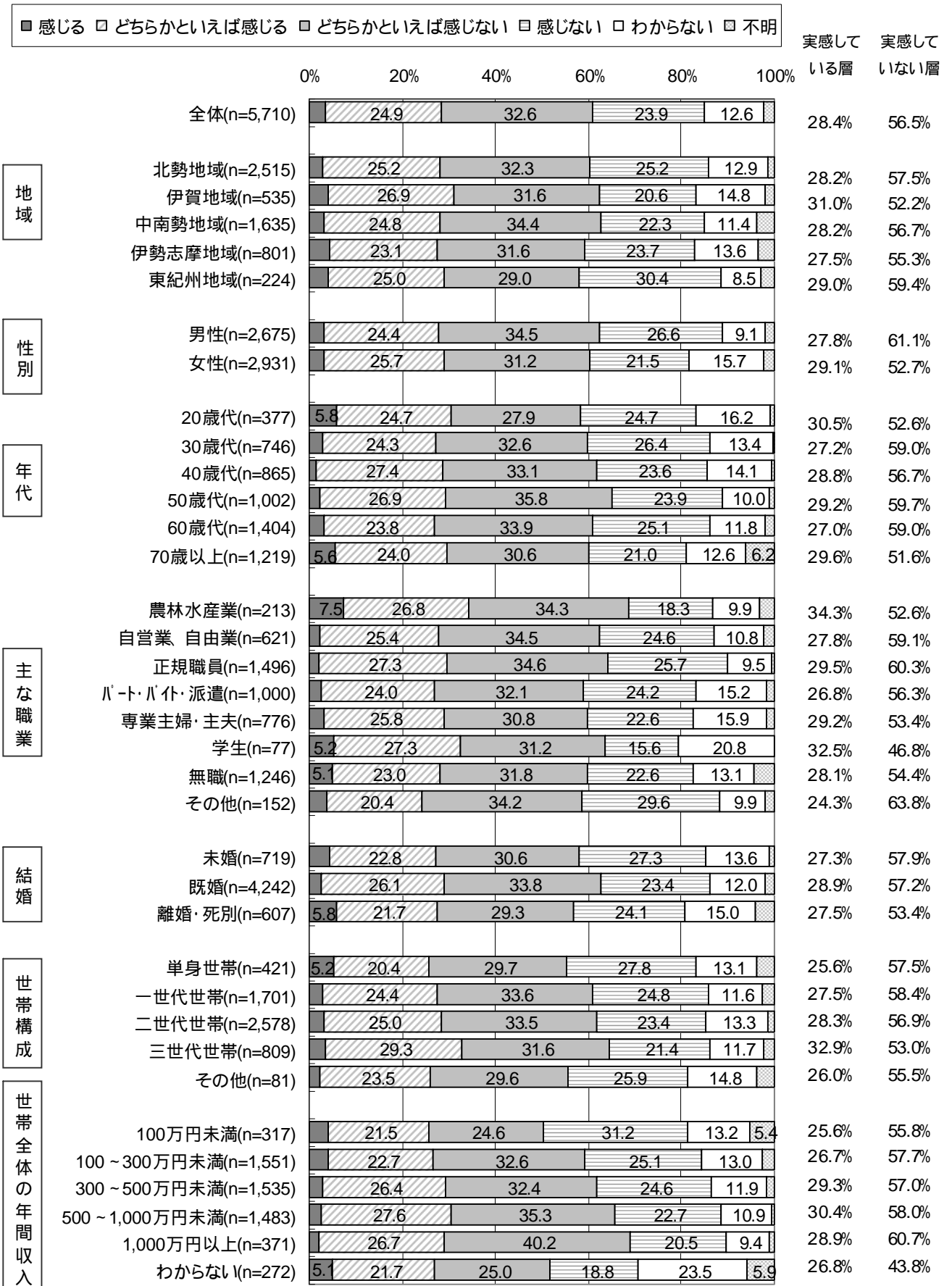
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感していない層」の割合が高くなっているが、「感じない」については年間収入額が少ないほど高くなっている。

図表3-2-10 身近な自然や環境を守る取組が広がっている



問2 - (6) 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できていると感じますか。

一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が63.3%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(19.8%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は66.0%、女性は60.9%となっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、70歳以上を除き、「実感していない層」の割合が6割以上となっている。70歳以上は「実感していない層」の割合が50.0%で、「実感している層」の割合が27.7%とやや高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。特に、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員は「実感していない層」の割合がそれぞれ69.3%、68.5%と高くなっている。一方、農林水産業は「実感していない層」の割合が53.5%で、「実感している層」の割合が29.6%とやや高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に未婚が67.9%と最も高くなっている。

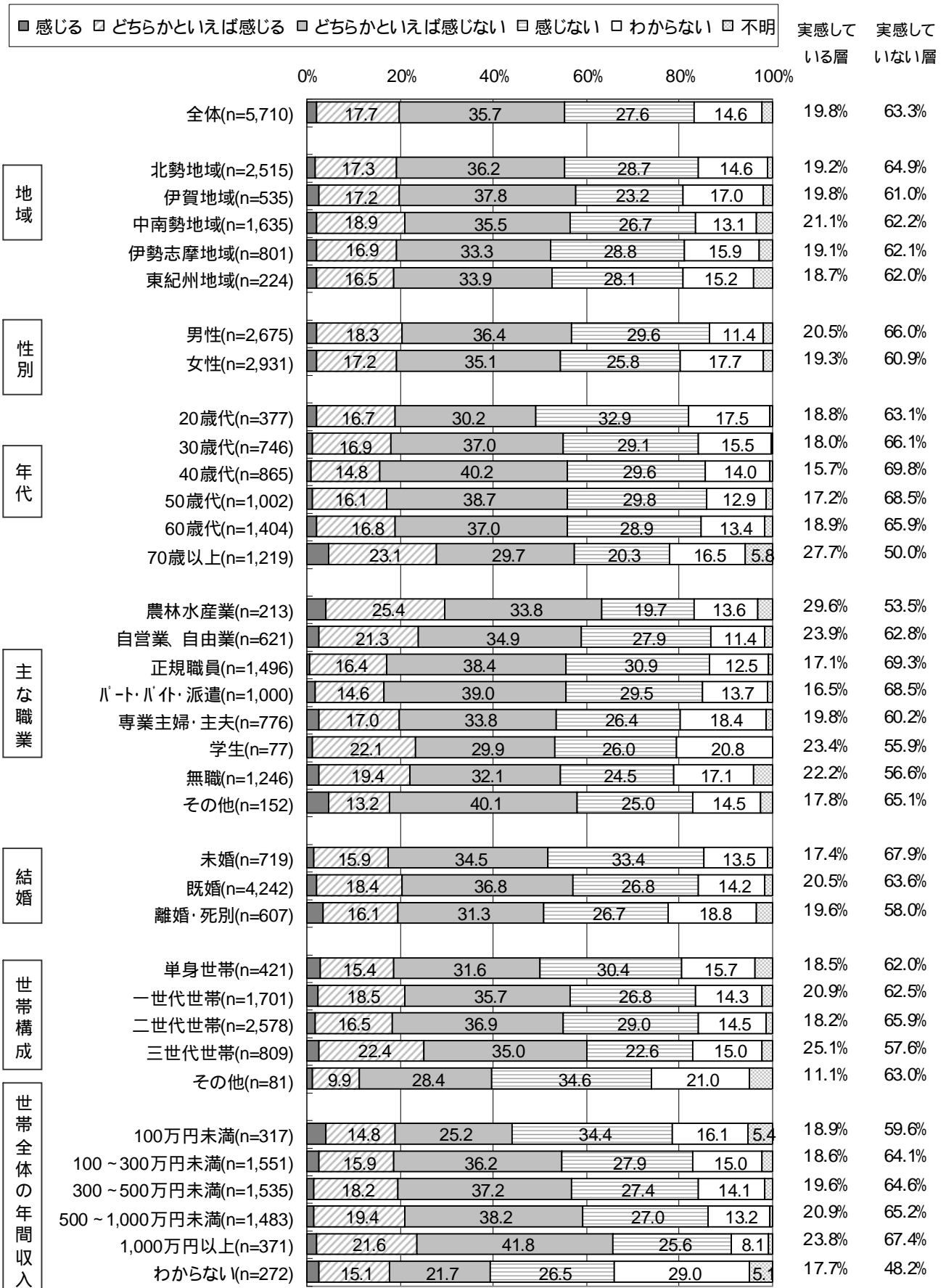
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。三世帯世帯は「実感していない層」の割合が57.6%で、「実感している層」の割合が25.1%とやや高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。「実感していない層」の割合は年間収入額が多くなるほど高くなっているが、「感じない」については年間収入額が少なくなるほど高くなっている。

図表 3-2-11 一人ひとりが尊重され、誰もが社会に参画できている



問2 - (7) 子どものためになる教育が行われていると感じますか。

子どものためになる教育が行われているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が49.9%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(27.7%)より高くなっている。なお、「わからない」が20.0%となっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は54.5%で女性(46.1%)より8.4ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、50歳代は59.9%と最も高くなっている。一方、70歳以上は「実感していない層」の割合が38.0%と低くなっている。また、20歳代、60歳代以上は「わからない」が2割以上となっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっているが、農林水産業では「実感している層」の割合(39.9%)と「実感していない層」の割合(40.4%)がほぼ同じ割合となっている。正規職員は「実感していない層」の割合が58.2%と最も高く、「実感している層」の割合は24.2%となっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっているが、既婚は「実感している層」の割合が29.4%とやや高くなっている。

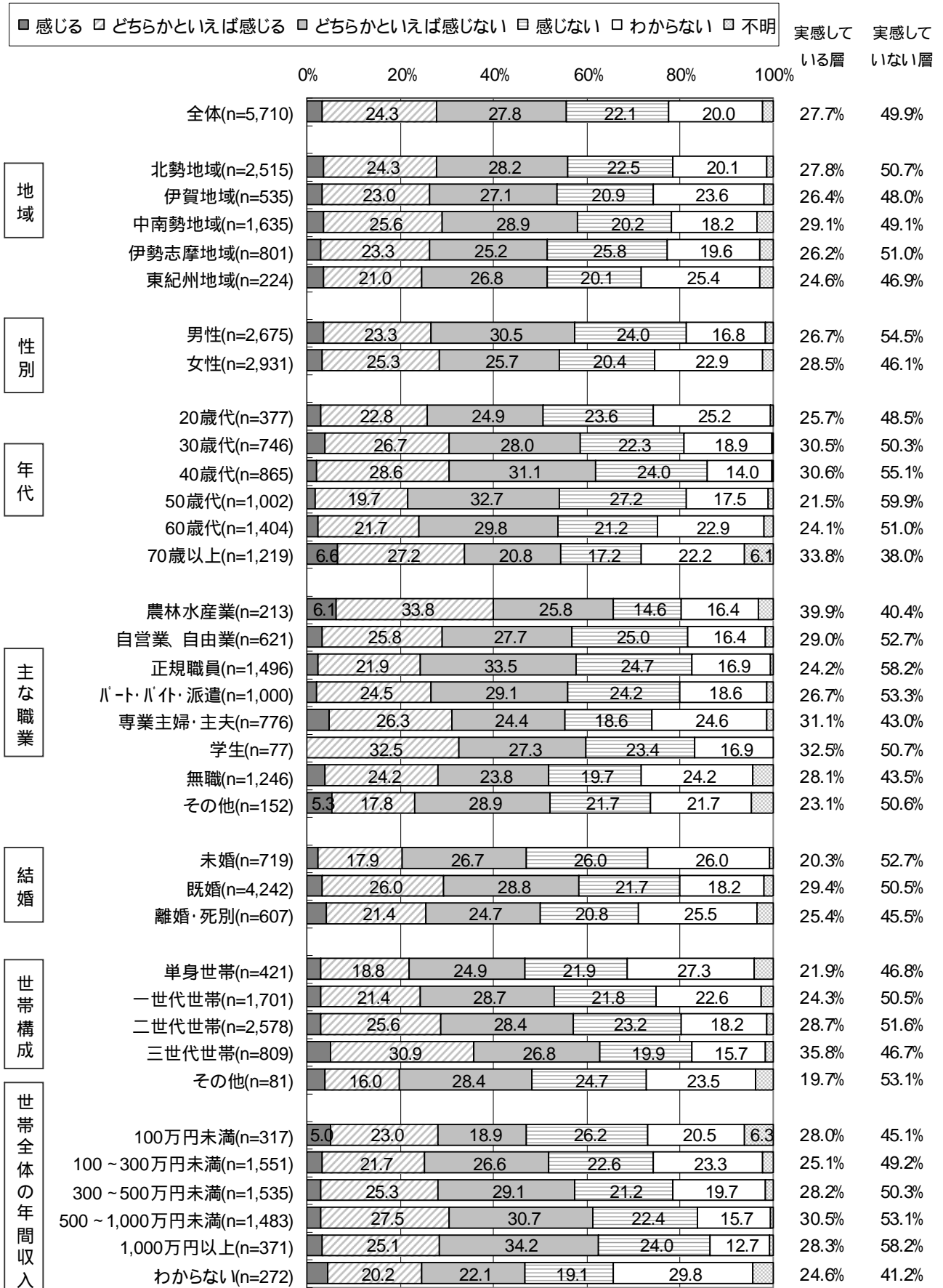
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。世帯を構成する世代数が多いほど、「どちらかといえば感じる」が高く、世帯を構成する世代数が少ないほど「わからない」が高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感していない層」の割合が高く、1,000万円以上の層は58.2%となっている。一方、年間収入額が少なくなるほど「わからない」が高くなっている。

図表3-2-12 子どものためになる教育が行われている



問2 - (8) 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っていると感じますか。

地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が53.2%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合(31.5%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。東紀州地域は「感じる」が14.7%とやや高くなっている。

【性別】

男女とも「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。男性の「実感していない層」の割合は36.3%で女性(27.3%)より9.0ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっているが、50歳代は「実感している層」の割合(44.4%)と「実感していない層」の割合(42.0%)がほぼ同率となっている。70歳以上は「実感している層」の割合が60.3%と最も高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。農林水産業は「実感している層」の割合が69.0%で、そのうち「感じる」も23.0%と最も高くなっている。正規職員は「実感している層」の割合が47.4%と最も低く、「実感していない層」の割合が39.6%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、特に、既婚は「実感している層」の割合が55.6%と高くなっている。未婚は「わからない」が23.4%となっている。

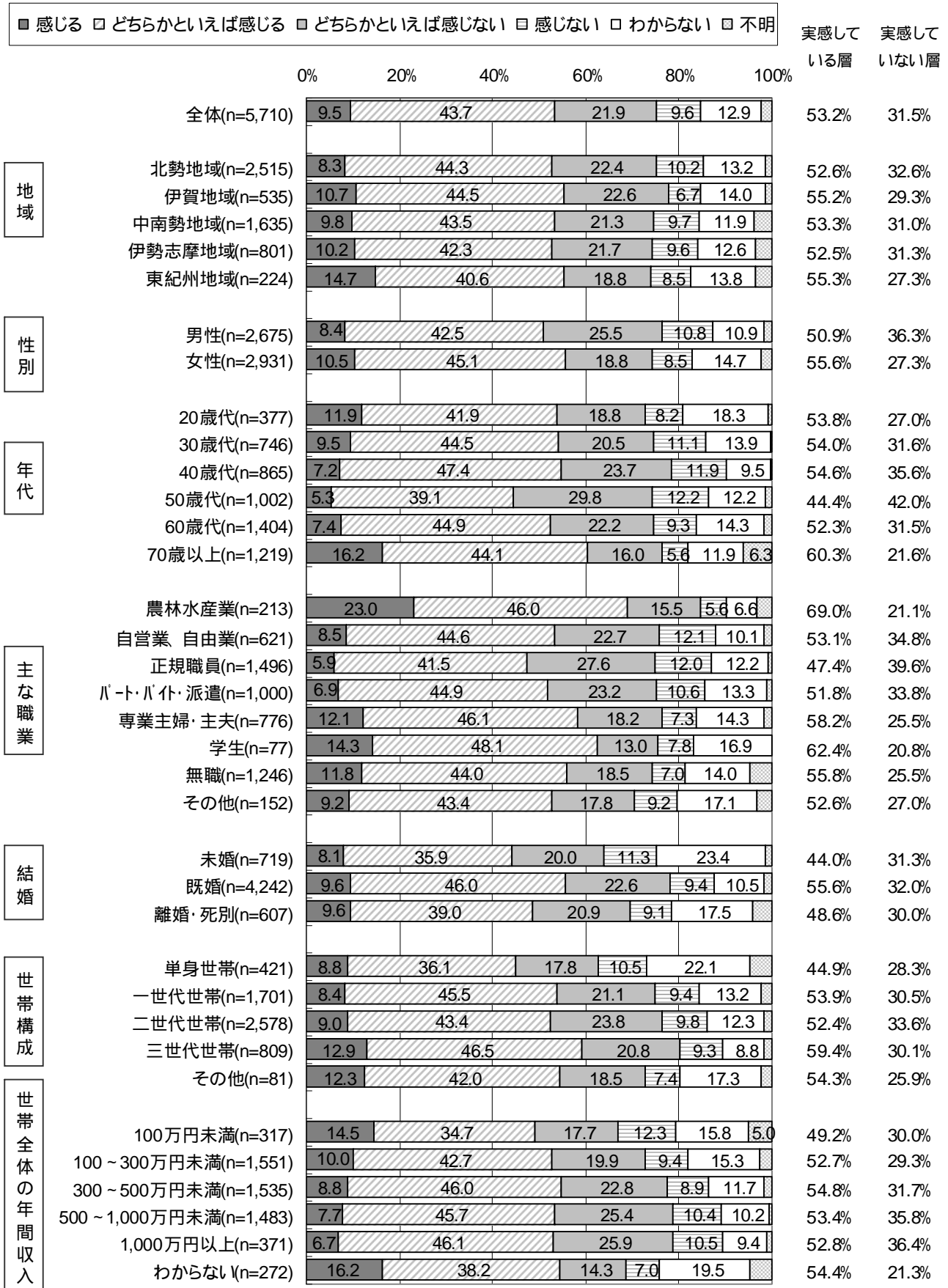
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、特に、三世帯世帯は59.4%と最も高くなっている。単身世帯は「実感している層」の割合が44.9%と低く、「わからない」が22.1%となっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「感じる」の割合が低くなっている。

図表 3-2-13 地域社会の見守りの中で、子どもが元気に育っている



問2 - (9) スポーツを通じて夢や感動が育まれていると感じますか。

スポーツを通じて夢や感動が育まれているかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が 56.6%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合（28.7%）より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。男性の「実感していない層」の割合は 33.5%で、女性（24.3%）より 9.2 ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。20 歳代は「実感している層」の割合が 67.1%で、そのうち「感じる」が 31.0%と最も高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。無職は「実感している層」の割合が 49.6%と最も低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。未婚は「実感している層」の割合が 58.2%で、そのうち「感じる」が 20.4%と最も高くなっている。離婚・死別は「実感している層」の割合がやや低く、「わからない」がやや高くなっている。

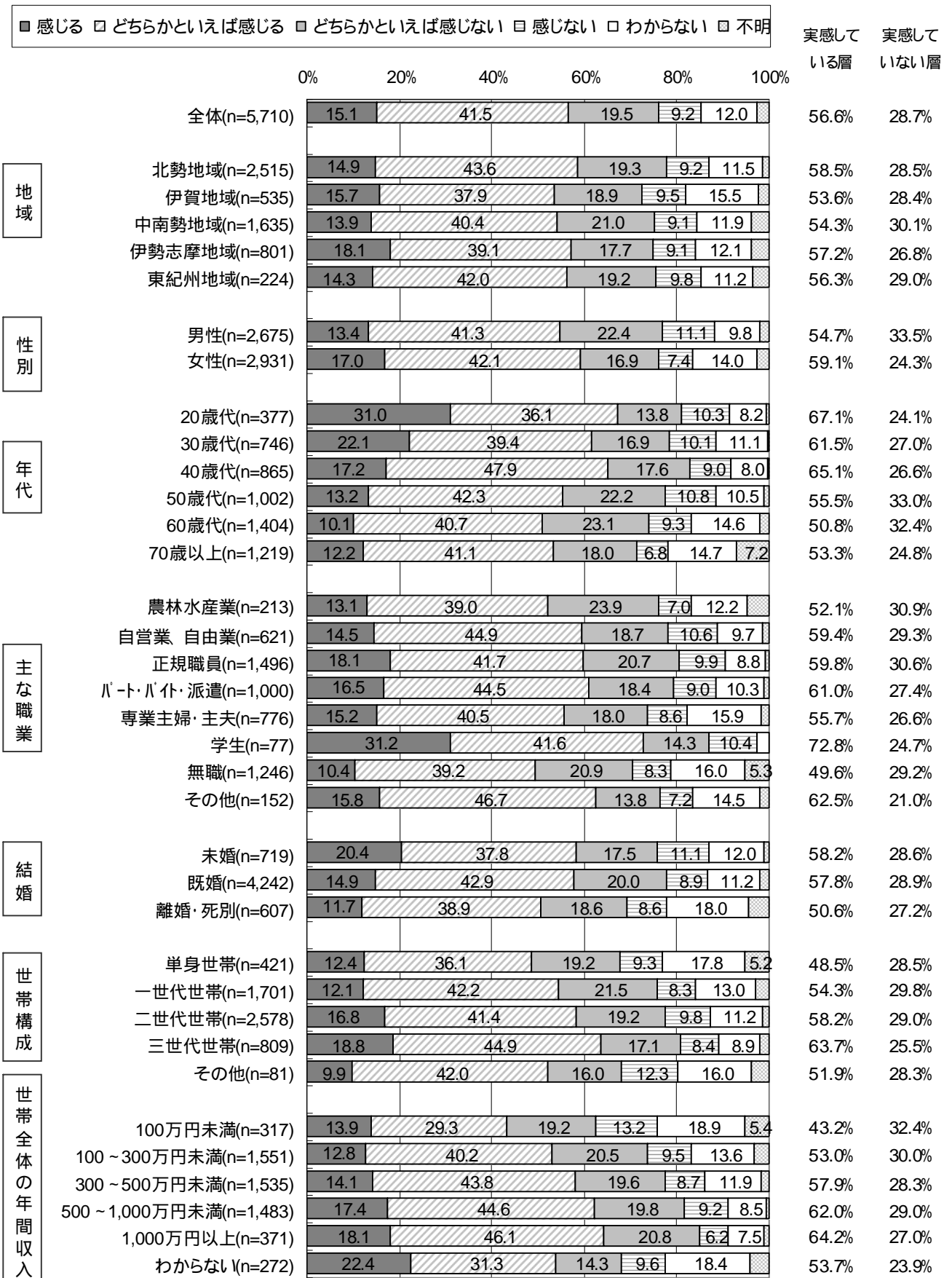
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。世帯を構成する世代数が多いほど「実感している層」の割合が高く、単身世帯の 48.5%に対し、三世帯世帯は 63.7%となっている。また、世帯を構成する世代数が少ないほど「わからない」が高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感している層」の割合が高く、100 万円未満の 43.2%に対し、1,000 万円以上は 64.2%となっている。また、年間収入額が少なくなるほど「わからない」が高くなっている。

図表 3-2-14 スポーツを通じて夢や感動が育まれている



問2 - (10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。

自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が73.1%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合(19.7%)よりも高くなっている。問2の16項目の中では、『三重県産の農林水産物を買いたい』に次いで「実感している層」の割合が高く、「感じる」も35.0%と高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっているが、伊賀地域では67.5%とやや低くなっている。「感じる」は東紀州地域が39.7%、伊勢志摩地域が38.0%、中南勢地域が37.1%となっているが、伊賀地域は25.8%となっている。

【性別】

男女とも「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、男性は76.0%、女性は70.8%となっている。

【年代別】

すべての年代で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。特に、70歳以上は「実感している層」の割合が78.5%で、そのうち、「感じる」も47.1%と年代別の中で最も高くなっている。また、20歳代も「感じる」が40.3%と70歳以上に次いで高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。特に、農林水産業は「実感している層」の割合が85.5%で、そのうち、「感じる」も54.0%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

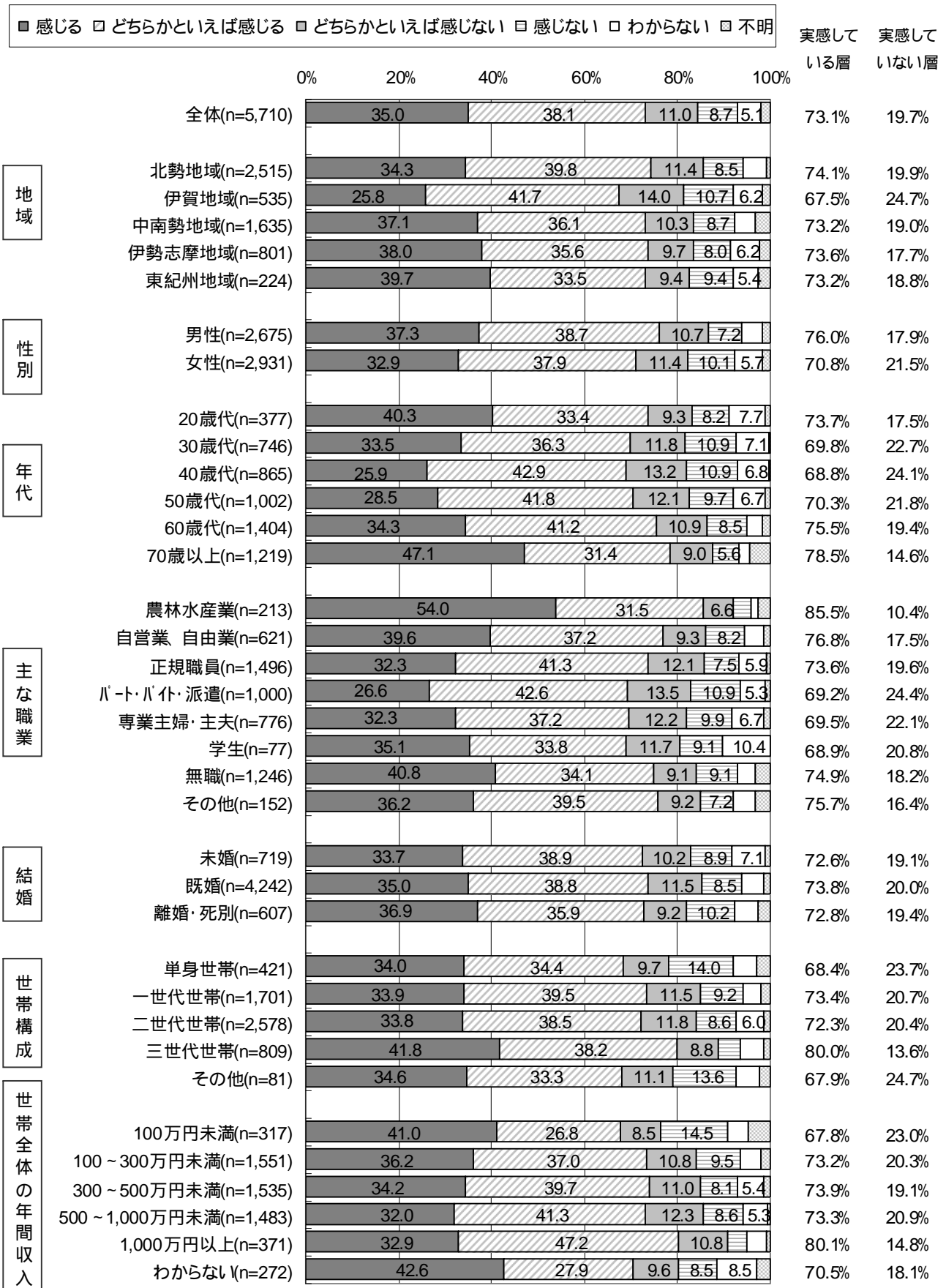
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、特に、三世帯世帯は「実感している層」の割合が80.0%で、そのうち、「感じる」が41.8%と高くなっている。単身世帯は「実感している層」の割合が68.4%、「実感していない層」の割合が23.7%となっており、「感じない」も14.0%と高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、特に、1,000万円以上は「実感している層」の割合が80.1%と最も高くなっている。100万円未満は、「実感している層」の割合が67.8%と最も低いものの、「感じる」については41.0%と最も高くなっている。

図表3-2-15 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい



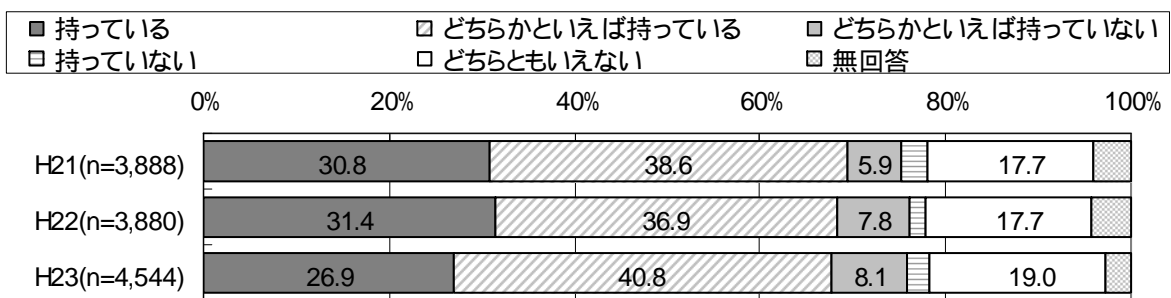
参考：一万人アンケート

平成 23 年度まで実施してきた一万人アンケートにおいては、「地域への愛着」や「定住意向」について質問している。

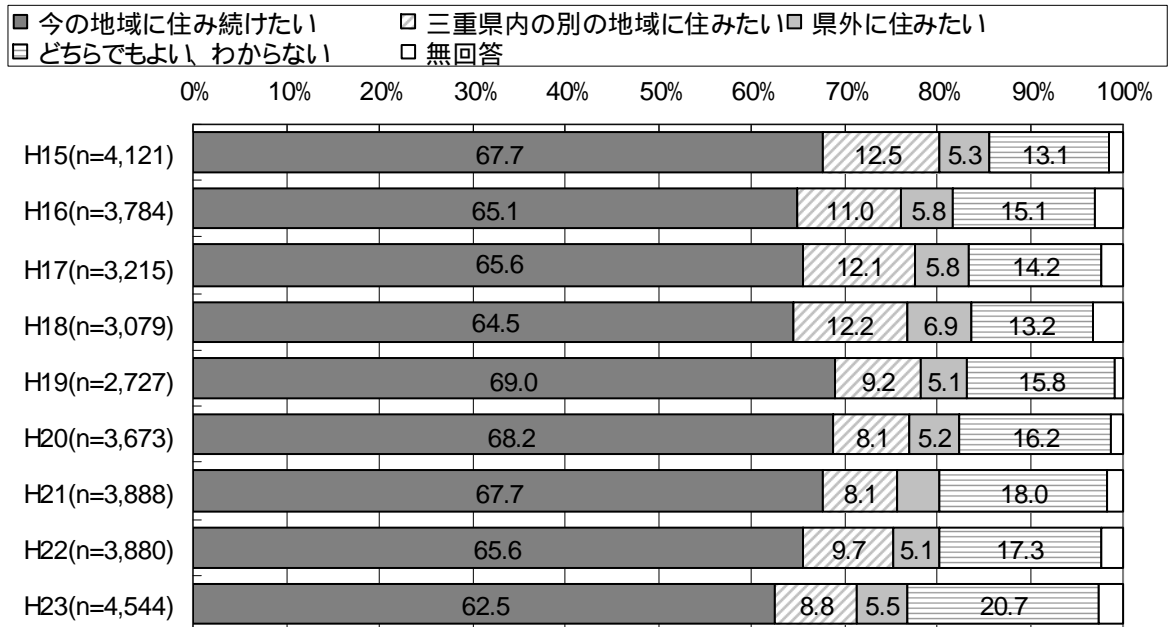
「地域への愛着」については、平成 23 年度は「持っている」と「どちらかといえば持っている」を合計した肯定的回答が 67.7%で、そのうち、「持っている」が 26.9%となっている。

また、「定住意向」については、「今の地域に住み続けたい」が 62.5%、「三重県内の別の地域に住みたい」が 8.8%となっている。

あなたは、現在お住まいの地域に愛着をお持ちですか。



あなたは今後も現在の地域に住みたいと思いますか。



問 2 - (1 0) の「自分の地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか」とは質問の形式が異なり、単純な比較は出来ないため、あくまで参考値である。

問2 - (11) 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができると感じますか。

文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が49.1%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(34.8%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。中南勢地域では「実感している層」の割合が39.3%で、東紀州地域(29.9%)より9.4ポイント高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は「実感していない層」の割合が51.1%、女性は47.6%となっている。

【年代別】

20歳代から60歳代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっているが、70歳以上は「実感している層」の割合が40.9%で、「実感していない層」の割合(37.6%)より高くなっている。

【主な職業別】

農林水産業を除くすべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。農林水産業は「実感している層」の割合が46.0%で、「実感していない層」の割合(39.9%)より高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

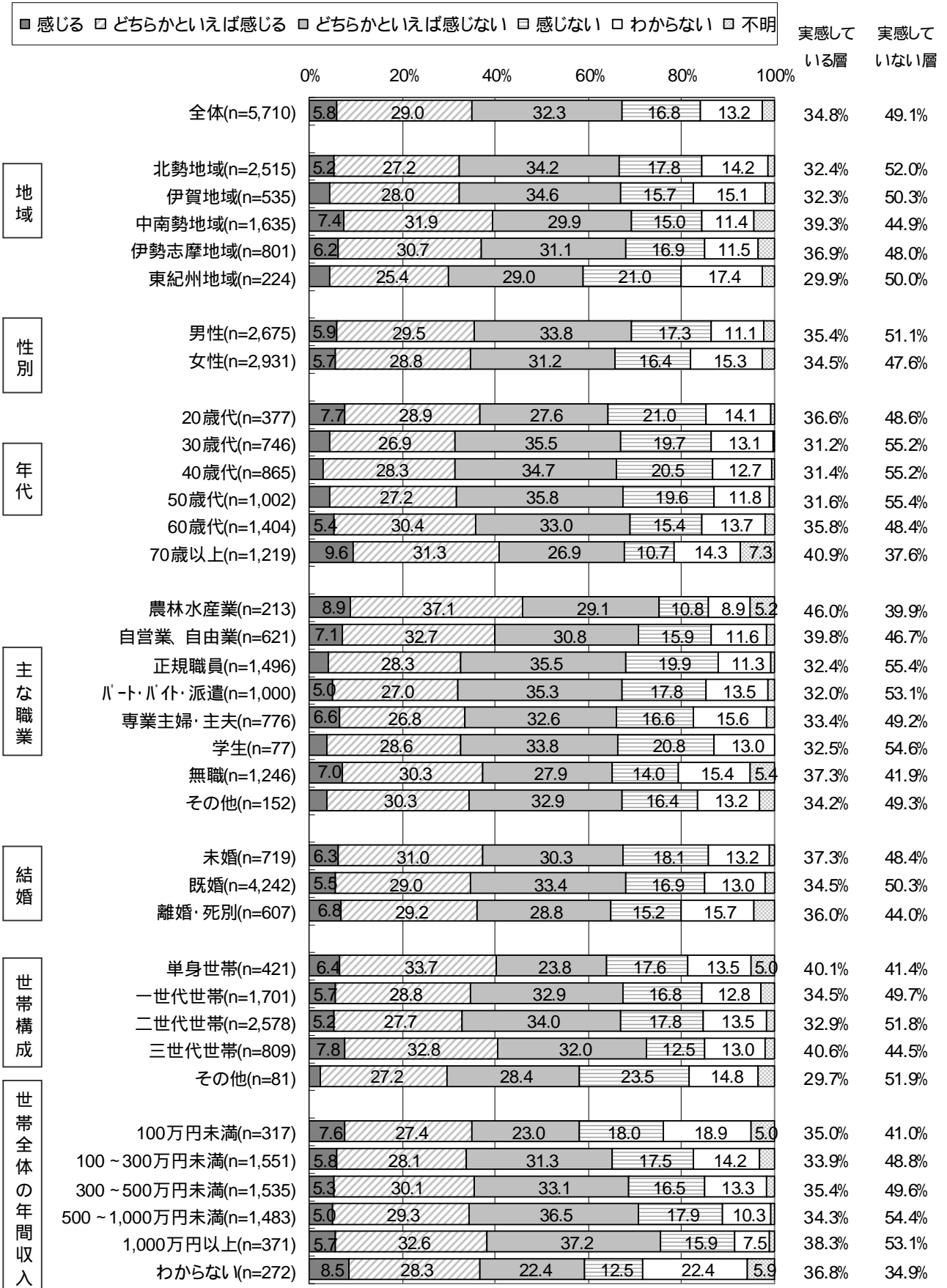
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、二世帯世帯は「実感していない層」の割合が51.8%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。概ね年間収入額が多くなるほど「実感していない層」の割合が高く、100万円未満の41.0%に対し、500万円以上の層では53%を超えている。また、年間収入額が少なくなるほど「わからない」が高く、1,000万円以上の7.5%に対し、100万円未満では18.9%となっている。

図表 3-2-16 文化芸術や地域の歴史等について、学び親しむことができる



問2 - (12) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。

三重県産の農林水産物を買いたいかどうかの実感については、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合が87.4%で、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合(7.9%)よりも高くなっている。問2の16項目の中では「実感している層」の割合が最も高く、そのうち「感じる」も48.7%となっている。

【地域別】

すべての地域で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、87.0%以上となっている。伊勢志摩地域、東紀州地域は「感じる」がそれぞれ57.1%、55.8%と高くなっている。

【性別】

男女とも「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、特に、女性は「感じる」が54.0%と男性(43.1%)より10.9ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、84%以上となっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高く、特に、農林水産業が92.5%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。

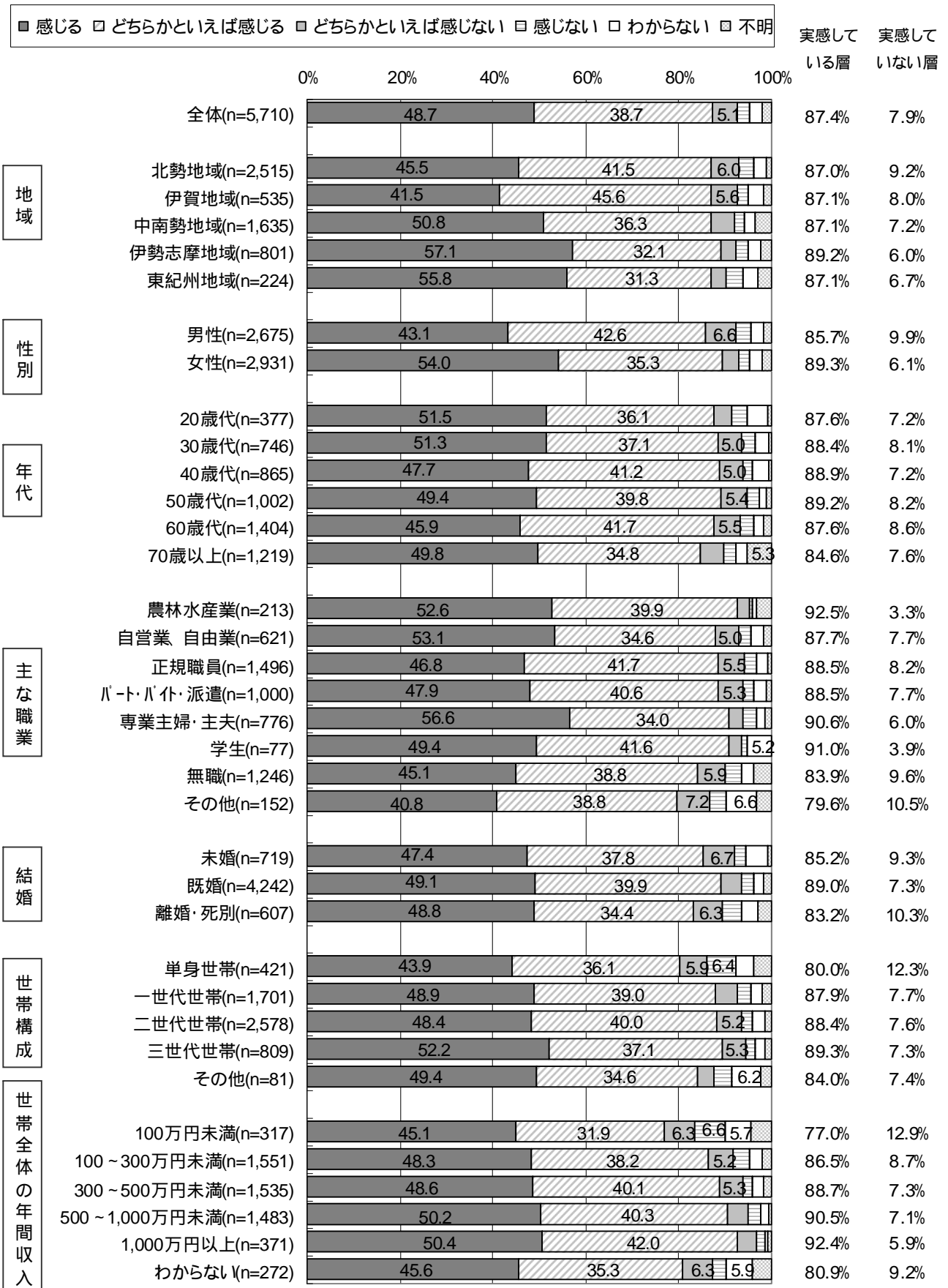
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。単身世帯では「実感していない層」の割合が12.3%と他の世帯構成よりやや高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感している層」の割合が「実感していない層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感している層」の割合が高く、100万円未満の77.0%に対し、1,000万円以上は92.4%となっている。一方、「実感していない層」の割合は年間収入額が少なくなるほど高く、1,000万円以上の5.9%に対し、100万円未満は12.9%となっている。

図表 3-2-17 三重県産の農林水産物を買いたい



問2 - (13) 県内の産業活動が活発であると感じますか。

県内の産業活動が活発であるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が54.1%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(27.8%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。特に、伊勢志摩地域、東紀州地域は「実感していない層」の割合がそれぞれ60.3%、59.9%で、そのうち、「感じない」がそれぞれ24.8%、29.5%とやや高くなっている。北勢地域では「実感している層」の割合が31.2%と最も高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は62.2%で、女性(47.2%)より15.0ポイント高くなっている。「わからない」は、女性が20.3%で男性(10.5%)より9.8ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に30歳代から60歳代で、「実感していない層」の割合が高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。特に、自営業・自由業、正規職員の「実感していない層」の割合がそれぞれ60.7%、61.8%と他の職業に比べ高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

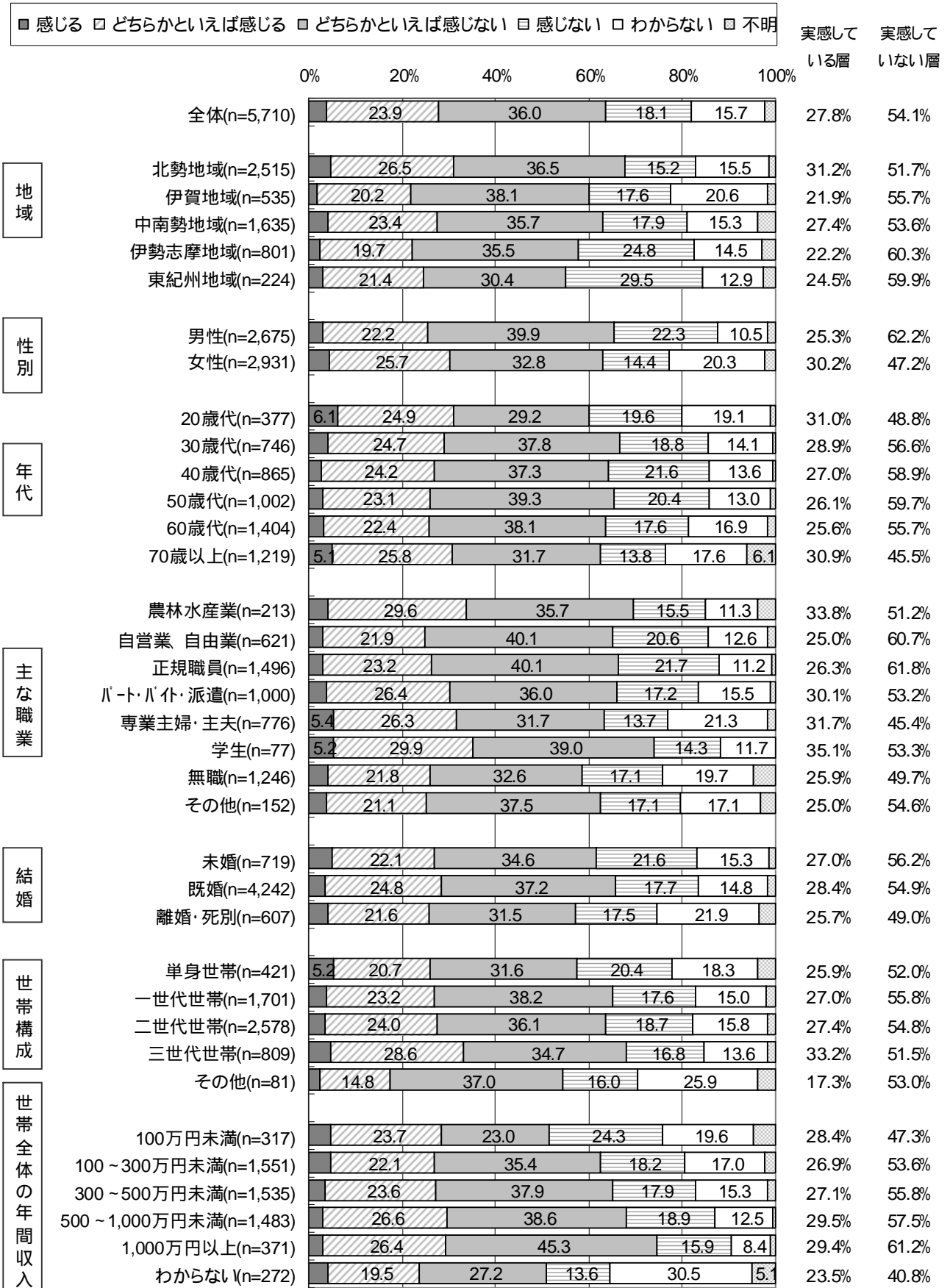
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。三世帯世帯は「実感している層」の割合が33.2%と、他の世帯構成に比べやや高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感していない層」の割合が高く、100万円未満の47.3%に対し、1,000万円以上では61.2%となっている。一方、「感じない」は100万円未満の24.3%が最も高く、1,000万円以上の15.9%が最も低くなっている。また、年間収入額が少なくなるほど「わからない」が高く、1,000万円以上の8.4%に対し、100万円未満は19.6%となっている。

図表 3-2-18 県内の産業活動が活発である



問2 - (14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。

働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が72.7%で、そのうち「感じない」も39.4%となっており、問2の16項目の中で最も高くなっている。「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合は13.7%となっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、70%以上となっている。特に、伊勢志摩地域、東紀州地域はそれぞれ78.9%、78.2%で、そのうち「感じない」もそれぞれ47.9%、47.8%と高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は76.0%で、そのうち「感じない」も41.3%となっており、女性より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に40歳代、50歳代の「実感していない層」の割合がそれぞれ80.3%、81.4%と他の年代より高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、パート・アルバイト・派遣社員は79.1%で、そのうち「感じない」も45.5%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

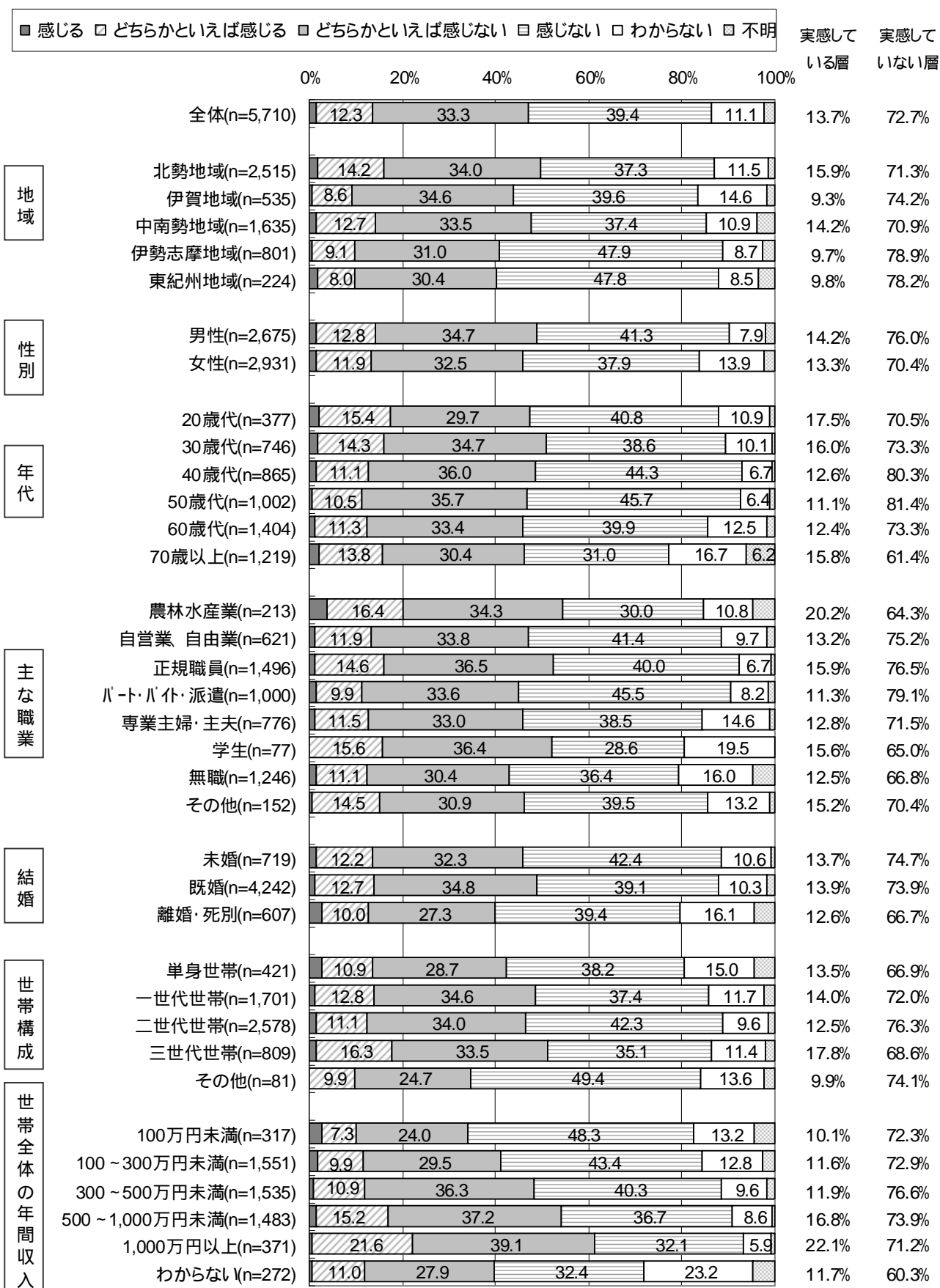
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、二世帯世帯は76.3%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が高くなっている。特に「感じない」については、年間収入額が少なくなるほど高く、1,000万円以上の32.1%に対し、100万円未満は48.3%となっている。

図表 3-2-19 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている



問2 - (15) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。

国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいるかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が64.2%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(17.3%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、男性は68.8%で、そのうち「感じない」が32.9%と、いずれも女性より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。なお、60歳代、70歳以上は他の年代に比べ、「実感していない層」の割合が低い一方、「わからない」が高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高く、特に、正規職員が72.7%と最も高くなっている。農林水産業は、「感じない」が21.1%で最も低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。離婚・死別は「実感していない層」の割合が54.1%とやや低く、「わからない」(23.7%)が高くなっている。

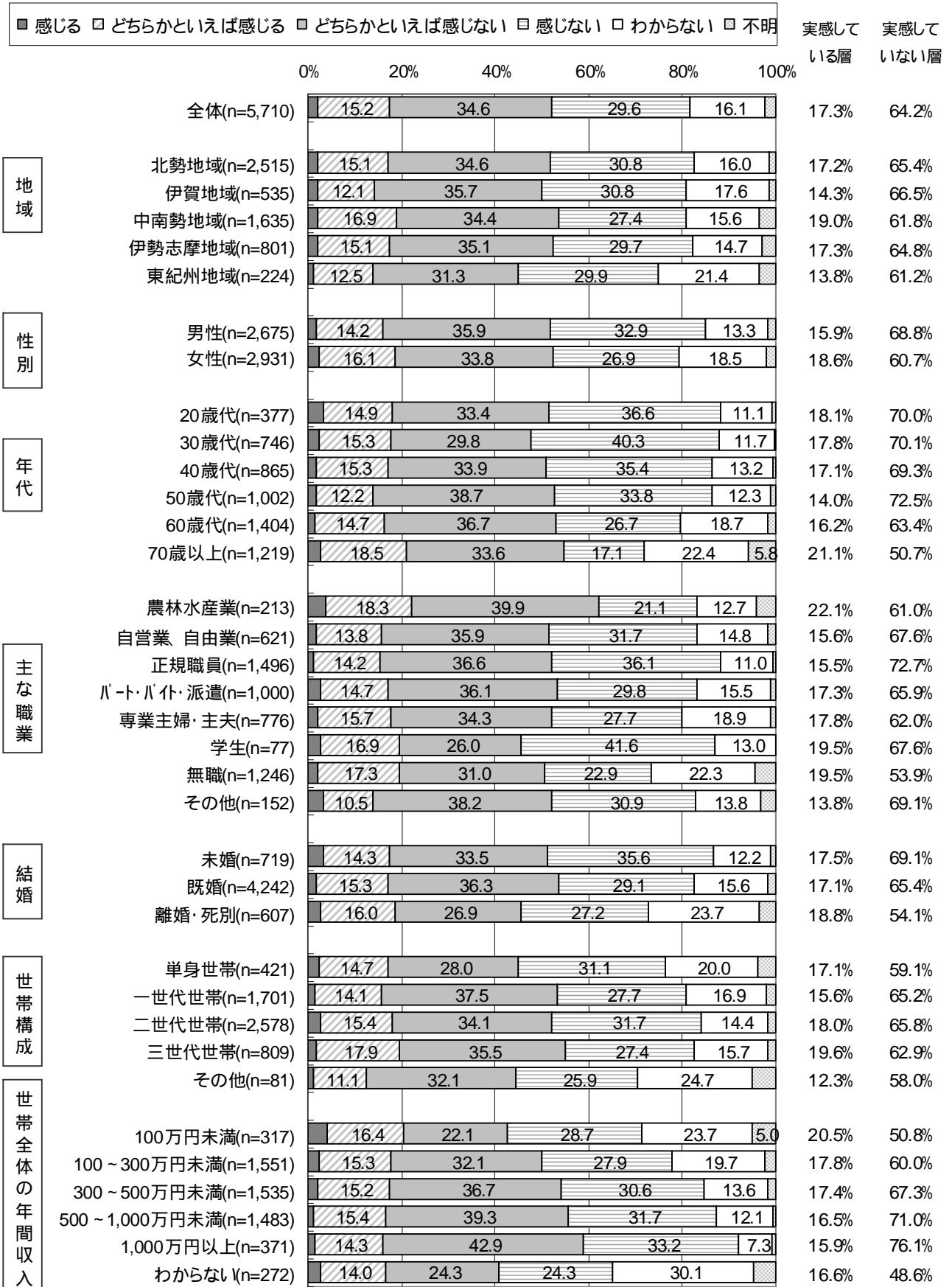
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感していない層」の割合が高く、100万円未満の50.8%に対し、1,000万円以上は76.1%となっている。一方、年間収入額が少なくなるほど「わからない」が高く、1,000万円以上の7.3%に対し、100万円未満は23.7%となっている。

図表 3-2-20 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる



問2 - (16) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

道路や公共交通機関等が整っているかどうかの実感については、「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した「実感していない層」の割合が55.9%で、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した「実感している層」の割合(37.5%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。特に、東紀州地域は「実感していない層」の割合が76.4%、そのうち「感じない」が45.1%で、最も高くなっている。また、伊賀地域も「実感していない層」の割合が68.1%となっている。北勢地域、中南勢地域は「実感している層」の割合がそれぞれ42.3%、39.9%と他の地域と比べ高くなっている。

【性別】

男女とも「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。70歳以上では「実感していない層」の割合が47.9%と他の年代に比べやや低くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

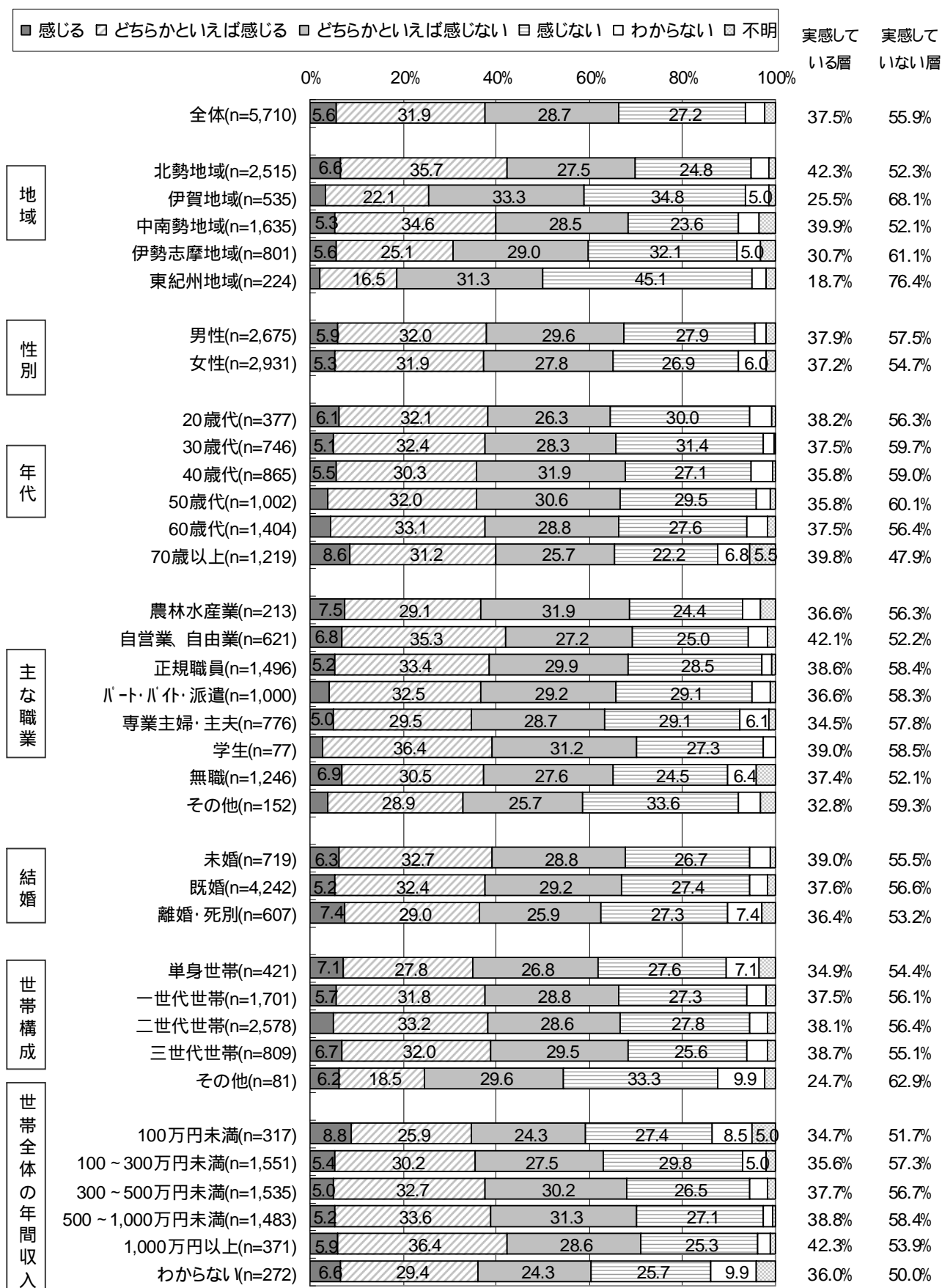
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「実感していない層」の割合が「実感している層」の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど「実感している層」の割合が高く、100万円未満の34.7%に対し、1,000万円以上は42.3%となっている。

図表 3-2-21 道路や公共交通機関等が整っている



3. 日ごろの暮らし

問3 次の(1)から(12)までの12の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを1つだけ選んでください。(はそれぞれ1つずつ)

日ごろの暮らしについての12項目の実感を聞いたところ、肯定的回答の割合は『家族との関係』が84.2%と最も高く、そのうち、「良好である」も44.9%と最も高くなっている。次いで『地域の住みやすさ』が80.0%と高く、『自由な時間』、『健康』、『相談できる友人や知人』も7割以上と高くなっている。

一方、否定的回答の割合は『ご近所付き合いや地域での活動』が38.8%と最も高く、そのうち、「していない」も22.2%と最も高くなっている。次いで『精神的なゆとり』が31.5%と高く、『余暇の充実』、『必要な収入』、『生きがい』も25.0%以上となっている。

1 問3の選択肢は項目によって異なるため、下記の通り、「ある」、「どちらかといえばある」、「どちらかといえばない」、「ない」を代表的なものとして表記した。

肯定的回答

・「ある」は、「している」、「良好である」、「思う」、「いる」、「住みやすい」を含む。

・「どちらかといえばある」は、「どちらかといえばしている」、「どちらかといえば良好である」、「どちらかといえば思う」、「どちらかといえばいる」、「どちらかといえば住みやすい」を含む。

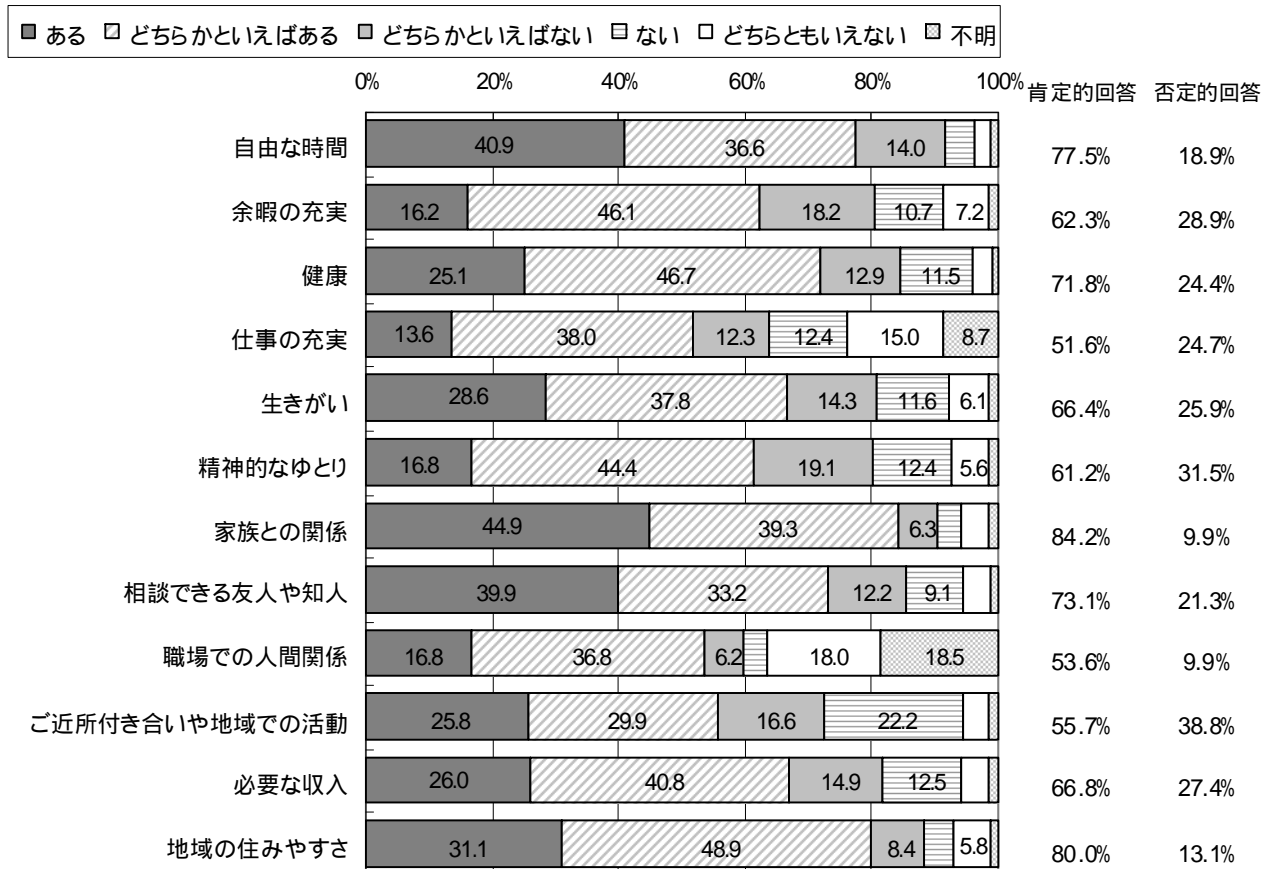
否定的回答

・「ない」は、「していない」、「良好でない」、「思わない」、「いない」、「住みにくい」を含む。

・「どちらかといえばない」は、「どちらかといえばしていない」、「どちらかといえば良好でない」、「どちらかといえば思わない」、「どちらかといえばいない」、「どちらかといえば住みにくい」を含む。

2 下の図表3-3-1に記載の肯定的回答は、「ある」と「どちらかといえばある」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「ない」と「どちらかといえばない」の割合を合計したものである。

図表3-3-1 日ごろの暮らしについて(項目別)



【地域別】

肯定的回答の割合をみると、すべての地域で「家族との関係」が最も高く、上位5項目は、順位に違いはあるものの、同じ項目となっている。

一方、否定的回答の割合は伊賀地域を除く地域で「ご近所付き合いや地域での活動」が最も高くなっている。伊賀地域は「余暇の充実」(32.9%)が最も高くなっているが、「ご近所付き合いや地域での活動」(32.7%)もほぼ同率となっている。

図表3-3-2 日ごろの暮らしについての肯定的回答(地域別上位5項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	家族との関係 84.3	地域の住みやすさ 81.2	自由な時間 77.3	健康 72.8	相談できる友人や知人 72.7
伊賀地域	家族との関係 84.1	自由な時間 76.8	相談できる友人や知人 73.5	地域の住みやすさ 72.7	健康 70.1
中南勢地域	家族との関係 84.7	地域の住みやすさ 81.7	自由な時間 76.8	健康 72.1	相談できる友人や知人 72.0
伊勢志摩地域	家族との関係 83.0	自由な時間 79.3	地域の住みやすさ 78.6	相談できる友人や知人 74.7	健康 68.9
東紀州地域	家族との関係 83.9	自由な時間 78.6	相談できる友人や知人 76.4	地域の住みやすさ 74.6	健康 70.6

図表3-3-3 日ごろの暮らしについての否定的回答(地域別上位5項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位
北勢地域	ご近所付き合いや地域での活動 39.7	精神的なゆとり 31.3	余暇の充実 28.9	生きがい 26.4	必要な収入 25.7
伊賀地域	余暇の充実 32.9	ご近所付き合いや地域での活動 32.7	精神的なゆとり 32.5	必要な収入 30.5	生きがい 29.9
中南勢地域	ご近所付き合いや地域での活動 39.6	精神的なゆとり 31.2	余暇の充実 27.8	必要な収入 26.4	生きがい 24.2
伊勢志摩地域	ご近所付き合いや地域での活動 40.2	精神的なゆとり 33.6	必要な収入 31.4	余暇の充実 28.3	健康 27.8
東紀州地域	ご近所付き合いや地域での活動 34.4	必要な収入 32.6	精神的なゆとり 28.2	余暇の充実 27.7	生きがい 26.7

問3 - (1) 自由な時間はありますか。

自由な時間については、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した肯定的回答の割合が77.5%で、「ない」と「どちらかといえはない」を合計した否定的回答の割合(18.9%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、76.0%以上となっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。特に、60歳代以上は肯定的回答の割合が8割以上と高く、70歳以上は「ある」が60.9%となっている。30歳代、40歳代は肯定的回答の割合がそれぞれ62.8%、66.6%、「ある」もそれぞれ24.1%、26.4%で他の年代と比べ低く、また否定的回答の割合はそれぞれ33.6%、30.0%で他の年代と比べ高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、無職は91.1%と最も高く、専業主婦・主夫も82.1%と高くなっている。正規職員、自営業・自由業は肯定的回答の割合がそれぞれ67.9%、68.6%とやや低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、離婚・死別は「ある」が53.9%と高くなっている。

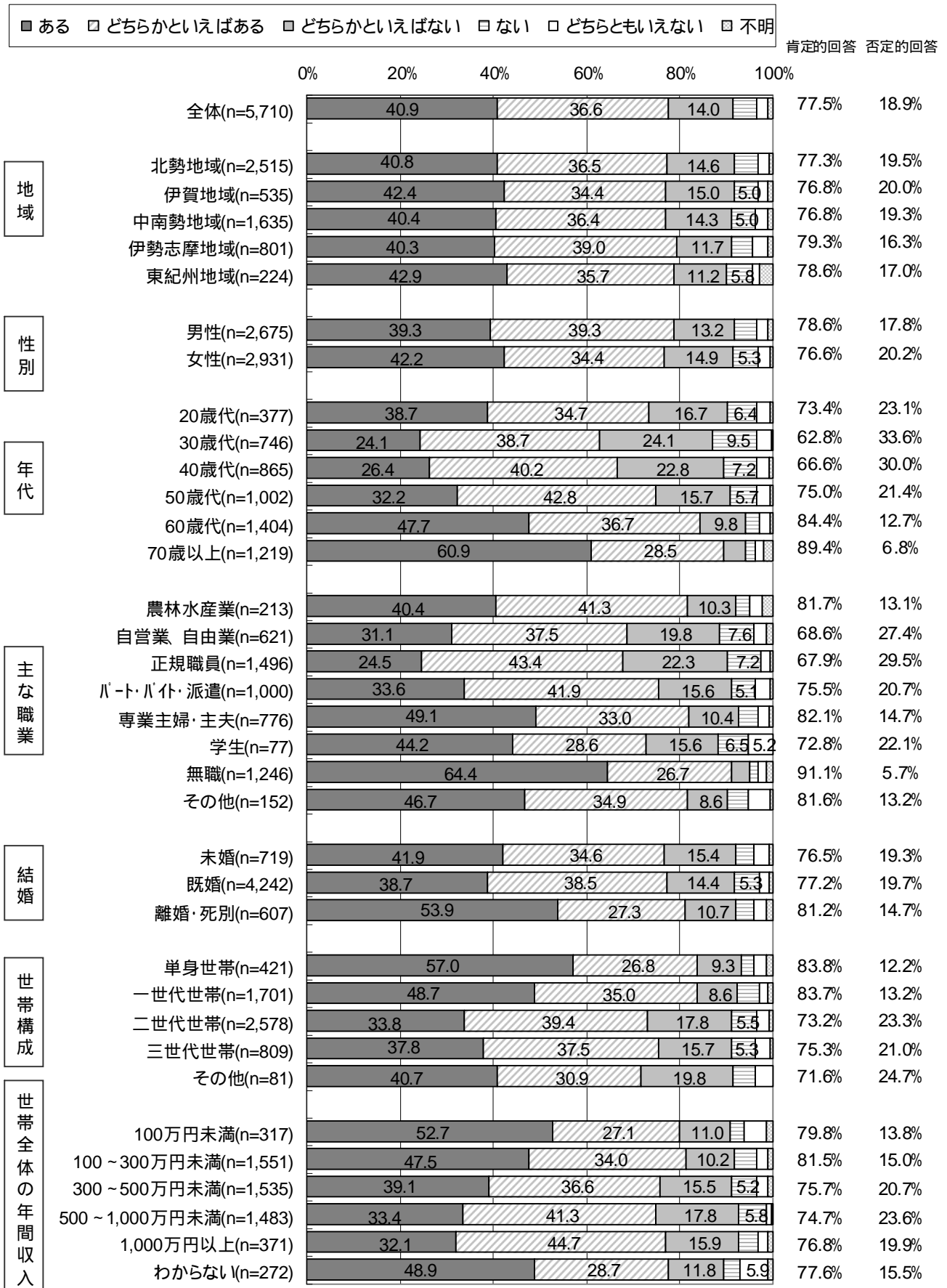
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。特に、単身世帯、一世代世帯は肯定的回答の割合が8割以上と高く、そのうち、単身世帯は「ある」も57.0%となっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が少なくなるほど「ある」が高く、1,000万円以上の32.1%に対し、100万円未満は52.7%となっている。

図表3-3-4 自由な時間



問3 - (2) 余暇は充実していますか。

余暇については、「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合計した肯定的回答の割合が 62.3%で、「充実していない」と「どちらかといえば充実していない」を合計した否定的回答の割合（28.9%）より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、男性が 60.4%、女性が 64.3%となっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、20歳代は 71.4%で、そのうち、「充実している」も 25.5%と最も高くなっている。一方、40歳代、50歳代は肯定的回答の割合がそれぞれ 54.5%、56.7%とやや低く、否定的回答の割合がそれぞれ 38.0%、35.2%とやや高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっているが、自営業・自由業は 56.1%でやや低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

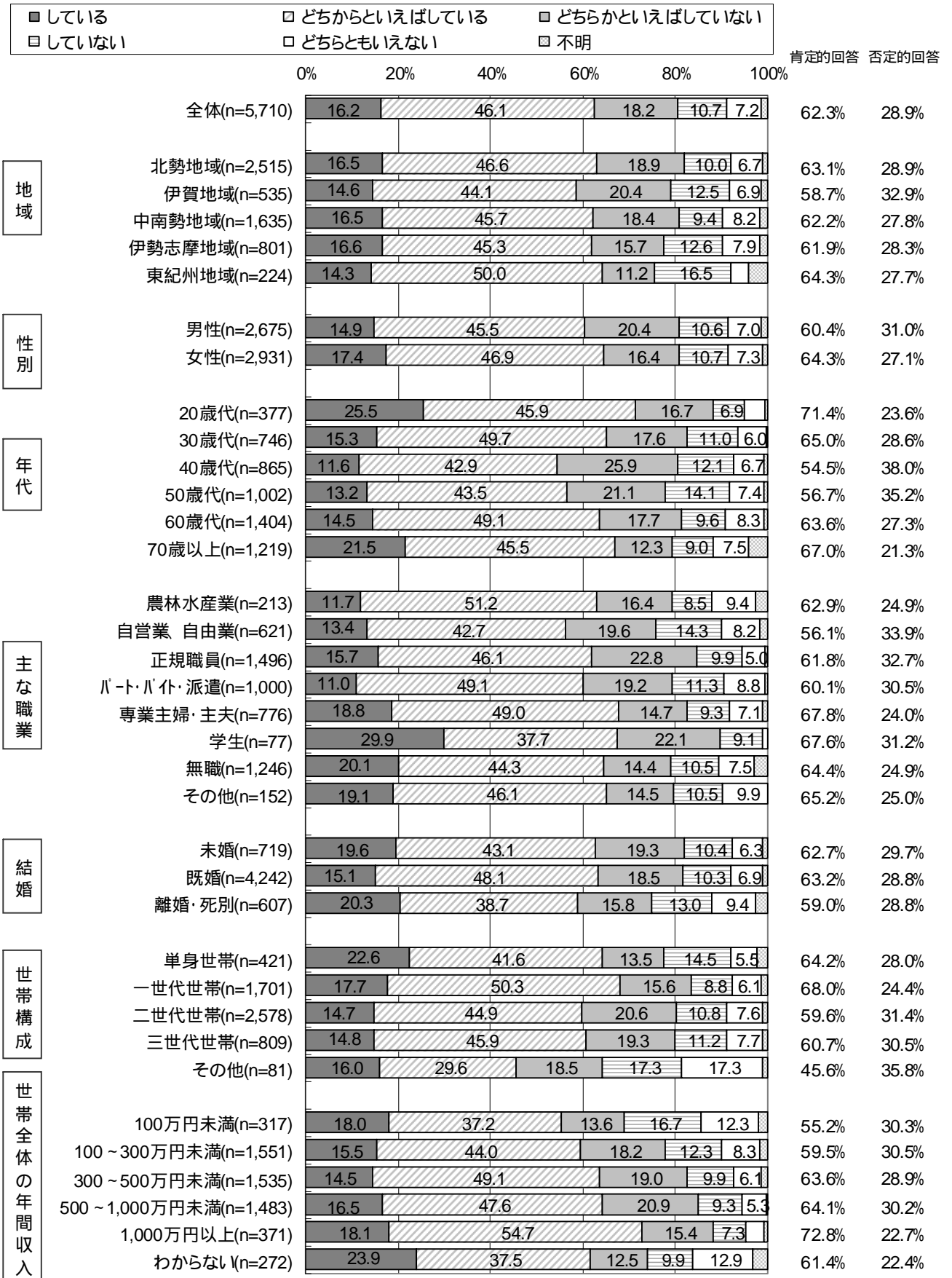
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、一世代世帯が 68.0%と最も高くなっている。また、単身世帯は「充実している」が 22.6%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の 55.2%に対し、1,000万円以上は 72.8%となっている。また、年間収入が少なくなるほど「充実していない」が高く、1,000万円以上の 7.3%に対し、100万円未満は 16.7%となっている。

図表 3-3-5 余暇の充実



問3 - (3) 健康だと思いますか。

健康については、「健康だと思う」と「どちらかといえば健康だと思う」を合計した肯定的回答の割合が71.8%で、「健康だと思わない」と「どちらかといえば健康だと思わない」を合計した否定的回答の割合(24.4%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、女性が75.1%と男性(69.0%)より6.1ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。若い世代ほど肯定的回答の割合が高く、20歳代、30歳代はそれぞれ83.8%、81.1%であるのに対し、70歳以上では60.1%となっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。無職は否定的回答の割合が36.9%、そのうち「健康だと思わない」が21.2%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。離婚・死別は否定的回答の割合が30.3%で、そのうち「健康だと思わない」が16.8%と最も高くなっている。

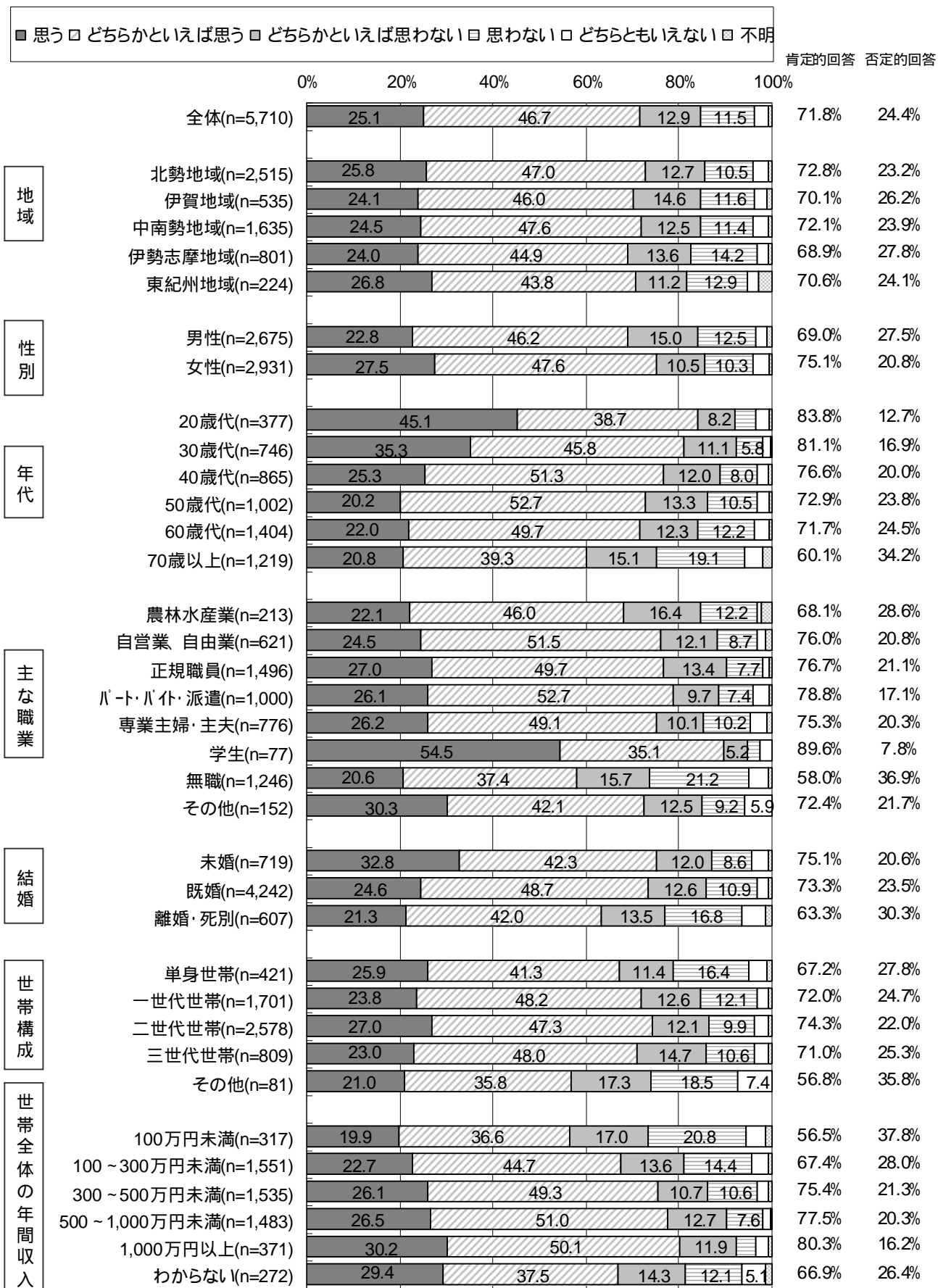
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。単身世帯は否定的回答の割合が27.8%で、そのうち「健康だと思わない」が16.4%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の56.5%に対し、1,000万円以上は80.3%となっている。

図表3-3-6 健康



問3 - (4) 仕事は充実していますか。

仕事については、「充実している」と「どちらかといえば充実している」を合計した肯定的回答の割合が 51.6%で、「充実していない」と「どちらかといえば充実していない」を合計した否定的回答の割合(24.7%)より高くなっている。なお、「どちらともいえない」(15.0%)、「不明」(8.7%)が他の質問に比べやや高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。肯定的回答の割合は中南勢地域が 53.3%と最も高く、東紀州地域が 45.5%と最も低くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。男性は、否定的回答の割合が 29.3%で、女性(20.7%)より 8.6ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、30歳代から50歳代は肯定的回答の割合が6割以上となっている。60歳代以上は「どちらともいえない」、「不明」が高く、これらを合わせると、60歳代は 29.1%、70歳以上は 43.2%となっている。

【主な職業別】

無職を除くすべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、正規職員は肯定的回答の割合が 70.9%と最も高くなっている。自由業・自営業は否定的回答の割合が 30.0%と最も高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。未婚は、否定的回答の割合が 34.0%、「充実していない」も 18.4%とやや高くなっている。なお、離婚・死別は「どちらともいえない」、「不明」を合わせると 32.3%となっている。

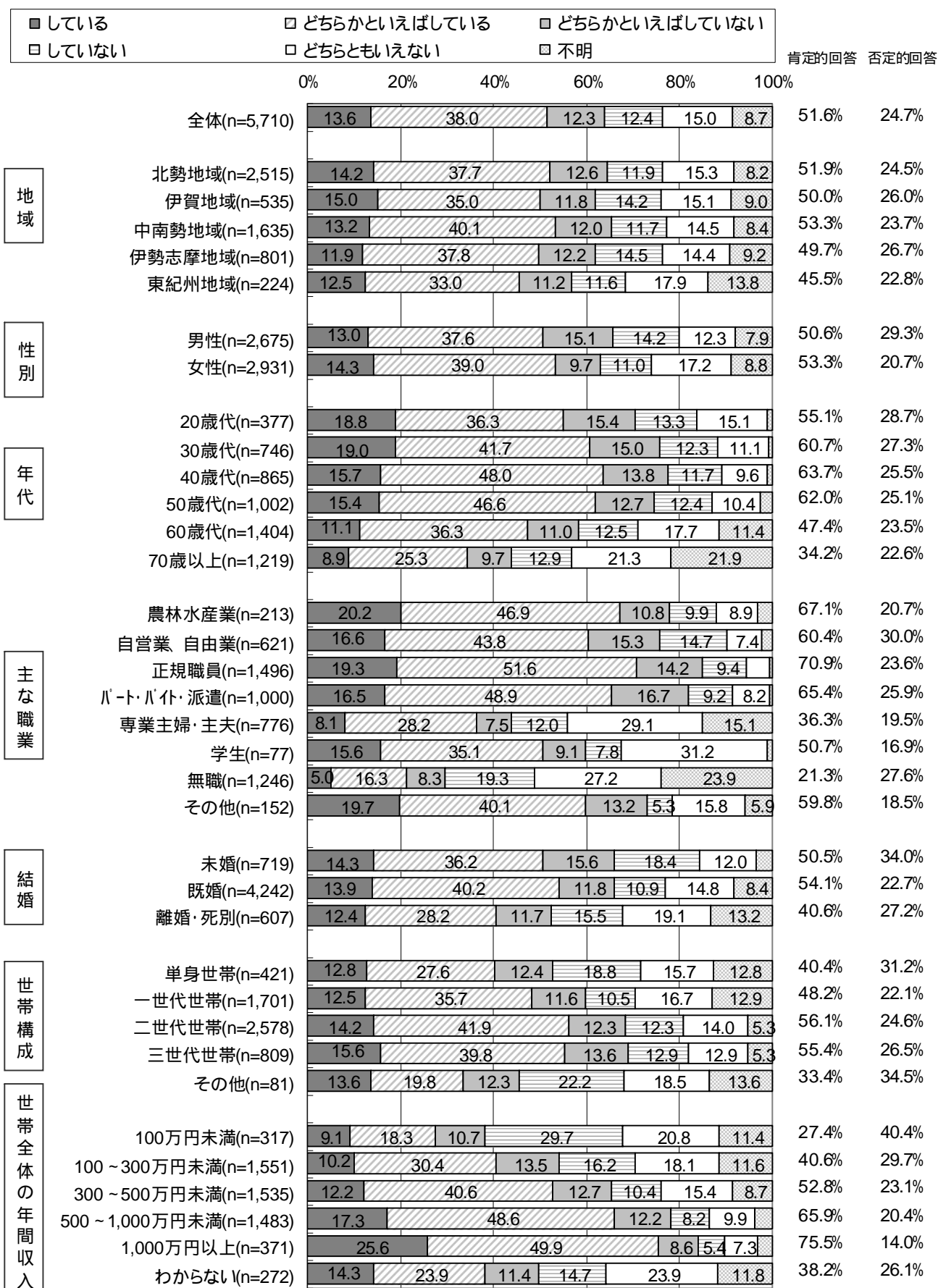
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。単身世帯は否定的回答の割合が 31.2%、そのうち、「充実していない」も 18.8%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

100万円未満は否定的回答の割合が肯定的回答の割合より高く、100万円以上の層は肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の 27.4%に対し、1,000万円以上は 75.5%となっている。一方、年間収入額が少なくなるほど否定的回答の割合が高く、1,000万円以上の 14.0%に対し、100万円未満は 40.4%となっており、「充実していない」も 29.7%となっている。

図表3-3-7 仕事の充実



問3 - (5) 生きがいにしているものはありますか。

生きがいについては、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した肯定的回答の割合が66.4%で、「ない」と「どちらかといえはない」を合計した否定的回答の割合(25.9%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっており、特に中南勢地域が68.5%と最も高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、男性は65.0%、女性は68.2%となっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、30歳代は76.5%と最も高くなっている。また、20歳代は「ある」が42.7%と最も高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。無職は肯定的回答の割合が58.4%と最も低く、否定的回答の割合が31.7%となっており、そのうち「ない」も17.3%となっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、既婚は69.1%で未婚(57.8%)より11.3ポイント高くなっている。未婚は否定的回答の割合が35.7%で、そのうち「ない」が18.2%と最も高くなっている。

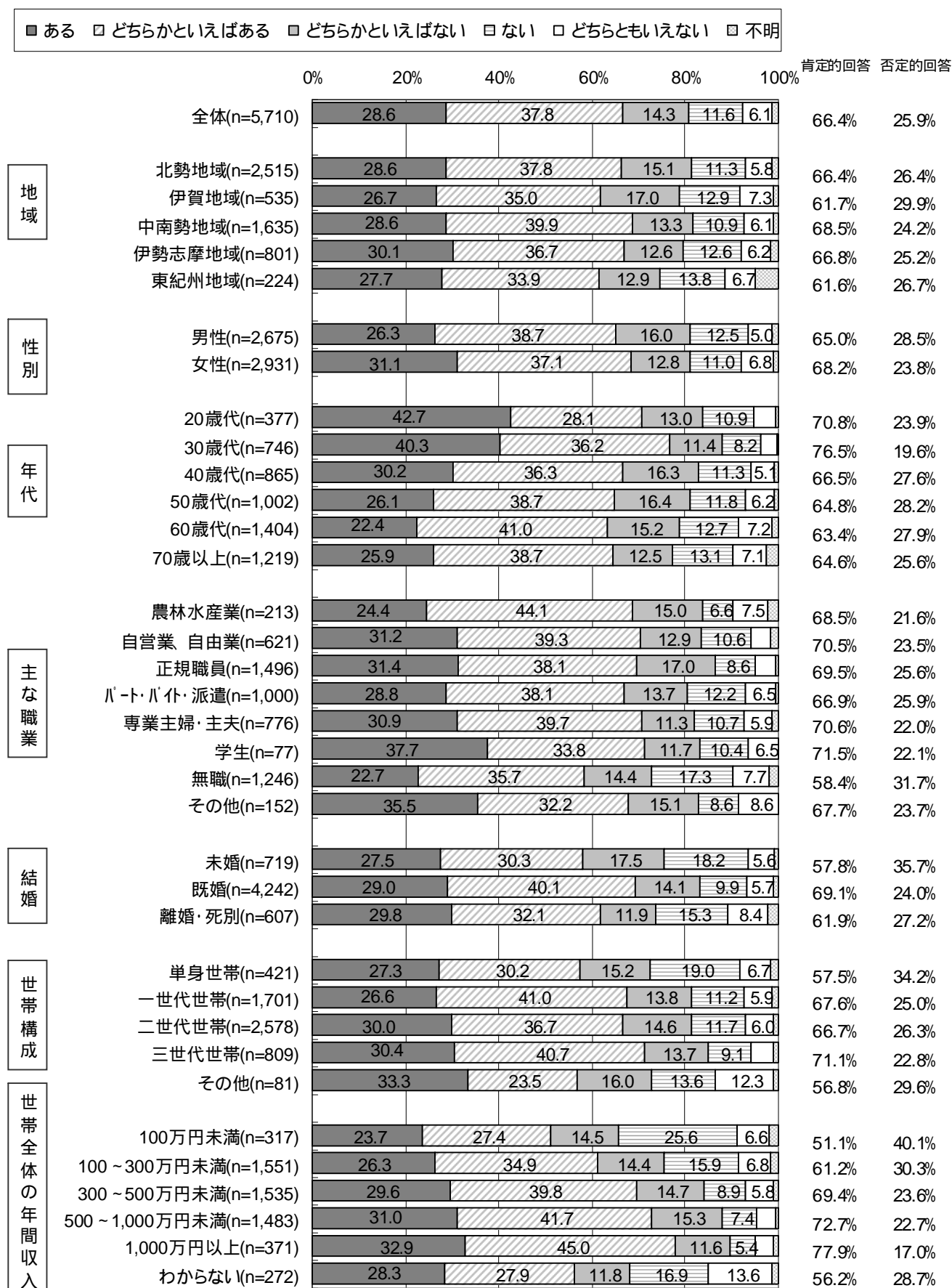
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。世帯を構成する世代数が多いほど肯定的回答の割合が高く、単身世帯の57.5%に対し、三世帯世帯は71.1%となっている。単身世帯は否定的回答の割合が34.2%で、そのうち「ない」が19.0%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の51.1%に対し、1,000万円以上は77.9%となっている。100万円未満は否定的回答の割合が40.1%で、そのうち「ない」が25.6%と最も高くなっている。

図表3-3-8 生きがい



問3 - (6) 精神的なゆとりはありますか。

精神的なゆとりについては、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した肯定的回答の割合が61.2%で、「ない」と「どちらかといえはない」を合計した否定的回答の割合(31.5%)より高くなっているが、問3の12項目の中では『ご近所付き合いや地域での活動』に次いで否定的回答の割合が高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、男性が60.0%、女性が62.7%となっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。40歳代は肯定的回答の割合が52.5%と他の年代に比べ低く、否定的回答の割合が41.6%と高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、農林水産業、専業主婦・主夫はそれぞれ66.7%、68.0%と高くなっている。一方、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員は否定的回答の割合がやや高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、既婚は肯定的回答の割合が63.7%と最も高くなっている。否定的回答の割合は未婚が40.3%、離婚・死別が33.1%で、既婚より高くなっている。

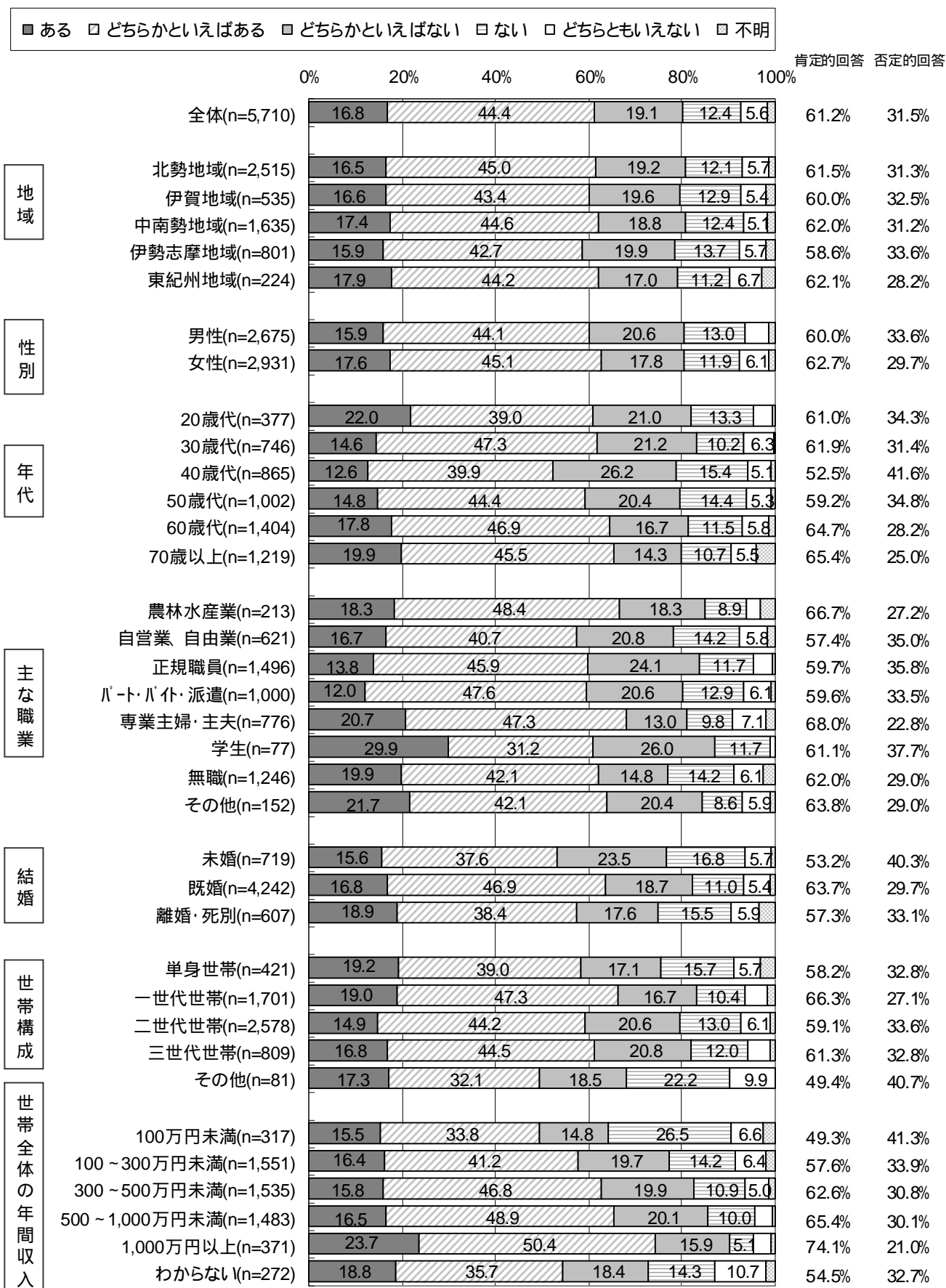
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の49.3%に対し、1,000万円以上は74.1%となっている。100万円未満は「ない」が26.5%と最も高くなっている。

図表3-3-9 精神的なゆとり



問3 - (7) ご家族との関係は良好ですか。

家族との関係については、「良好である」と「どちらかといえば良好である」を合計した肯定的回答の割合が 84.2%で、「良好でない」と「どちらかといえば良好でない」を合計した否定的回答の割合(9.9%)より高くなっている。問3の12項目の中で肯定的回答の割合が最も高く、そのうち「良好である」も 44.9%と最も高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。伊賀地域は「良好である」が 40.2%とやや低くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、30歳代は 90.8%と最も高くなっている。「良好である」は 20歳代、30歳代がそれぞれ 58.9%、55.9%と高く、60歳代が 38.7%と最も低くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。「良好である」は正規職員が 50.6%で最も高く、無職が 40.4%で最も低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、既婚が 87.4%と最も高くなっている。離婚・死別は肯定的回答の割合が 74.3%で、そのうち、「良好である」が 36.6%と最も低くなっている。

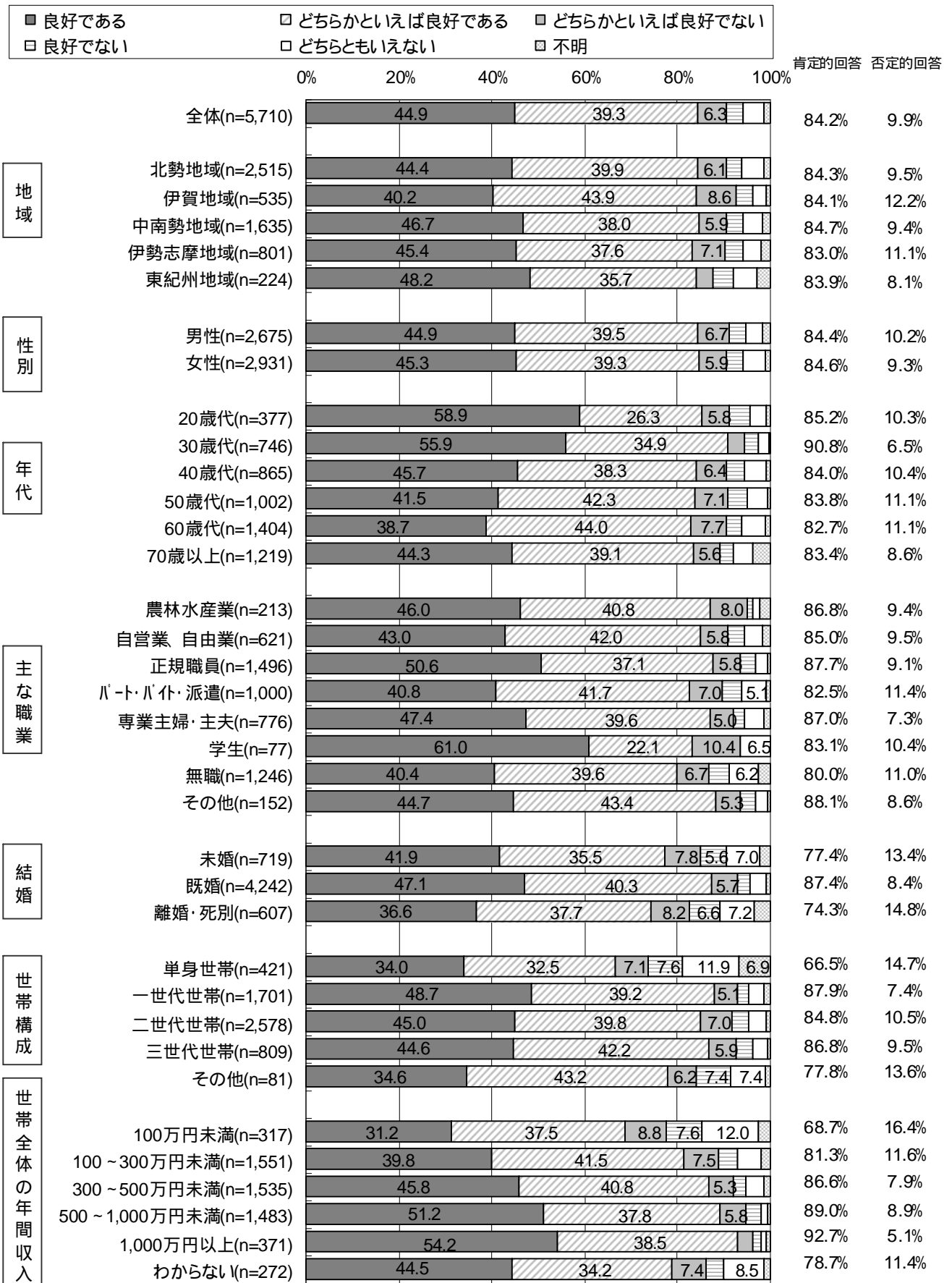
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。単身世帯は肯定的回答の割合が 66.5%、「良好である」も 34.0%と最も低くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の 68.7%に対し、1,000万円以上は 92.7%となっている。

図表 3-3-10 家族との関係



問3 - (8) いざという時に相談できる友人や知人はいますか。

相談できる友人や知人については、「いる」と「どちらかといえばいる」を合計した肯定的回答の割合が73.1%で、「いない」と「どちらかといえばいない」を合計した否定的回答の割合(21.3%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、女性は肯定的回答の割合が80.0%と男性(65.7%)より14.3ポイント高く、そのうち「いる」も49.5%と男性(29.7%)より19.8ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。特に、20歳代、30歳代は肯定的回答の割合が8割以上と高く、そのうち「いる」もそれぞれ63.1%、53.1%と高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、専業主婦・主夫は80.2%と高くなっている。無職は肯定的回答の割合が67.1%と最も低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合は否定的回答より高くなっている。

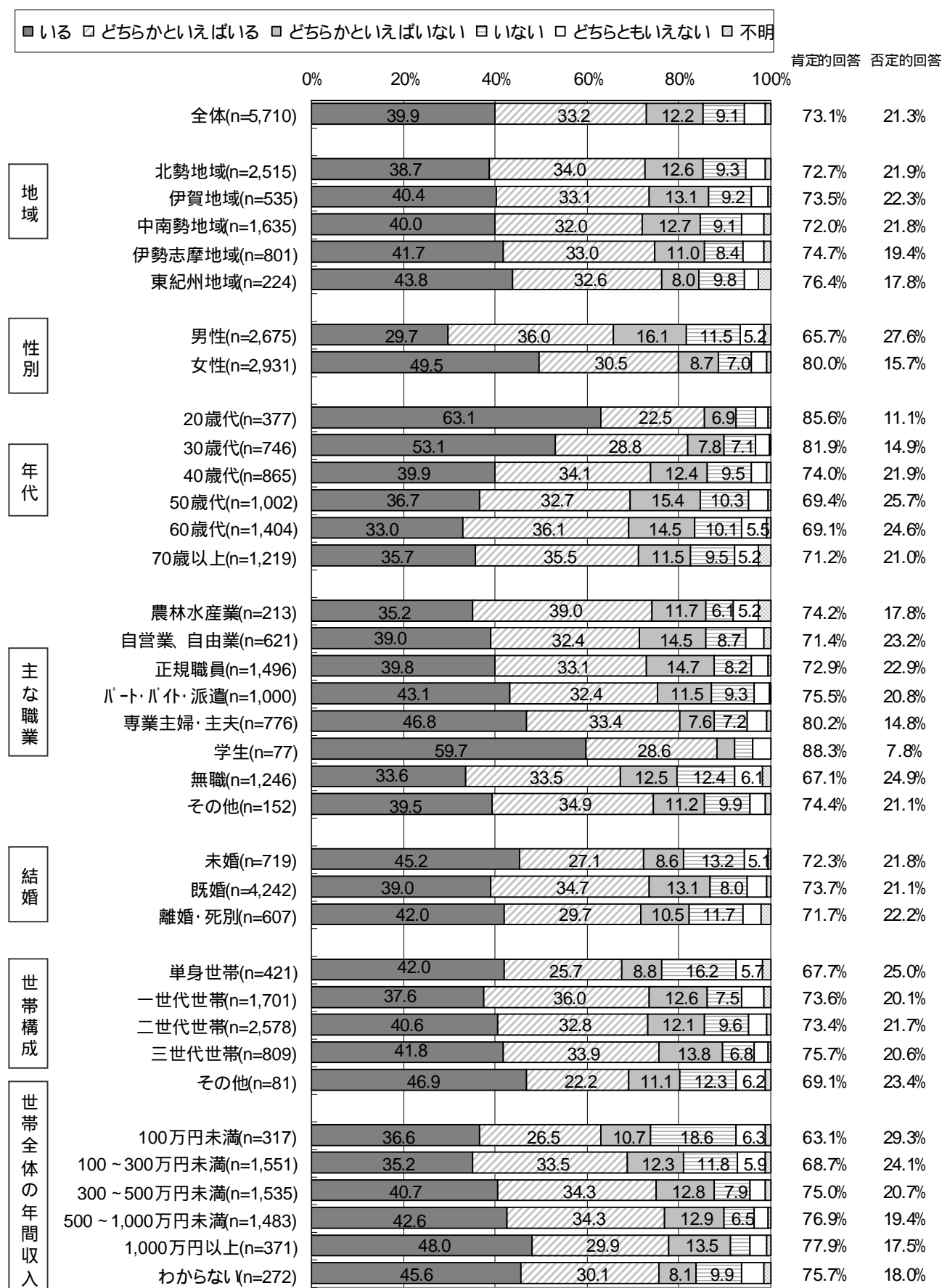
【世帯構成別】

世帯構成に関わらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。単身世帯は否定的回答の割合が25.0%で、そのうち「いない」も16.2%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の63.1%に対し、1,000万円以上は77.9%となっている。否定的回答の割合は100万円未満が29.3%で最も高く、そのうち「いない」が18.6%となっている。

図表3-3-11 相談できる友人や知人



問3 - (9) 職場での人間関係は良好ですか。

職場での人間関係については、「良好である」と「どちらかといえば良好である」を合計した肯定的回答の割合が53.6%で、「良好でない」と「どちらかといえば良好でない」を合計した否定的回答の割合(9.9%)より高くなっている。なお、「どちらともいえない」(18.0%)、「不明」(18.5%)が他の質問に比べやや高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、男性は57.2%、女性は51.3%となっている。女性は「どちらともいえない」が19.7%、「不明」が21.1%と高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。若い年代ほど「良好である」が高く、60歳代の11.5%、50歳代の19.0%に対し、20歳代は32.6%となっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、自営業・自由業、正規職員、パート・アルバイト・派遣社員は肯定的回答の割合が7割以上となっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらずいずれも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、未婚は62.7%と最も高くなっている。離婚・死別は「不明」が28.7%となっている。

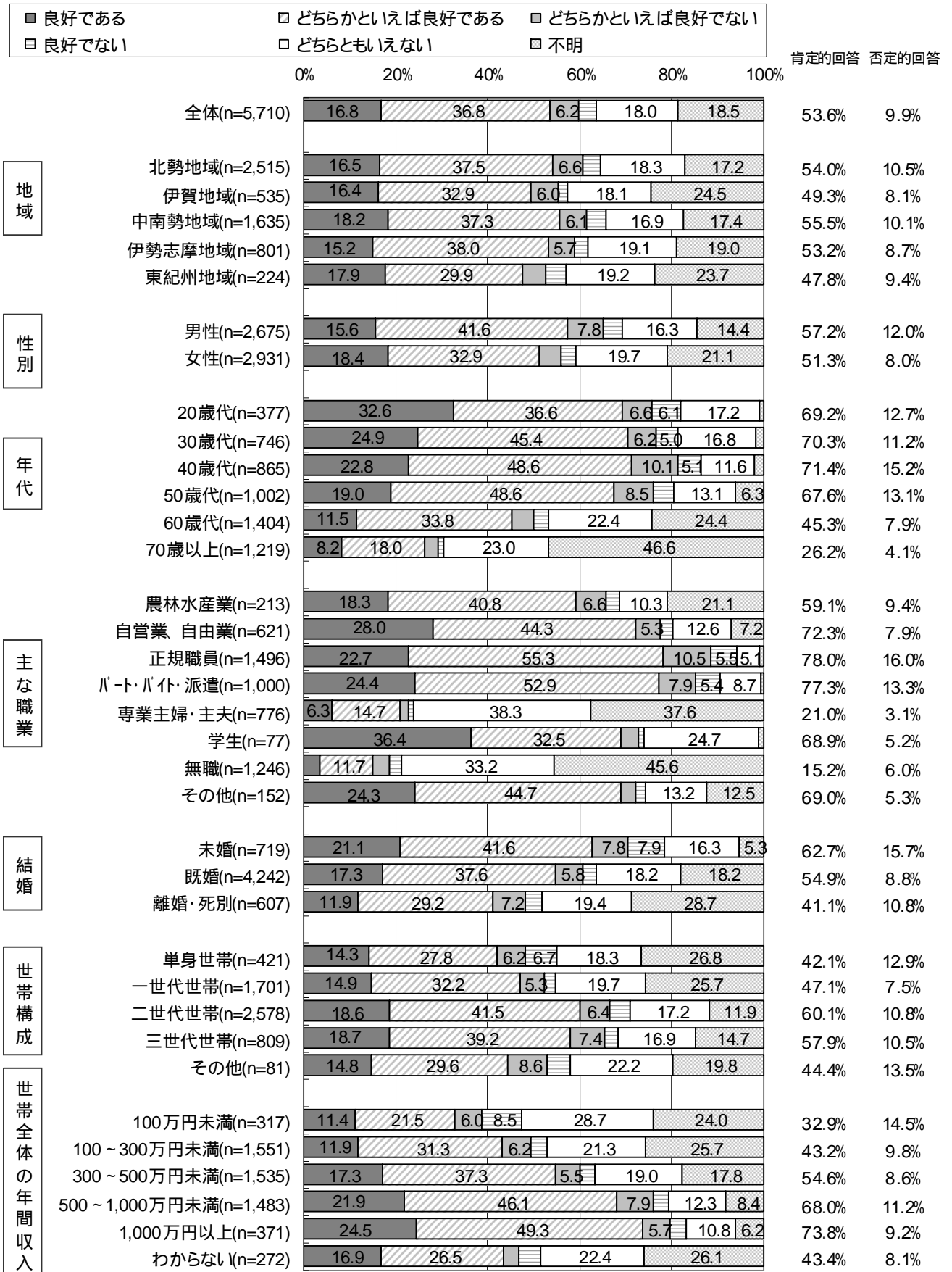
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、二世帯世帯、三世帯世帯はそれぞれ60.1%、57.9%と高くなっている。単身世帯は肯定的回答の割合が42.1%と最も低くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の32.9%に対し、1,000万円以上は73.8%となっている。

図表 3-3-12 職場での人間関係



問3 - (10) ご近所付き合いや、地域での活動(自治会、青年団、子供会など)はされていますか。

ご近所付き合いや、地域での活動については、「している」と「どちらかといえばしている」を合計した肯定的回答の割合が55.7%で、「していない」と「どちらかといえばしていない」を合計した否定的回答の割合(38.8%)より高くなっている。問3の12項目の中で、否定的回答の割合が最も高く、そのうち「していない」も22.2%と最も高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、伊賀地域、東紀州地域はいずれも60.7%で最も高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、男性は55.3%、女性は56.2%でほぼ同率となっている。

【年代別】

20歳代と30歳代は否定的回答の割合が肯定的回答の割合より高く、40歳代以上は肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。20歳代は否定的回答の割合が67.9%で、そのうち「していない」が49.3%と高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、農林水産業は80.3%で、そのうち「している」も42.7%と最も高くなっている。正規職員は肯定的回答の割合が49.8%とやや低く、否定的回答の割合(47.5%)とほぼ同率となっている。

【結婚別】

既婚、離婚・死別は肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、未婚は否定的回答の割合が肯定的回答の割合より高くなっている。未婚は否定的回答の割合が70.1%で、そのうち「していない」が48.5%と最も高くなっている。

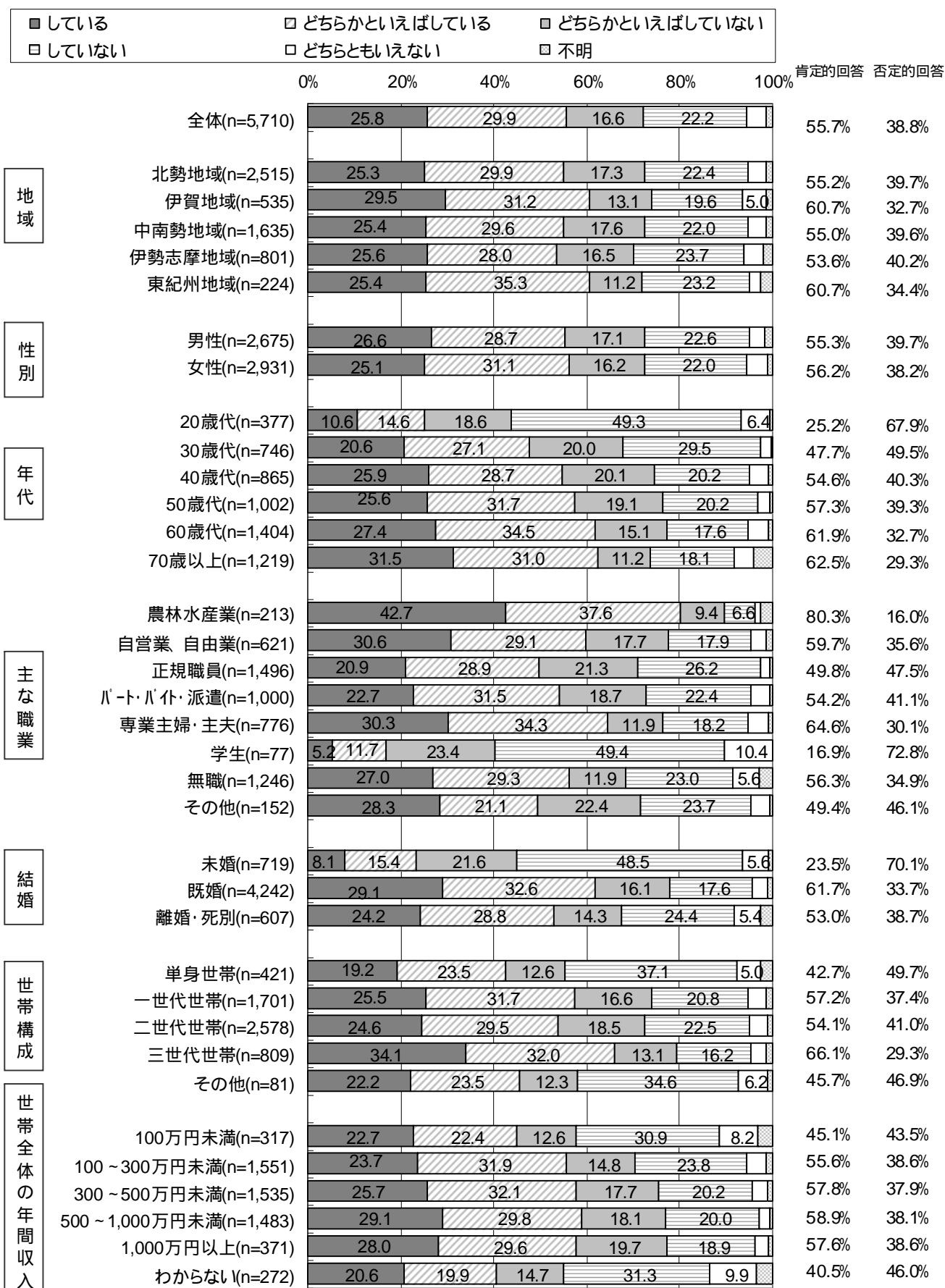
【世帯構成別】

単身世帯を除くすべての世帯で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に三世帯世帯が66.1%と最も高くなっている。単身世帯は否定的回答の割合が49.7%で、そのうち「していない」が37.1%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。100万円未満は否定的回答の割合が43.5%で、そのうち「していない」が30.9%と最も高くなっている。

図表 3-3-13 ご近所付き合いや地域での活動



問3 - (11) 日常生活を営むうえで必要な収入はありますか。

必要な収入については、「ある」と「どちらかといえばある」を合計した肯定的回答の割合が66.8%で、「ない」と「どちらかといえはない」を合計した否定的回答の割合(27.4%)より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、北勢地域が68.8%と最も高く、東紀州地域が60.3%と最も低くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、男性は65.3%、女性は69.1%となっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。20歳代は肯定的回答の割合が59.6%とやや低く、否定的回答の割合が34.2%とやや高くなっている。また、70歳以上は「ある」が22.0%と最も低くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、正規職員は79.0%と最も高くなっている。無職は肯定的回答の割合が56.3%と低く、否定的回答の割合が35.4%と高くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、既婚は肯定的回答の割合が70.9%と高くなっている。

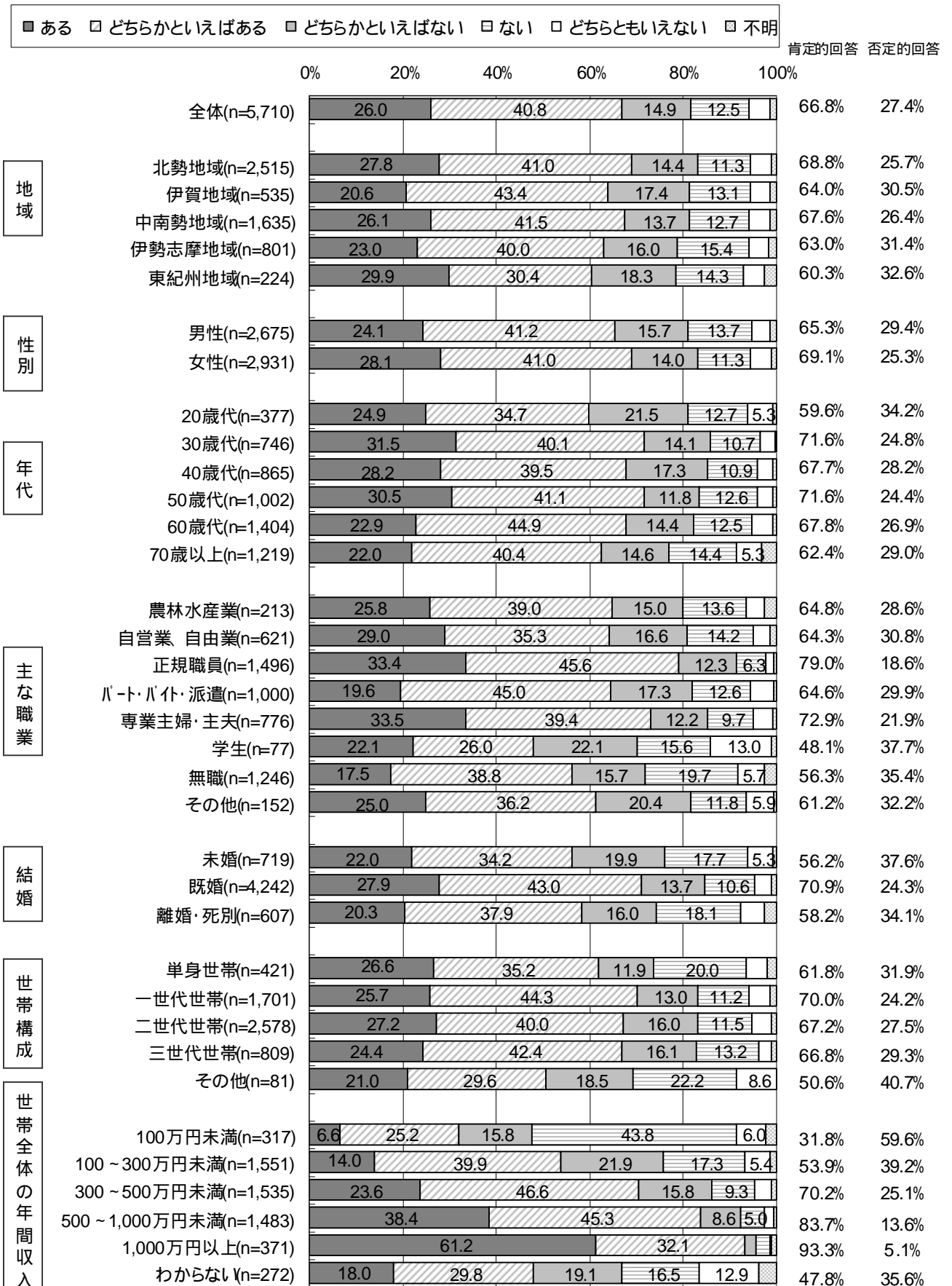
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。単身世帯は肯定的回答の割合が61.8%と最も低く、否定的回答の割合は31.9%で、特に「ない」が20.0%と最も高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

100万円未満は否定的回答の割合が肯定的回答の割合より高く、100万円以上の層は肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の31.8%に対し、1,000万円以上は93.3%となっており、そのうち「ある」が61.2%となっている。

図表3-3-14 必要な収入



問3 - (12) あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

現在お住まいの地域の住みやすさについては、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した肯定的回答の割合が 80.0%で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計した否定的回答の割合は 13.1%となっている。また、問3の12項目の中で、『家族との関係』に次いで肯定的回答の割合が高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。伊賀地域は肯定的回答の割合が 72.7%で最も低く、中南勢地域(81.7%)、北勢地域(81.2%)より8ポイント以上低くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。「住みやすい」は20歳代が 39.8%と最も高くなっている。

【主な職業別】

すべての職業で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、農林水産業は 87.3%で、そのうち「住みやすい」も 43.2%と最も高くなっている。一方、パート・アルバイト・派遣社員は「住みやすい」が 26.0%と最も低くなっている。

【結婚別】

結婚経験にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。

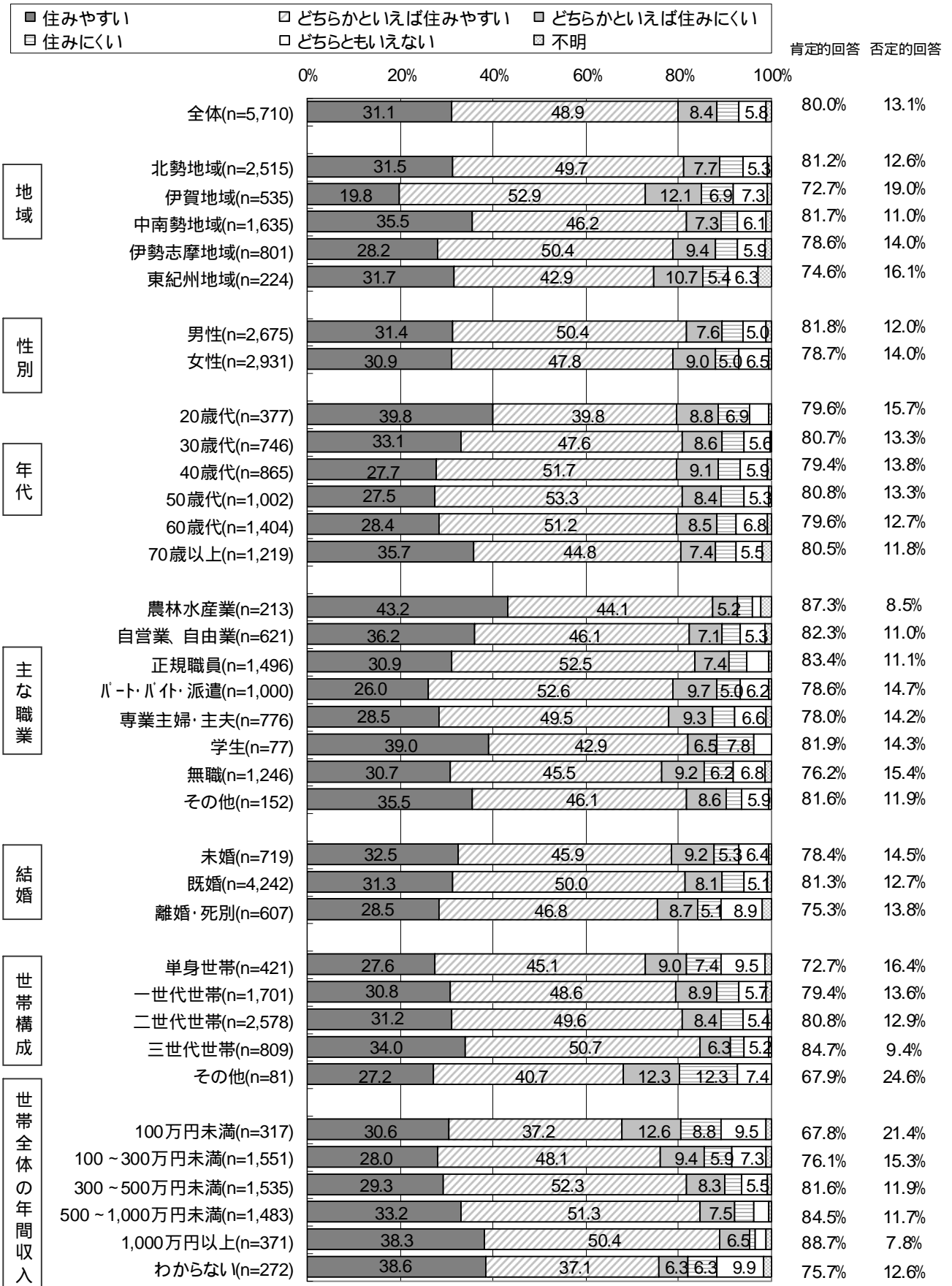
【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。世帯を構成する世代数が多いほど肯定的回答の割合が高く、単身世帯の 72.7%に対し、三世帯世帯が 84.7%となっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の 67.8%に対し、1,000万円以上は 88.7%となっている。

図表 3-3-15 地域の住みやすさ



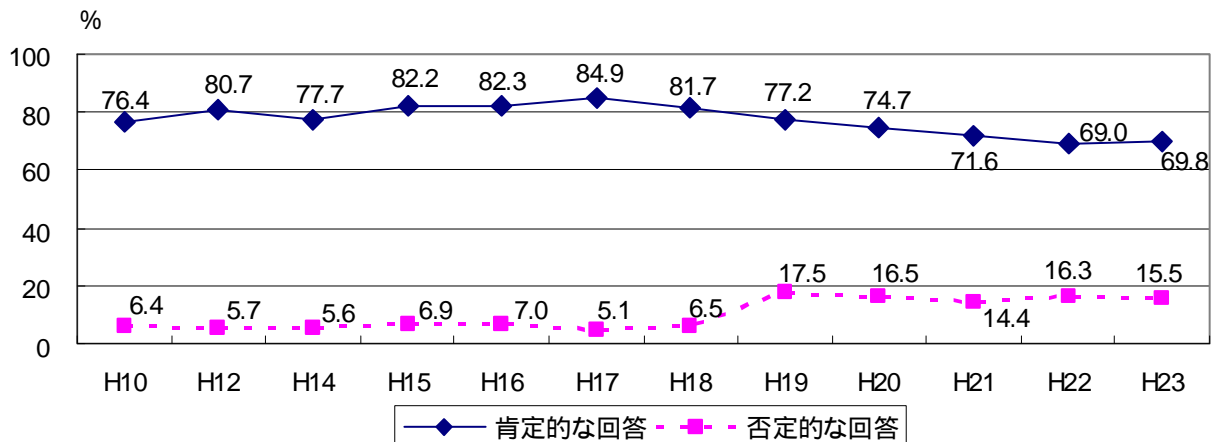
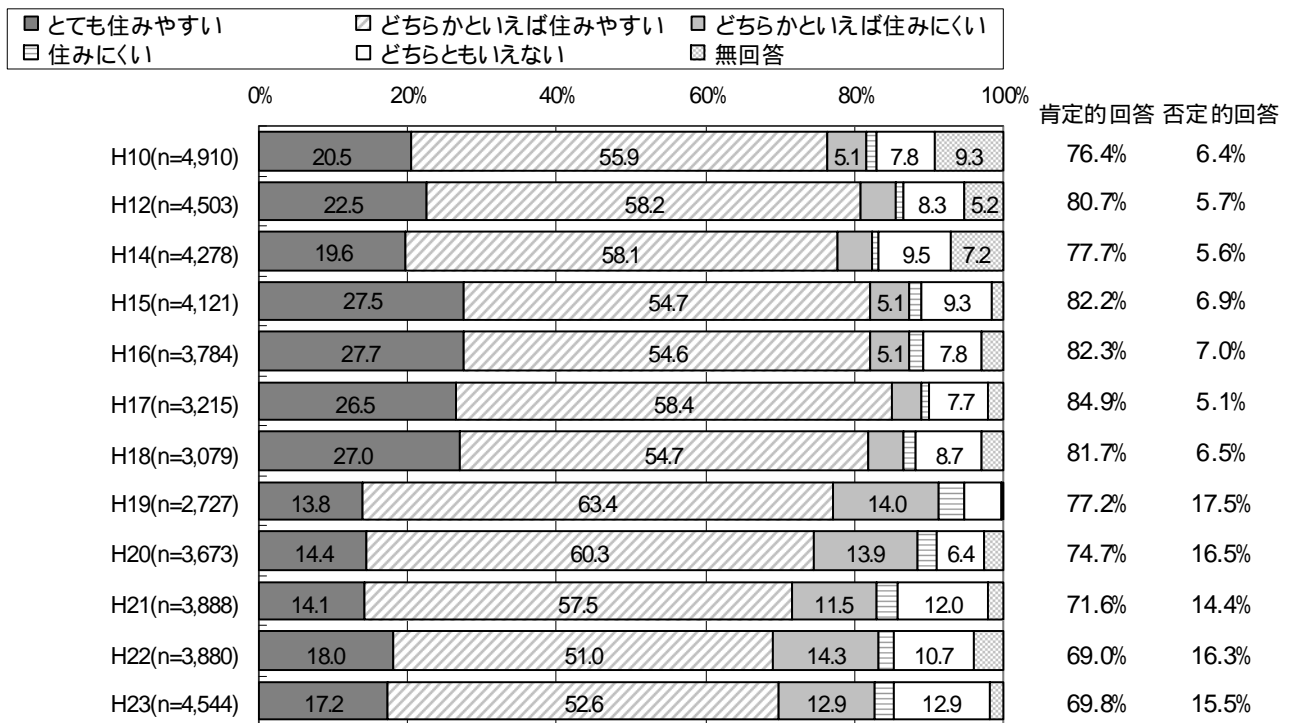
参考：一万人アンケート

平成 23 年度まで実施してきた一万人アンケートでは、「地域の住みやすさ」について質問している。

平成 23 年度は「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した肯定的回答が 69.8%で、そのうち、「とても住みやすい」が 17.2%となっている。一方、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計した否定的回答は 15.5%となっている。

肯定的回答は、「とても住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」の割合を合計したものである。

あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。



一万人アンケートとみえ県民意識調査とは、選択肢が異なるため、あくまで参考値である。

個別テーマについて

今回の調査では、個別テーマとして下記のテーマについて質問しています。

食の安全・安心

観光振興

地球温暖化対策

4. 食の安全・安心（個別テーマ）

問4 - 1 あなたは、食品の安全性について、普段どう感じていますか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（は1つだけ）

食品の安全性について、普段どう感じているかを質問したところ、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」を合計した肯定的回答の割合が 52.1%となっており、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」を合計した否定的回答の割合（44.5%）よりやや高くなっている。

【性別】

男性は肯定的回答の割合が 59.2%で、否定的回答の割合（37.6%）より高くなっている。女性は否定的回答の割合が 51.1%で、肯定的回答の割合（45.7%）より高くなっている。

【年代別】

50歳代を除くすべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、20歳代は肯定的回答の割合が 64.2%で、そのうち「不安は感じていない」が 25.7%と最も高くなっている。

さらに、性・年代別で見ると、50歳代と60歳代の女性の否定的回答の割合がそれぞれ 59.7%、55.3%と高くなっている。また、20歳代の男性は「不安は感じていない」が 33.9%と最も高くなっている。

【主な職業別】

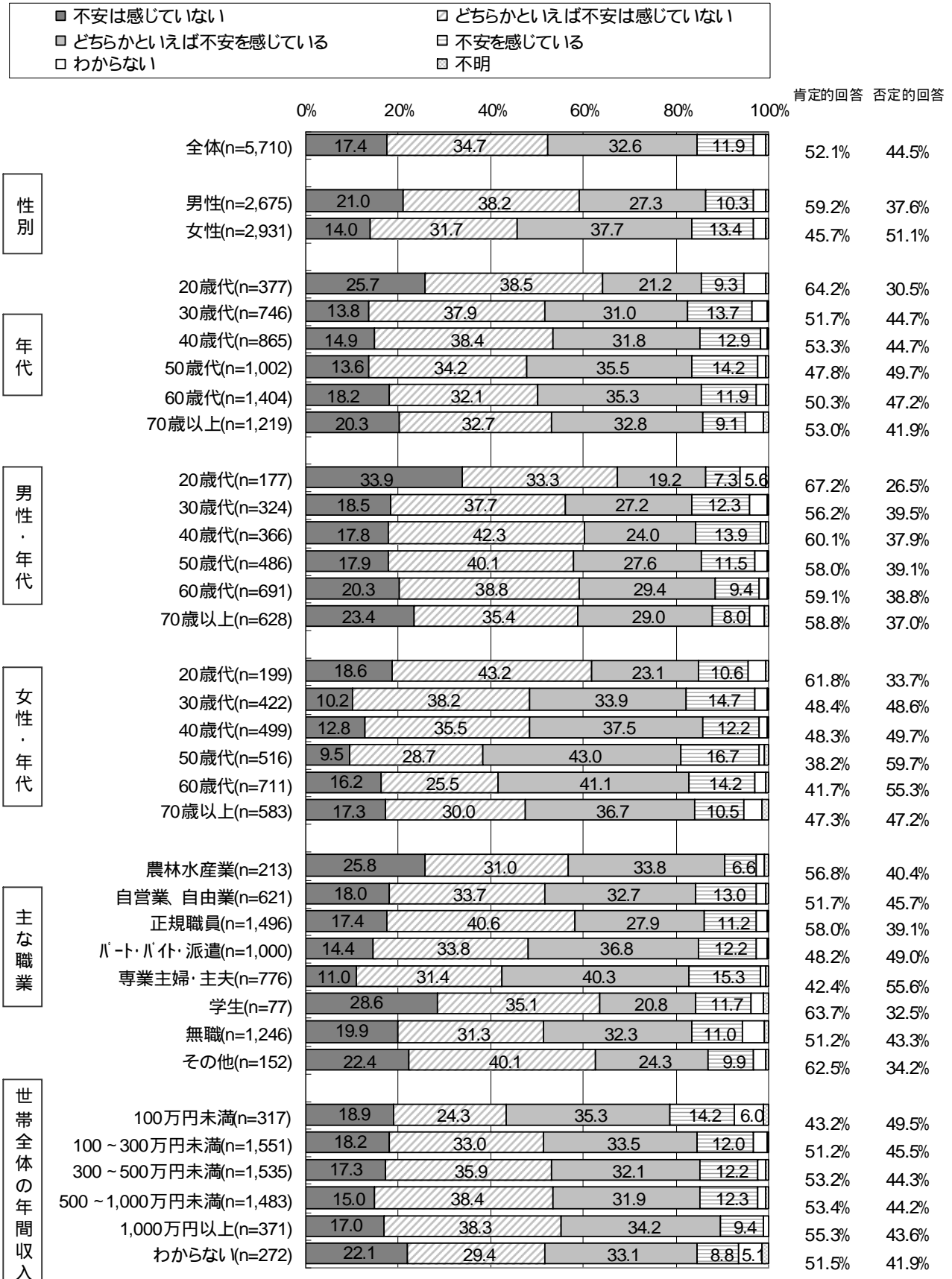
パート・アルバイト・派遣社員、専業主婦・主夫では否定的回答の割合が肯定的回答の割合より高くなっている。農林水産業、自営業・自由業、正規職員、無職は肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、特に、農林水産業は「不安は感じていない」が 25.8%と高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額が 100万円以上の層は肯定的回答の割合が否定的回答より高くなっている。年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高く、100万円未満の 43.2%に対し、1,000万円以上は 55.3%となっている。

下の図表 3-4-1 に記載の肯定的回答は、「不安は感じていない」と「どちらかといえば不安は感じていない」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「不安を感じている」と「どちらかといえば不安を感じている」の割合を合計したものである。

図表 3-4-1 食品の安全性について



問4 - 2 【問4 - 1で、「3どちらかといえば不安を感じている」または「4不安を感じている」と答えた方にお聞きします】

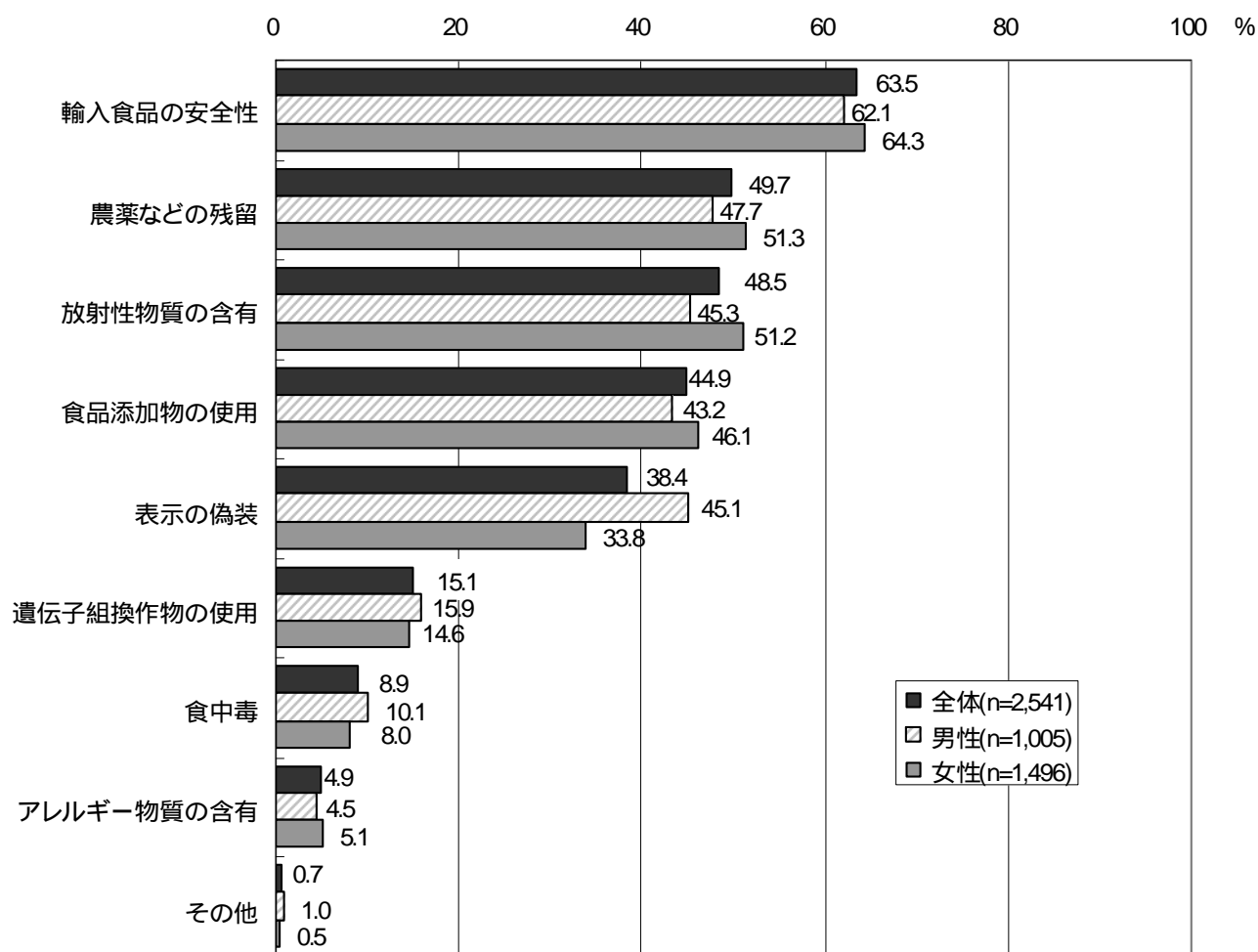
あなたは、食品の安全性について、どのような不安を感じていますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

食品の安全性について感じる不安の内容は、「輸入食品の安全性」が63.5%と最も高く、次いで「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」（49.7%）、「放射性物質の含有」（48.5%）、「食品添加物の使用」（44.9%）などとなっている。

【性別】

男女とも「輸入食品の安全性」が最も高く、男性は62.1%、女性は64.3%となっている。次いで「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」、「放射性物質の含有」となっている。男性は「表示の偽装（消費期限、原産地など）」が45.1%と女性（33.8%）より11.3ポイント高くなっている。

図表3-4-2 食品の安全性について感じる不安（複数回答）（性別）



【年代別】

30歳代を除くすべての年代で「輸入食品の安全性」が6割以上と最も高く、30歳代は「放射性物質の含有」が64.6%で最も高くなっている。「放射性物質の含有」は、20歳代、40歳代がそれぞれ57.4%、58.7%となっており、若い世代で高くなっている。「食品添加物の使用」は20歳代の32.2%に対し、70歳以上は53.0%となっており、年代が上がるほど高くなっている。「農薬や動物用医薬品（抗生物質など）の残留」についても同様の傾向がみられ、50歳代以上は5割以上となっている。

さらに、性・年代別でみると、20歳代から40歳代の女性では「放射線物質の含有」が6割以上と高くなっている。「表示の偽装（消費期限、原産地など）」について、女性はすべての年代で3割台であるのに対し、男性は40歳代が53.2%、50歳代が49.5%と高くなっている。

図表3-4-3 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(年代別上位6項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	輸入食品の安全性 60.0	放射性物質の含有 57.4	表示の偽装 40.0	農薬などの残留 38.3	食品添加物の使用 32.2	食中毒 14.8
30歳代	放射性物質の含有 64.6	輸入食品の安全性 54.7	表示の偽装 41.4	農薬などの残留 40.8	食品添加物の使用 34.5	食中毒 12.6
40歳代	輸入食品の安全性 64.3	放射性物質の含有 58.7	農薬などの残留 46.8	食品添加物の使用 表示の偽装 40.6	遺伝子組換え作物の使用 12.1	
50歳代	輸入食品の安全性 63.7	農薬などの残留 51.8	放射性物質の含有 48.2	食品添加物の使用 45.0	表示の偽装 40.6	遺伝子組換え作物の使用 16.3
60歳代	輸入食品の安全性 67.1	農薬などの残留 54.7	食品添加物の使用 48.5	放射性物質の含有 41.1	表示の偽装 35.2	遺伝子組換え作物の使用 18.0
70歳以上	輸入食品の安全性 64.2	食品添加物の使用 53.0	農薬などの残留 52.3	放射性物質の含有 39.5	表示の偽装 36.0	遺伝子組換え作物の使用 16.6

図表3-4-4 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(男性・年代別上位6項目) (%)

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	輸入食品の安全性 59.6	放射性物質の含有 53.2	表示の偽装 48.9	農薬などの残留 36.2	食品添加物の使用 31.9	食中毒 14.9
30歳代	放射性物質の含有 58.6	輸入食品の安全性 56.3	表示の偽装 47.7	農薬などの残留 32.8	食品添加物の使用 30.5	食中毒 15.6
40歳代	輸入食品の安全性 59.0	表示の偽装 53.2	放射性物質の含有 50.4	農薬などの残留 46.0	食品添加物の使用 41.0	遺伝子組換え作物の使用 12.2
50歳代	輸入食品の安全性 66.8	農薬などの残留 50.0	表示の偽装 49.5	放射性物質の含有 44.2	食品添加物の使用 38.9	遺伝子組換え作物の使用 15.8
60歳代	輸入食品の安全性 64.2	農薬などの残留 53.7	食品添加物の使用 49.3	放射性物質の含有 39.2	表示の偽装 38.8	遺伝子組換え作物の使用 18.7
70歳以上	輸入食品の安全性 61.2	農薬などの残留 食品添加物の使用 50.0	表示の偽装 41.8	放射性物質の含有 41.4	遺伝子組換え作物の使用 18.1	

図表 3-4-5 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(女性・年代別上位6項目)

(%)

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	放射性物質の含有 61.2	輸入食品の安全性 59.7	農薬などの残留 38.8	表示の偽装 34.3	食品添加物の使用 32.8	食中毒 14.9
30歳代	放射性物質の含有 68.3	輸入食品の安全性 53.7	農薬などの残留 45.9	表示の偽装 37.6	食品添加物の使用 37.1	食中毒 10.7
40歳代	輸入食品の安全性 67.3	放射性物質の含有 63.3	農薬などの残留 47.2	食品添加物の使用 40.3	表示の偽装 33.5	遺伝子組換え作物の使用 12.1
50歳代	輸入食品の安全性 61.7	農薬などの残留 52.9	放射性物質の含有 50.6	食品添加物の使用 48.7	表示の偽装 35.1	遺伝子組換え作物の使用 16.6
60歳代	輸入食品の安全性 69.2	農薬などの残留 55.5	食品添加物の使用 48.1	放射性物質の含有 42.5	表示の偽装 32.8	遺伝子組換え作物の使用 17.6
70歳以上	輸入食品の安全性 66.5	食品添加物の使用 55.6	農薬などの残留 54.2	放射性物質の含有 38.2	表示の偽装 30.9	遺伝子組換え作物の使用 15.6

【主な職業別】

すべての職業で「輸入食品の安全性」が6割以上で最も高く、特に農林水産業では、75.6%と高くなっている。

図表 3-4-6 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(主な職業別上位6項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位	6位
農林水産業	輸入食品の安全性 75.6	食品添加物の使用 46.5	農薬などの残留 45.3	表示の偽装 41.9	放射性物質の含有 37.2	遺伝子組換え作物の使用 18.6
自営業・自由業	輸入食品の安全性 63.0	農薬などの残留 48.9	食品添加物の使用 48.2	放射性物質の含有 43.7	表示の偽装 35.6	遺伝子組換え作物の使用 19.0
正規職員	輸入食品の安全性 61.8	放射性物質の含有 50.2	農薬などの残留 48.3	表示の偽装 43.2	食品添加物の使用 41.3	遺伝子組換え作物の使用 12.6
パート・バイト・派遣	輸入食品の安全性 63.5	放射性物質の含有 53.1	農薬などの残留 48.8	食品添加物の使用 39.6	表示の偽装 37.3	遺伝子組換え作物の使用 15.9
専業主婦・主夫	輸入食品の安全性 63.2	農薬などの残留 53.9	放射性物質の含有 53.0	食品添加物の使用 48.8	表示の偽装 32.6	遺伝子組換え作物の使用 15.3
学生	輸入食品の安全性 60.0	放射性物質の含有 52.0	表示の偽装 48.0	農薬などの残留 44.0	食品添加物の使用 28.0	食中毒 16.0
無職	輸入食品の安全性 65.2	食品添加物の使用 50.4	農薬などの残留 50.2	放射性物質の含有 44.6	表示の偽装 39.1	遺伝子組換え作物の使用 15.2
その他	農薬などの残留 57.7	輸入食品の安全性 51.9	放射性物質の含有 46.2	食品添加物の使用 40.4	表示の偽装 36.5	遺伝子組換え作物の使用 13.5

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「輸入食品の安全性」が6割以上と最も高くなっている。

図表3-4-7 食品の安全性について感じる不安(複数回答)(世帯全体の年間収入別上位6項目) (%)

世帯全体の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位	6位
100万円未満	輸入食品の安全性 61.1	放射性物質の含有 48.4	農薬などの残留 47.1	食品添加物の使用 40.8	表示の偽装 36.9	遺伝子組換え作物の使用 13.4
100～300万円未満	輸入食品の安全性 65.0	農薬などの残留 50.8	食品添加物の使用 46.7	放射性物質の含有 44.7	表示の偽装 39.1	遺伝子組換え作物の使用 16.3
300～500万円未満	輸入食品の安全性 63.8	農薬などの残留 49.9	放射性物質の含有 48.5	食品添加物の使用 46.3	表示の偽装 36.2	遺伝子組換え作物の使用 15.9
500～1,000万円未満	輸入食品の安全性 64.7	放射性物質の含有 52.8	農薬などの残留 48.7	食品添加物の使用 43.4	表示の偽装 38.9	遺伝子組換え作物の使用 14.5
1,000万円以上	輸入食品の安全性 63.6	農薬などの残留 53.1	食品添加物の使用 表示の偽装 47.5		放射性物質の含有 42.6	遺伝子組換え作物の使用 12.3
わからない	放射性物質の含有 56.1	農薬などの残留 52.6	輸入食品の安全性 50.0	食品添加物の使用 40.4	表示の偽装 35.1	食中毒 17.5

問4 - 3 あなたが食品の安心を得るために、行政に期待する取組はどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

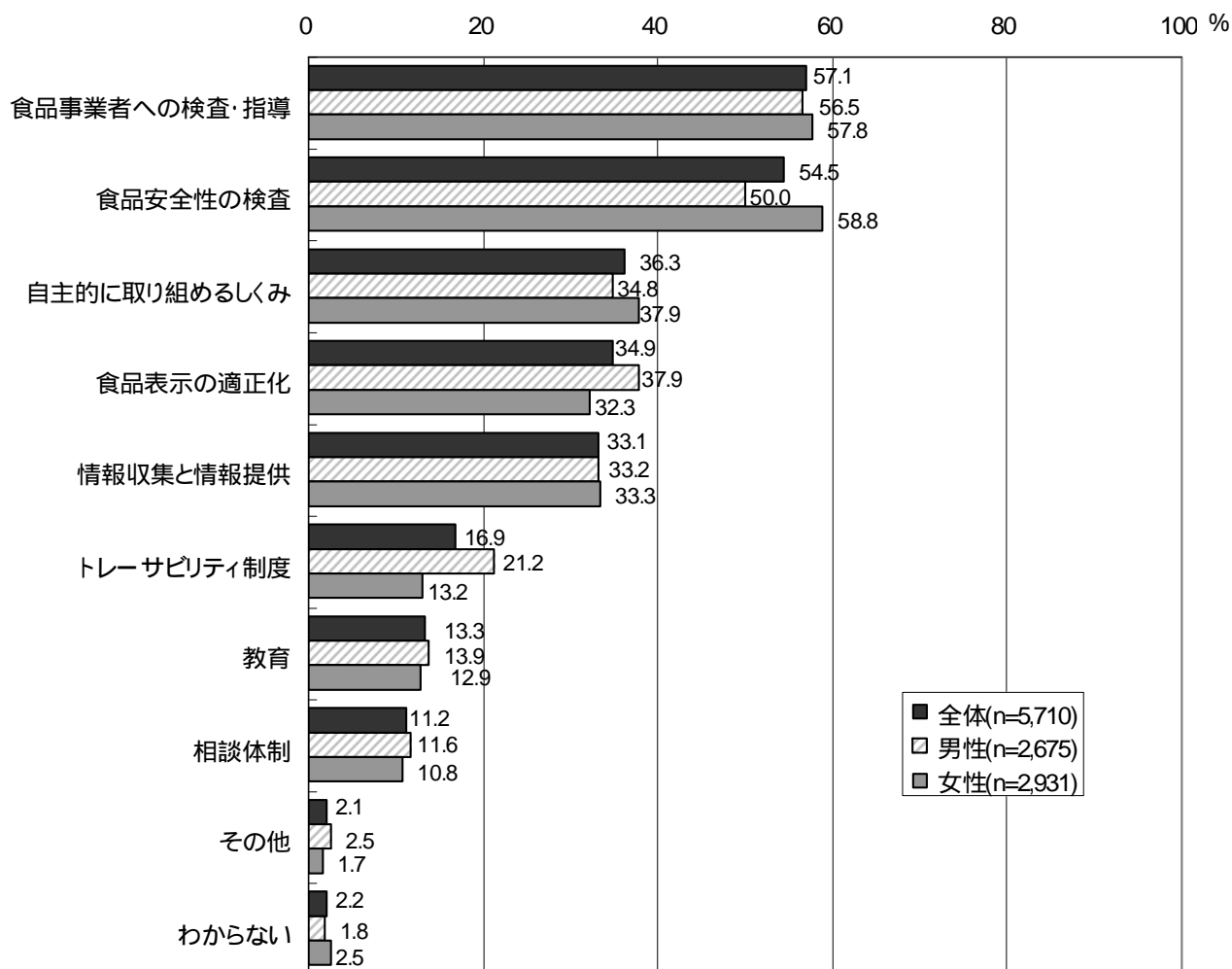
食品の安心のために行政に期待する取組については、「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が57.1%と最も高く、次いで「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」(54.5%)、「生産者などが食の安全・安心の確保に自主的に取り組めるしくみ(みえの安心食材表示制度など)を推進する」(36.3%)などとなっている。

【性別】

男性は「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」(56.5%)が最も高くなっている。女性は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」(58.8%)が最も高く、男性(50.0%)より8.8ポイント高くなっている。

「食品表示の適正化を推進する」、「トレーサビリティ制度(生産・流通の履歴を追跡できるしくみ)を推進する」は男性が女性よりもやや高くなっている。

図表3-4-8 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(性別)



【年代別】

50歳代は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」が、それ以外の年代は「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が最も高くなっている。20歳代と30歳代は「生産者などが食の安全・安心の確保に自主的に取り組めるしくみ（みえの安心食材表示制度など）を推進する」が2割台となっているが、50歳代以上では4割程度となっている。

さらに、性・年代別でみると、男性はすべての年代で「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が最も高く、女性も20歳代から40歳代で最も高くなっている。50歳代から60歳代の女性は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」が6割以上と最も高くなっているが、20歳代から50歳代の男性は4割台となっている。

図表3-4-9 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(年代別上位7項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食品事業者への検査・指導 60.7	食品安全性の検査 51.2	情報収集と情報提供 38.2	食品表示の適正化 32.1	自主的に取り組めるしくみ 25.7	トレーサビリティ制度 17.5	教育 16.4
30歳代	食品事業者への検査・指導 58.0	食品安全性の検査 51.6	食品表示の適正化 36.6	情報収集と情報提供 32.6	自主的に取り組めるしくみ 29.6	トレーサビリティ制度 21.6	教育 14.1
40歳代	食品事業者への検査・指導 57.1	食品安全性の検査 54.5	食品表示の適正化 38.3	情報収集と情報提供 33.2	自主的に取り組めるしくみ 32.9	トレーサビリティ制度 21.5	教育 12.4
50歳代	食品安全性の検査 55.8	食品事業者への検査・指導 53.8	自主的に取り組めるしくみ 40.4	食品表示の適正化 35.0	情報収集と情報提供 33.7	トレーサビリティ制度 20.7	教育 11.8
60歳代	食品事業者への検査・指導 57.3	食品安全性の検査 56.5	自主的に取り組めるしくみ 40.4	情報収集と情報提供 34.0	食品表示の適正化 33.0	トレーサビリティ制度 16.3	教育 12.9
70歳以上	食品事業者への検査・指導 58.3	食品安全性の検査 54.6	自主的に取り組めるしくみ 38.4	食品表示の適正化 34.5	情報収集と情報提供 30.8	教育 14.6	相談体制 13.6

図表3-4-10 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(男性・年代別上位7項目) (%)

男性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食品事業者への検査・指導 57.6	食品安全性の検査 48.6	情報収集と情報提供 36.2	食品表示の適正化 35.0	自主的に取り組めるしくみ 28.2	トレーサビリティ制度 20.9	教育 16.4
30歳代	食品事業者への検査・指導 53.4	食品安全性の検査 42.0	食品表示の適正化 38.9	情報収集と情報提供 32.4	自主的に取り組めるしくみ 27.8	トレーサビリティ制度 26.5	教育 18.2
40歳代	食品事業者への検査・指導 52.7	食品安全性の検査 48.4	食品表示の適正化 42.3	情報収集と情報提供 33.6	自主的に取り組めるしくみ 31.4	トレーサビリティ制度 28.1	教育 11.7
50歳代	食品事業者への検査・指導 53.9	食品安全性の検査 48.6	食品表示の適正化 39.3	自主的に取り組めるしくみ 35.4	情報収集と情報提供 34.4	トレーサビリティ制度 24.9	教育 11.9
60歳代	食品事業者への検査・指導 57.3	食品安全性の検査 52.7	自主的に取り組めるしくみ 37.3	食品表示の適正化 36.3	情報収集と情報提供 32.4	トレーサビリティ制度 22.1	教育 14.0
70歳以上	食品事業者への検査・指導 61.3	食品安全性の検査 53.7	自主的に取り組めるしくみ 38.9	食品表示の適正化 36.1	情報収集と情報提供 32.6	教育 13.9	相談体制 13.2

図表3-4-11 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(女性・年代別上位7項目)

(%)

女性・年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食品事業者への検査・指導 63.3	食品安全性の検査 53.3	情報収集と情報提供 40.2	食品表示の適正化 29.6	自主的に取り組めるしくみ 23.6	教育 16.6	トレーサビリティ制度 14.1
30歳代	食品事業者への検査・指導 61.6	食品安全性の検査 59.0	食品表示の適正化 34.8	情報収集と情報提供 32.7	自主的に取り組めるしくみ 31.0	トレーサビリティ制度 17.8	相談体制 11.1
40歳代	食品事業者への検査・指導 60.3	食品安全性の検査 58.9	食品表示の適正化 35.3	自主的に取り組めるしくみ 34.1	情報収集と情報提供 32.9	トレーサビリティ制度 16.6	教育 12.8
50歳代	食品安全性の検査 62.6	食品事業者への検査・指導 53.7	自主的に取り組めるしくみ 45.2	情報収集と情報提供 33.1	食品表示の適正化 31.0	トレーサビリティ制度 16.7	教育 11.6
60歳代	食品安全性の検査 60.1	食品事業者への検査・指導 57.2	自主的に取り組めるしくみ 43.3	情報収集と情報提供 35.7	食品表示の適正化 29.8	相談体制 12.0	教育 11.8
70歳以上	食品安全性の検査 55.6	食品事業者への検査・指導 55.4	自主的に取り組めるしくみ 38.1	食品表示の適正化 33.1	情報収集と情報提供 28.8	教育 15.4	相談体制 14.1

【主な職業別】

ほぼすべての職業で、「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」、「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」の順に高くなっている。

図表3-4-12 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(主な職業別上位7項目)

(%)

主な職業	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
農林水産業	食品事業者への検査・指導 53.5	食品安全性の検査 44.6	自主的に取り組めるしくみ 42.3	食品表示の適正化 35.2	情報収集と情報提供 33.3	教育 20.2	トレーサビリティ制度 14.1
自営業・自由業	食品安全性の検査 56.8	食品事業者への検査・指導 53.6	自主的に取り組めるしくみ 36.9	情報収集と情報提供 32.9	食品表示の適正化 32.2	トレーサビリティ制度 16.3	相談体制 13.2
正規職員	食品事業者への検査・指導 55.5	食品安全性の検査 50.2	食品表示の適正化 38.7	情報収集と情報提供 34.4	自主的に取り組めるしくみ 32.8	トレーサビリティ制度 24.1	教育 13.8
パート・アルバイト・派遣	食品事業者への検査・指導 59.6	食品安全性の検査 59.3	自主的に取り組めるしくみ 36.4	情報収集と情報提供 35.0	食品表示の適正化 34.0	トレーサビリティ制度 14.9	教育 12.1
専業主婦・主夫	食品事業者への検査・指導 60.6	食品安全性の検査 59.8	自主的に取り組めるしくみ 43.3	情報収集と情報提供 37.0	食品表示の適正化 31.1	トレーサビリティ制度 12.6	相談体制 11.1
学生	食品安全性の検査 57.1	食品事業者への検査・指導 53.2	情報収集と情報提供 44.2	食品表示の適正化 自主的に取り組めるしくみ 33.8	教育 22.1	トレーサビリティ制度 15.6	
無職	食品事業者への検査・指導 58.5	食品安全性の検査 54.4	自主的に取り組めるしくみ 36.0	食品表示の適正化 35.7	情報収集と情報提供 29.2	トレーサビリティ制度 13.6	教育 13.5
その他	食品事業者への検査・指導 55.9	食品安全性の検査 51.3	食品表示の適正化 31.6	自主的に取り組めるしくみ 29.6	情報収集と情報提供 25.0	トレーサビリティ制度 22.4	教育 相談体制 14.5

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「食品の生産・加工・販売などを行う事業者に対する検査や指導を強化する」が最も高く、次いで「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」となっている。

図表3-4-13 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(世帯全体の年間収入別上位7項目)

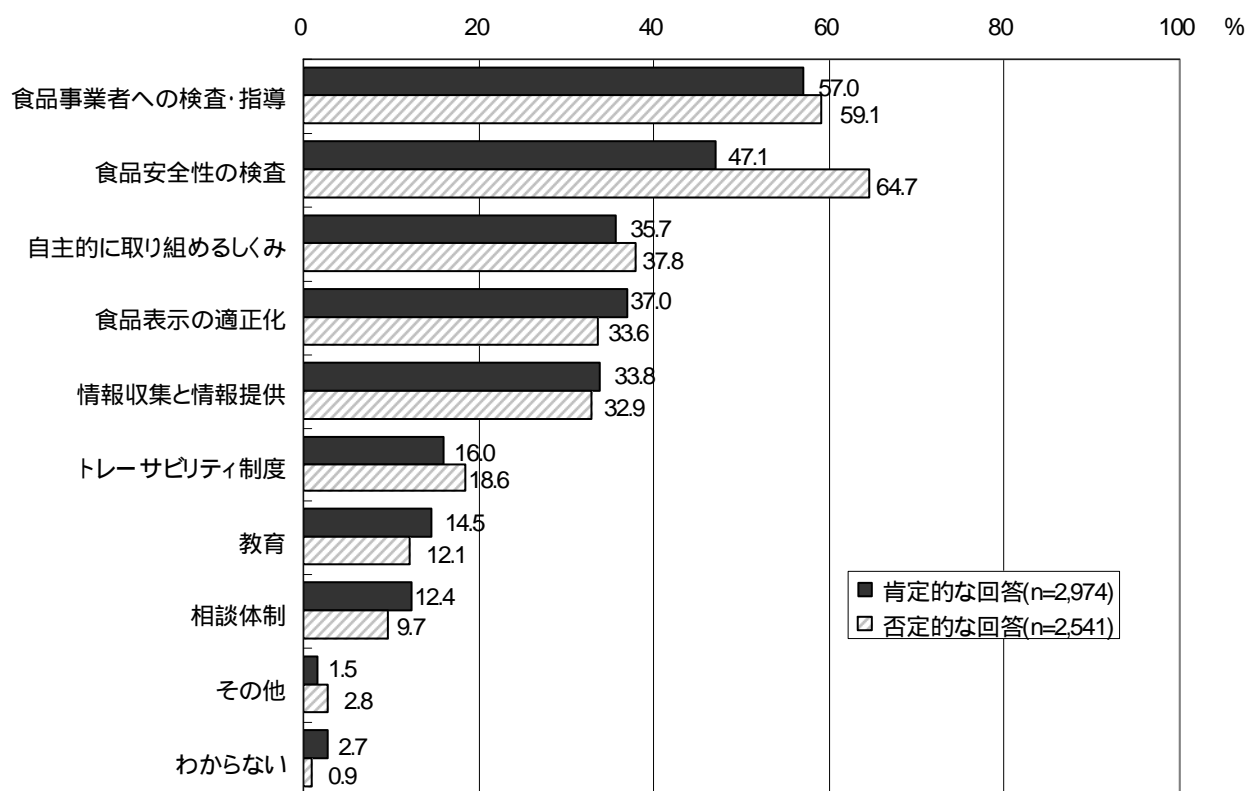
(%)

世帯全体の年間収入	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
100万円未満	食品事業者への検査・指導 57.4	食品安全性の検査 51.7	自主的に取り組めるしくみ 32.5	情報収集と情報提供 32.2	食品表示の適正化 28.7	相談体制 16.1	教育 13.6
100～300万円未満	食品事業者への検査・指導 56.7	食品安全性の検査 55.5	自主的に取り組めるしくみ 38.4	食品表示の適正化 35.6	情報収集と情報提供 33.1	トレーサビリティ制度 13.6	教育 12.8
300～500万円未満	食品事業者への検査・指導 58.7	食品安全性の検査 55.1	自主的に取り組めるしくみ 36.1	食品表示の適正化 34.6	情報収集と情報提供 34.3	トレーサビリティ制度 16.4	教育 14.9
500～1,000万円未満	食品事業者への検査・指導 57.8	食品安全性の検査 55.6	食品表示の適正化 36.5	自主的に取り組めるしくみ 36.0	情報収集と情報提供 34.1	トレーサビリティ制度 21.6	教育 12.6
1,000万円以上	食品事業者への検査・指導 57.7	食品安全性の検査 54.7	自主的に取り組めるしくみ 38.3	食品表示の適正化 37.2	情報収集と情報提供 31.0	トレーサビリティ制度 26.4	教育 11.6
わからない	食品事業者への検査・指導 51.1	食品安全性の検査 48.5	食品表示の適正化 自主的に取り組めるしくみ 31.6		情報収集と情報提供 29.4	教育 13.6	トレーサビリティ制度 12.9

【問4 - 1の回答別】

食品の安心のために行政に期待する取組について、問4 - 1において「不安は感じていない」或いは「どちらかといえば不安は感じていない」と回答した人と、「不安を感じている」或いは「どちらかといえば不安を感じている」と回答した人を比較してみると、否定的に回答した人は「残留農薬、食品添加物など、食品の安全性に関する検査を強化する」が64.7%と最も高く、肯定的に回答した人(47.1%)より17.6ポイント高くなっており、特に大きな差がみられる。

図表3-4-14 食品の安心のために行政に期待する取組(複数回答)(問4-1の回答別)



5. 観光振興（個別テーマ）

問5 - 1 あなたが県外の友人等に勧めたいと思う三重県の観光施設や観光資源はどのようなものですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。（は3つまで）

また、つけた項目の中で、特に勧めたいと思う観光施設や観光資源があれば、〔 〕に具体例をご記入ください。

県外の友人等に勧めたいと思う三重県の観光施設や観光資源については、「食（海の幸や山の幸）」が46.8%と最も高く、次いで「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」（46.3%）、「自然・風景（山・川・海）」（42.6%）の順となっている。

具体例では、「歴史遺産」が最も多く、伊勢神宮のほか、熊野古道や関宿などが挙げられている。次いで、松阪牛や海産物などの「食」、伊勢志摩や御在所（ロープウェイ含む）などの「自然・風景」などとなっている。

【地域別】

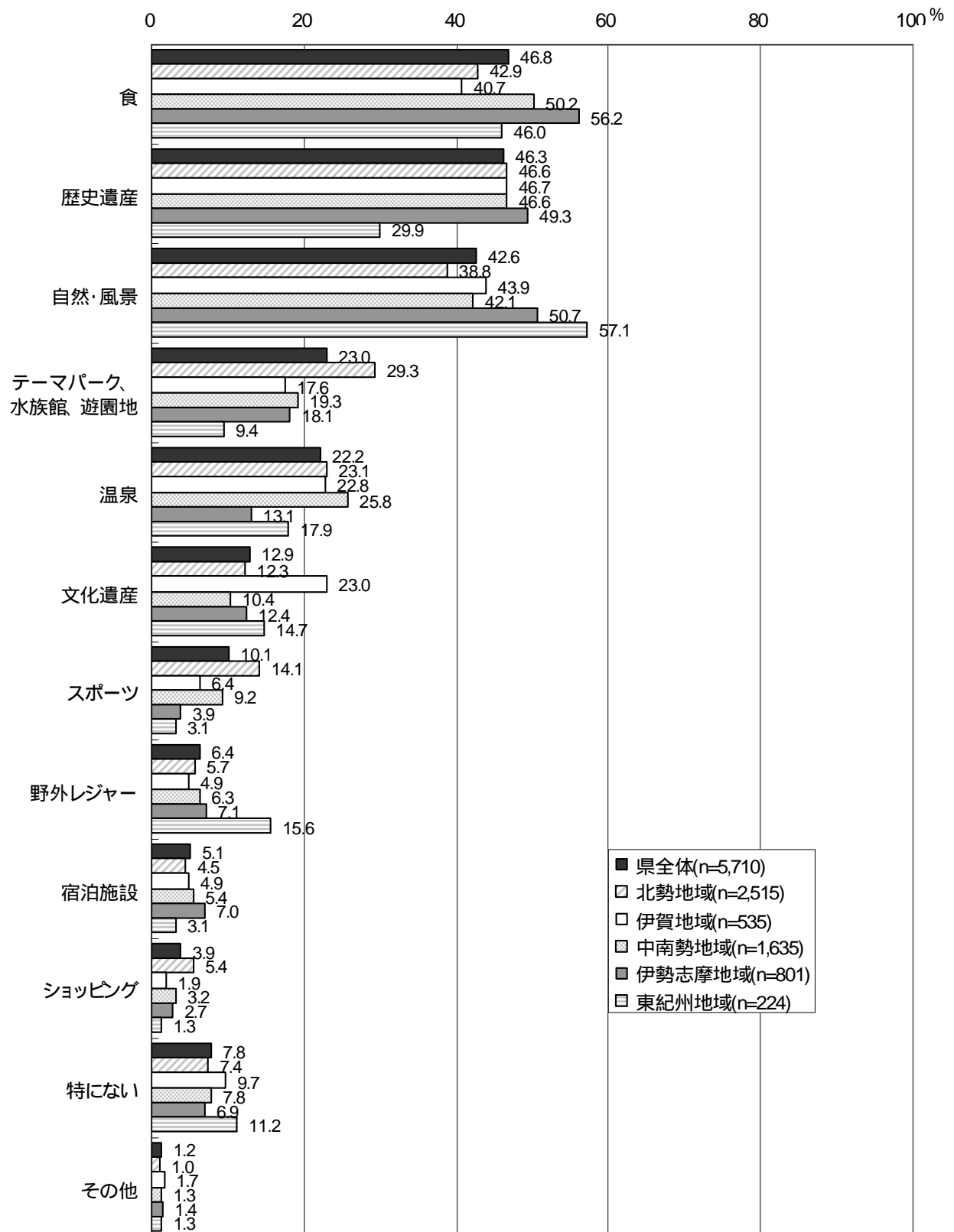
北勢地域、伊賀地域は「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」がそれぞれ46.6%、46.7%と最も高く、中南勢地域、伊勢志摩地域は「食（海の幸や山の幸）」がそれぞれ50.2%、56.2%と最も高く、東紀州地域は「自然・風景（山・海・川）」が57.1%と最も高くなっている。

伊勢志摩地域は「自然・風景（山・海・川）」も50.7%と「食（海の幸や山の幸）」について高くなっている。

東紀州地域は「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」が29.9%と他の地域に比べ低くなっている。

北勢地域は「テーマパーク、水族館、遊園地」が29.3%、伊賀地域は「文化遺産（祭り、伝統芸能、伝統行事、伝統工芸など）」が23.0%、東紀州地域は「野外レジャー（ドライブ、釣り、ハイキング、キャンプなど）」が15.6%と、それぞれ他の地域に比べ高くなっている。

図表3-5-1 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源(複数回答)(地域別)



図表 3-5-2 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源の具体例

自然・風景(山・海・川)	1,211
伊勢志摩	172
御在所(ロープウェイ含む)	102
熊野古道	95
鈴鹿山系	64
赤目四十八滝等	57
湯の山温泉	39
青山高原(風力発電)	39
宮川	38
鳥羽	35
志摩	32
リアス式海岸	32
大台が原・大台山系	30
七里御浜	21
熊野灘	17
伊勢神宮	16
熊野	15
自然と食と文化遺産のくみあわせ	15
登茂山	15
東紀州	15
海・山	15
伊勢	14
二見浦・夫婦岩	13
横山展望台	13
パールロード	12
伊勢志摩国立公園	11
英虞湾	10
食(海の幸や山の幸)	1,390
松阪牛	297
伊勢志摩の海産物・海鮮料理	179
海産物	108
カキ	88
伊勢海老	81
アワビ	58
伊賀牛	39
鳥羽	30
浦村かき	27
牛肉	27
はまぐり	25
安乗ふぐ	25
的矢かき	22
伊勢	18
四日市とんてき	17
伊勢うどん	17
みかん	16
相差	12
赤福	11

名称の横の数字は具体的事例があった記載件数。
10件以上記載があったものを掲載している。

歴史遺産(城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など)	1,815
伊勢神宮	1,287
熊野古道	65
関宿	61
伊賀上野城	49
椿大社	33
伊勢	24
松阪城史跡・松阪御城番屋敷	23
神社仏閣	20
斎宮・斎宮歴史博物館	19
多度大社	17
高田本山	12
伊賀上野の城下町	11
伊賀流忍者博物館	10
文化遺産(祭り、伝統芸能、伝統行事、伝統工芸など)	342
石取祭	57
伊勢型紙	32
上野天神秋祭り	31
伊勢神宮	21
熊野大花火大会	15
熊野古道	13
四日市祭	11
津まつり	10
テーマパーク、水族館、遊園地	1,048
鳥羽水族館	278
ナガシマスパーランド	248
ナガシマリゾート	117
なばなの里	110
鈴鹿サーキット	92
志摩スペイン村	69
ジャズドリーム長島	19
二見シーパラダイス	16
鳥羽	15
おかげ横丁	12
伊賀の里モクモク手づくりファーム	11
スポーツ(F1、ゴルフなど)	454
鈴鹿サーキット(モータースポーツ)	395
ゴルフ場	32
野外レジャー(ドライブ、釣り、ハイキング、キャンプなど)	170
海、磯の釣り、釣り舟	25
青川峡キャンピングパーク	19
ショッピング(日常的な買い物をのぞく)	144
ジャズドリーム長島(アウトレット)	112
おかげ横丁	10
温泉	573
榊原温泉	248
湯の山温泉	111
長島温泉	70
さるびの温泉	27
鳥羽温泉	11
猪の倉温泉	11
旅館やホテルなどの宿泊施設	110
鳥羽	17
伊勢志摩	16
ナガシマリゾート	15

【性別】

男女とも「食（海の幸や山の幸）」、「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」、「自然・風景（山・海・川）」が4割以上と高く、男性は「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」が48.3%、女性は「食（海の幸や山の幸）」が48.9%と最も高くなっている。

図表 3-5-3 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源(複数回答)(性別上位7項目) (%)

性別	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
男性	歴史遺産 48.3	食 45.0	自然・風景 44.0	テーマパーク、水族館、遊園地 21.8	温泉 21.1	スポーツ 13.8	文化遺産 11.4
女性	食 48.9	歴史遺産 45.1	自然・風景 41.8	テーマパーク、水族館、遊園地 24.5	温泉 23.4	文化遺産 14.2	スポーツ 7.0

【年代別】

20歳代と30歳代、50歳代は「食（海の幸や山の幸）」が、40歳代は「歴史遺産（城下町、宿場町、神社・仏閣、史跡など）」が、60歳代以上は「自然・風景（山・海・川）」が最も高くなっている。

また、20歳代から40歳代は「テーマパーク、水族館、遊園地」が3割以上となっており、特に、30歳代は38.7%と高くなっている。

50歳代以上は「温泉」が2割以上と他の世代に比べ高くなっている。

図表 3-5-4 県外の友人等に勧めたい三重県の観光施設や観光資源(複数回答)(年代別上位7項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	食 50.7	歴史遺産 47.7	自然・風景 34.7	テーマパーク、水族館、遊園地 34.5	スポーツ 17.2	温泉 15.9	文化遺産 12.7
30歳代	食 51.5	歴史遺産 47.9	テーマパーク、水族館、遊園地 38.7	自然・風景 35.4	スポーツ 15.4	温泉 14.2	文化遺産 10.2
40歳代	歴史遺産 50.6	食 49.7	自然・風景 38.0	テーマパーク、水族館、遊園地 30.5	温泉 18.3	スポーツ 13.9	文化遺産 9.9
50歳代	食 50.7	歴史遺産 50.0	自然・風景 42.6	テーマパーク、水族館、遊園地 24.6	温泉 23.0	文化遺産 13.1	スポーツ 11.8
60歳代	自然・風景 47.9	食 46.5	歴史遺産 44.5	温泉 26.8	テーマパーク、水族館、遊園地 16.3	文化遺産 14.0	スポーツ 7.1
70歳以上	自然・風景 47.3	歴史遺産 42.2	食 38.7	温泉 26.4	文化遺産 15.3	テーマパーク、水族館、遊園地 11.6	宿泊施設 8.6

問5 - 2 あなたは、この1年間に日帰りで観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内の各観光地（観光施設）を、どのくらい訪れましたか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。1日に2カ所以上訪れた場合も1回と数えてください。（は1つだけ）

1年間に日帰りで観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内の観光地（観光施設）を訪れた回数は、「0回」が23.2%で最も高く、次いで「1回」（19.7%）、「2回」（18.6%）の順となっている。

【地域別】

すべての地域で「0回」が高く、特に東紀州地域は37.1%と最も高くなっている。

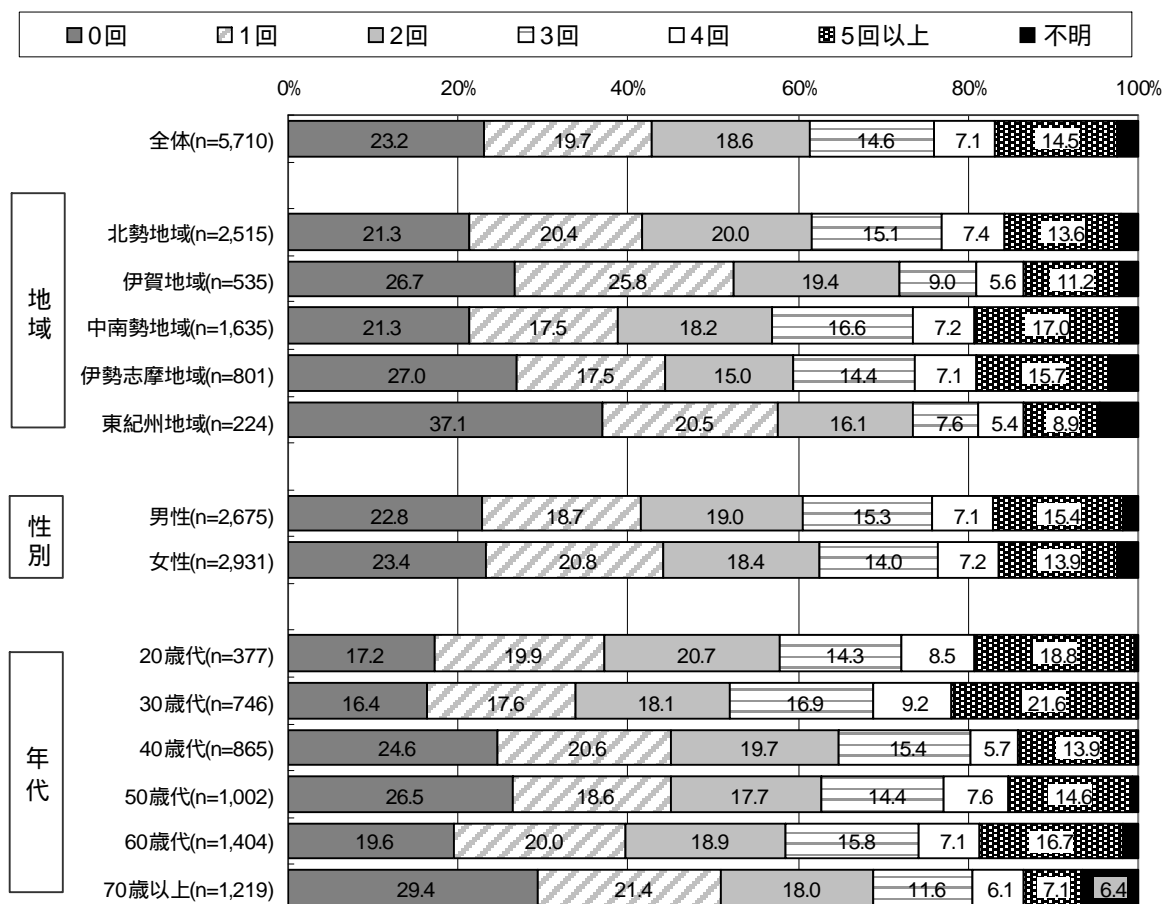
【性別】

男女とも「0回」が最も高く、特に大きな差はみられない。

【年代別】

20歳代は「2回」が、30歳代は「5回以上」が、40歳代、50歳代及び70歳以上は「0回」が、60歳代は「1回」が、それぞれ最も高くなっている。

図表3-5-5 県内観光地への来訪回数(日帰り)



問5 - 3 あなたが、この1年間に宿泊をともなって観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内を旅行した回数ほどのくらいですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。2泊3日以上の場合も1回と数えてください。(は1つだけ)

1年間に宿泊をともなって観光・レジャー・レクリエーションの目的で県内を旅行した回数は、「0回」が64.6%と最も高く、次いで「1回」の21.3%、「2回」の6.8%となっている。

【地域別】

すべての地域で「0回」が最も高く、東紀州地域が70.1%、伊勢志摩地域が67.7%などとなっている。また、「0回」と「1回」をあわせると、すべての地域で8割以上となっている。

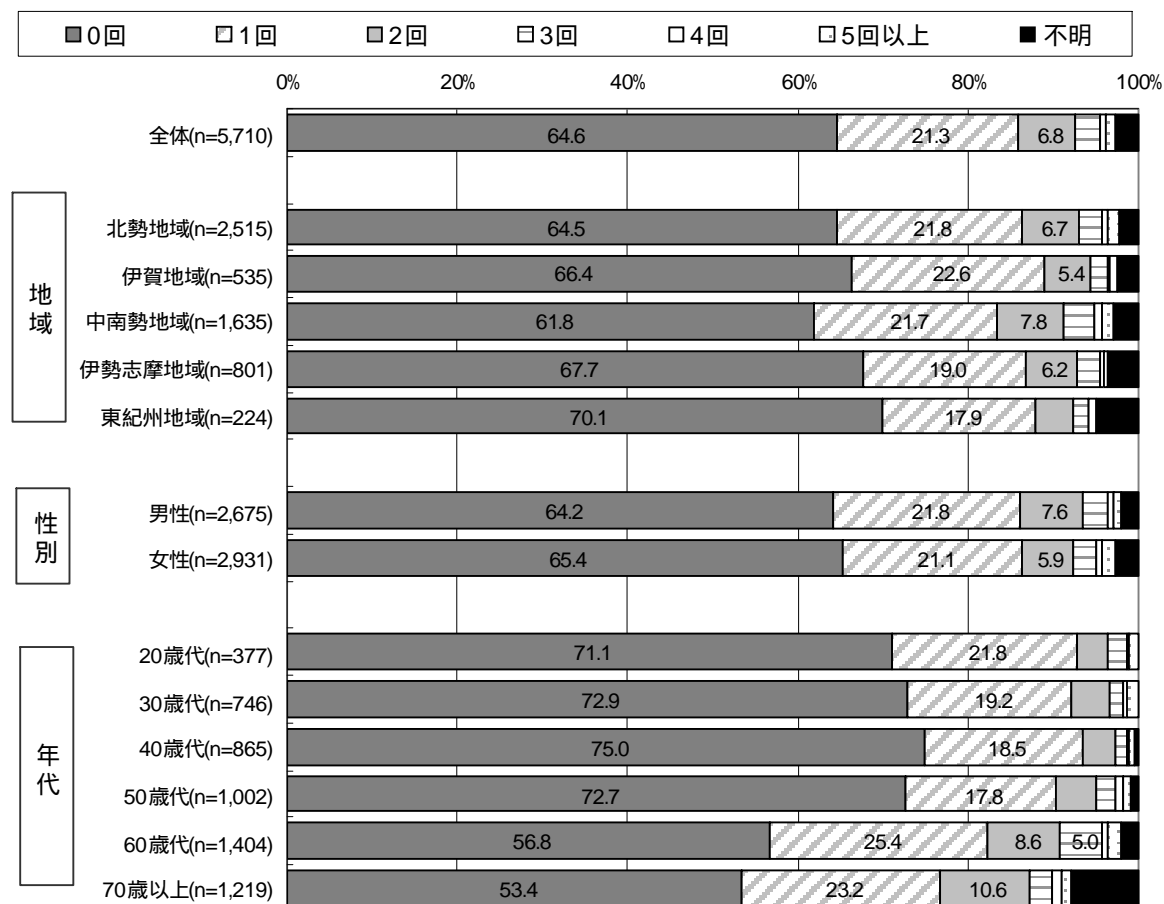
【性別】

男女とも「0回」が6割以上と高くなっている。特に大きな差はみられない。

【年代別】

すべての年代で「0回」が最も高くなっているが、20歳代から50歳代は7割以上となっているのに対し、60歳代は56.8%、70歳以上は53.4%と低くなっている。

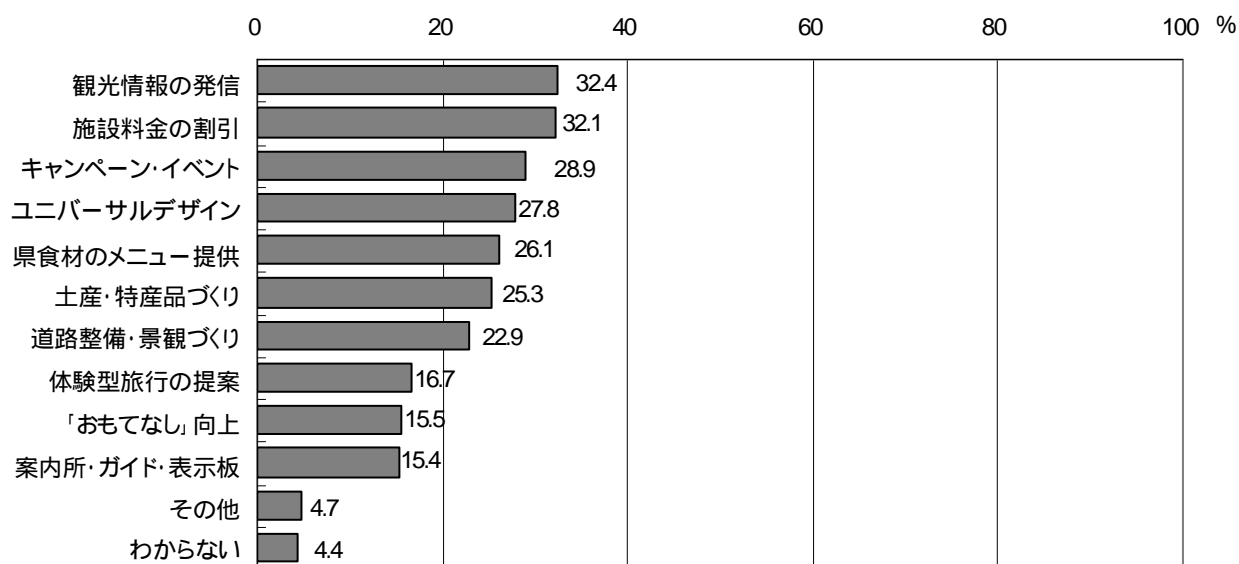
図表3-5-6 県内観光地への来訪回数(宿泊)



問5 - 4 もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうためには、どのような取組が必要と思いますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んでください。(は3つまで)

もっとたくさんの人に、県内の観光地を訪れてもらうために必要な取組について質問したところ、「ホームページやパンフレットを活用した観光情報の発信」が32.4%で最も高く、次いで「施設の利用料金の割引(クーポンなど)」(32.1%)、「観光キャンペーンや誘客イベントの実施」(28.9%)などとなっている。

図表3-5-7 もっとたくさんの人に県内の観光地を訪れてもらうための取組(複数回答)



【地域別】

北勢地域は「施設の利用料金の割引(クーポンなど)」が、伊賀地域、中南勢地域、伊勢志摩地域は「ホームページやパンフレットを活用した観光情報の発信」が、東紀州地域は「道路整備や良好な景観づくりなどの基盤整備」が最も高くなっている。

図表3-5-8 県内の観光地をより来訪してもらうための取組(複数回答)(地域別上位7項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
北勢地域	施設料金の割引 35.6	観光情報の発信 32.4	キャンペーン・イベント 30.1	ユニバーサルデザイン 29.9	県食材のメニュー提供 25.5	土産・特産品づくり 24.8	道路整備・景観づくり 21.5
伊賀地域	観光情報の発信 38.3	施設料金の割引 31.0	キャンペーン・イベント 26.7	県食材のメニュー提供 ユニバーサルデザイン 26.2	土産・特産品づくり 26.0	道路整備・景観づくり 20.2	
中南勢地域	観光情報の発信 32.4	施設料金の割引 30.5	キャンペーン・イベント 28.5	土産・特産品づくり 27.2	県食材のメニュー提供 ユニバーサルデザイン 26.3	道路整備・景観づくり 21.7	
伊勢志摩地域	観光情報の発信 29.3	施設料金の割引 県食材のメニュー提供 27.7	キャンペーン・イベント 27.5	ユニバーサルデザイン 27.3	道路整備・景観づくり 26.6	土産・特産品づくり 23.7	
東紀州地域	道路整備・景観づくり 41.1	観光情報の発信 29.9	キャンペーン・イベント 27.2	県食材のメニュー提供 26.3	施設料金の割引 21.9	ユニバーサルデザイン 20.1	土産・特産品づくり 19.6

【性別】

男性は「ホームページやパンフレットを活用した観光情報の発信」が、女性は「施設の利用料金の割引（クーポンなど）」が最も高くなっている。

「道路整備や良好な景観づくりなどの基盤整備」は男性（27.9%）が女性（18.7%）より9.2ポイント、「子ども連れ、高齢者、障がい者等が訪れやすい施設の整備（ユニバーサルデザイン）」は女性（32.0%）が男性（23.5%）より8.5ポイント、それぞれ高くなっている。

図表3-5-9 県内の観光地をより来訪してもらうための取組（複数回答）（性別上位7項目）（%）

性別	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
男性	観光情報の発信 33.3	キャンペーン・イベント 31.4	施設料金の割引 29.8	道路整備・景観づくり 27.9	土産・特産品づくり 26.5	県食材のメニュー提供 24.4	ユニバーサルデザイン 23.5
女性	施設料金の割引 34.7	ユニバーサルデザイン 32.0	観光情報の発信 31.8	県食材のメニュー提供 28.2	キャンペーン・イベント 26.9	土産・特産品づくり 24.2	道路整備・景観づくり 18.7

【年代別】

20歳代、50歳代は「ホームページやパンフレットを活用した観光情報の発信」が、30歳代、40歳代は「観光キャンペーンや誘客イベントの実施」が、60歳代は「施設の利用料金の割引（クーポンなど）」が、70歳以上は「子ども連れ、高齢者、障がい者等が訪れやすい施設の整備（ユニバーサルデザイン）」が最も高くなっている。

「観光キャンペーンや誘客イベントの実施」は20歳代から50歳代で3割台となっているが、60歳代は24.1%、70歳以上は18.3%と低くなっている。

図表3-5-10 県内の観光地をより来訪してもらうための取組（複数回答）（年代別上位7項目）（%）

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	観光情報の発信 35.8	キャンペーン・イベント 34.2	施設料金の割引 32.4	ユニバーサルデザイン 29.7	土産・特産品づくり 29.4	道路整備・景観づくり 28.9	県食材のメニュー提供 22.3
30歳代	キャンペーン・イベント 36.2	施設料金の割引 35.9	ユニバーサルデザイン 33.8	観光情報の発信 32.4	土産・特産品づくり 26.8	道路整備・景観づくり 24.9	県食材のメニュー提供 24.1
40歳代	キャンペーン・イベント 36.6	施設料金の割引 36.2	観光情報の発信 34.8	土産・特産品づくり 26.6	県食材のメニュー提供 23.8	道路整備・景観づくり 23.7	ユニバーサルデザイン 23.0
50歳代	観光情報の発信 36.3	キャンペーン・イベント 35.1	施設料金の割引 31.9	土産・特産品づくり 27.1	道路整備・景観づくり 25.8	ユニバーサルデザイン 25.3	県食材のメニュー提供 24.5
60歳代	施設料金の割引 33.0	観光情報の発信 32.5	県食材のメニュー提供 30.1	ユニバーサルデザイン 27.1	キャンペーン・イベント 24.1	土産・特産品づくり 23.4	道路整備・景観づくり 23.2
70歳以上	ユニバーサルデザイン 30.4	県食材のメニュー提供 28.2	施設料金の割引 27.0	観光情報の発信 26.8	土産・特産品づくり 22.9	案内所・ガイド・表示板 18.4	キャンペーン・イベント 18.3

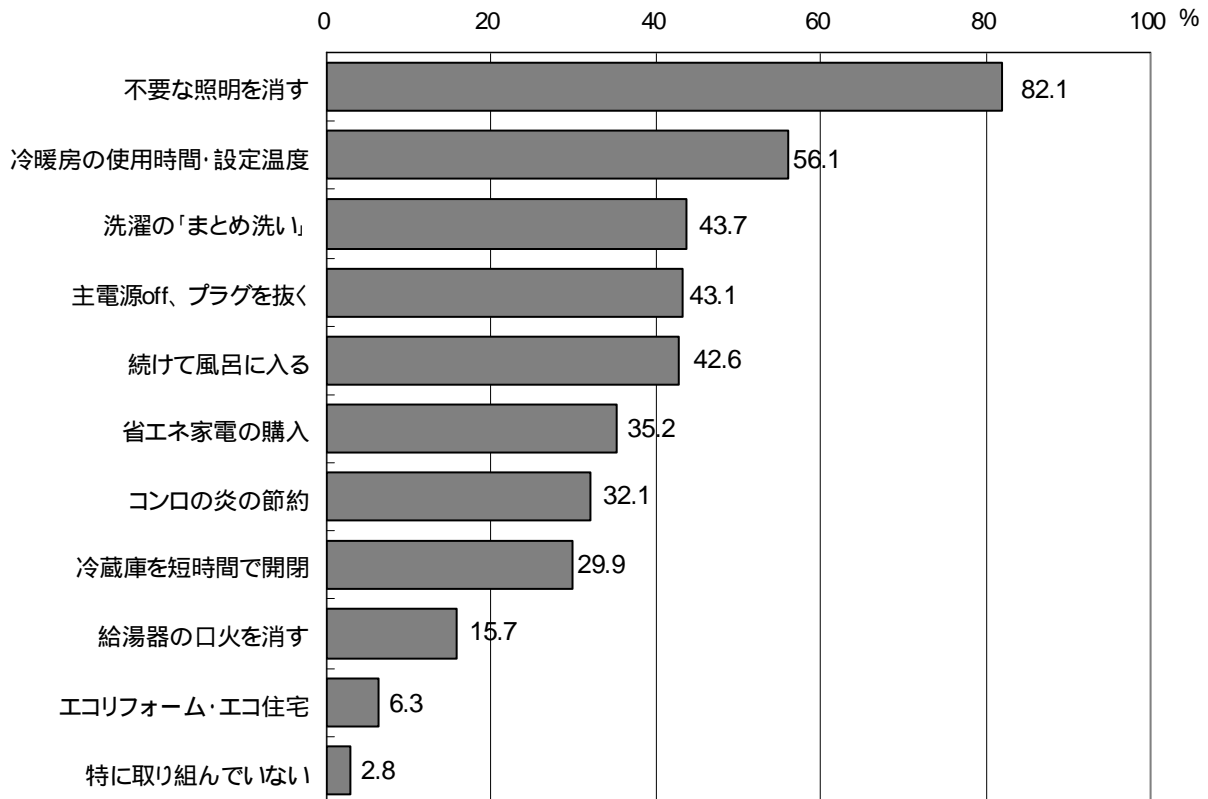
6 . 地球温暖化対策 (個別テーマ)

問6 - 1 以下の取組は、地球温暖化の防止に役立つと考えられています。

あなたが、日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組についておたずねします。あなたが積極的に取り組んでいるものはどれですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(はいいくつでも)

日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組については、「不要な照明はこまめに消す」が82.1%と最も高く、次いで「冷暖房時は使用時間や設定温度に気をつける」(56.1%)、「洗濯はできるだけ「まとめ洗い」をする」(43.7%)などとなっている。また、「特に取り組んでいない」は2.8%となっている。

図表3-6-1 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)



【地域別】

すべての地域で「不要な照明はこまめに消す」が最も高く、特に大きな差はみられない。

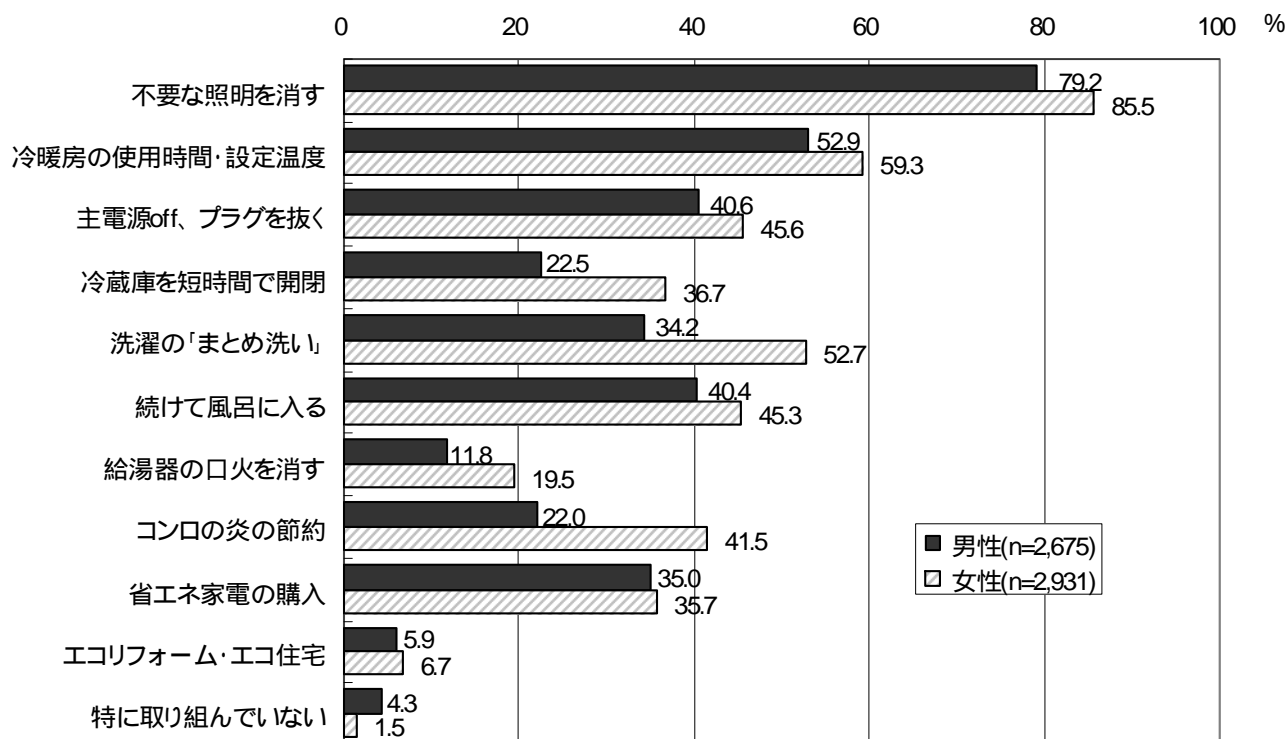
図表3-6-2 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(地域別上位7項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
北勢地域	不要な照明を消す 82.8	冷暖房の使用時間・設定温度 57.9	洗濯の「まとめ洗い」 45.3	主電源off、プラグを抜く 43.9	続けて風呂に入る 42.3	省エネ家電の購入 37.2	冷蔵庫を短時間で開閉 30.7
伊賀地域	不要な照明を消す 86.0	冷暖房の使用時間・設定温度 55.0	続けて風呂に入る 45.2	洗濯の「まとめ洗い」 41.7	主電源off、プラグを抜く 41.5	コンロの炎の節約 35.7	省エネ家電の購入 32.3
中南勢地域	不要な照明を消す 80.6	冷暖房の使用時間・設定温度 54.6	主電源off、プラグを抜く 42.7	洗濯の「まとめ洗い」 42.4	続けて風呂に入る 42.0	省エネ家電の購入 34.7	コンロの炎の節約 32.4
伊勢志摩地域	不要な照明を消す 79.7	冷暖房の使用時間・設定温度 55.2	続けて風呂に入る 43.7	洗濯の「まとめ洗い」 42.6	主電源off、プラグを抜く 41.1	省エネ家電の購入 32.7	コンロの炎の節約 29.6
東紀州地域	不要な照明を消す 84.4	冷暖房の使用時間・設定温度 51.8	主電源off、プラグを抜く 48.7	洗濯の「まとめ洗い」 44.6	続けて風呂に入る 41.5	省エネ家電の購入 31.7	コンロの炎の節約 30.4

【性別】

男女とも「不要な照明はこまめに消す」が最も高くなっている。女性は「洗濯はできるだけ『まとめ洗い』をする」、「冷蔵庫に物を入れるときは適度に隙間をあげ、開閉は短時間で行う」、「ガスコンロの炎が鍋底からはみ出さないようにする」がそれぞれ男性より10ポイント以上高くなっている。

図表3-6-3 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(性別)



【年代別】

「不要な照明はこまめに消す」がすべての年代で最も高くなっている。「不要な照明はこまめに消す」以外の取組については、概ね年代が高くなるほど高くなっている。70歳以上は「冷暖房時は使用時間や設定温度に気をつける」、「テレビ、エアコン等の待機電力を消費する製品は、長時間使わないときには主電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜く」、「洗濯はできるだけ『まとめ洗い』をする」**など**がすべての年代の中で最も高くなっている。

図表3-6-4 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(年代別上位7項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
20歳代	不要な照明を消す 79.8	冷暖房の使用時間・設定温度 46.7	洗濯の「まとめ洗い」 37.4	主電源off、プラグを抜く 続けて風呂に入る 34.5	省エネ家電の購入 23.1	コンロの炎の節約 21.8	
30歳代	不要な照明を消す 82.0	冷暖房の使用時間・設定温度 53.1	続けて風呂に入る 46.1	洗濯の「まとめ洗い」 41.8	主電源off、プラグを抜く 41.0	省エネ家電の購入 35.7	冷蔵庫を短時間で開閉 25.5
40歳代	不要な照明を消す 84.4	冷暖房の使用時間・設定温度 56.2	続けて風呂に入る 44.6	洗濯の「まとめ洗い」 40.7	主電源off、プラグを抜く 40.2	省エネ家電の購入 36.9	コンロの炎の節約 32.6
50歳代	不要な照明を消す 82.0	冷暖房の使用時間・設定温度 56.4	洗濯の「まとめ洗い」 41.0	省エネ家電の購入 39.5	主電源off、プラグを抜く 38.4	続けて風呂に入る 36.8	コンロの炎の節約 30.9
60歳代	不要な照明を消す 82.6	冷暖房の使用時間・設定温度 57.9	主電源off、プラグを抜く 44.9	洗濯の「まとめ洗い」 44.7	続けて風呂に入る 43.0	省エネ家電の購入 37.3	コンロの炎の節約 33.1
70歳以上	不要な照明を消す 82.4	冷暖房の使用時間・設定温度 59.1	主電源off、プラグを抜く 51.7	洗濯の「まとめ洗い」 50.8	続けて風呂に入る 47.3	コンロの炎の節約 40.2	冷蔵庫を短時間で開閉 36.8

【世帯構成別】

世帯構成にかかわらず「不要な照明はこまめに消す」が最も高くなっている。世帯を構成する世代数が多くなるほど「テレビ、エアコン等の待機電力を消費する製品は、長時間使わないときには主電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜く」などは低くなっている。

図表3-6-5 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(世帯構成別上位7項目) (%)

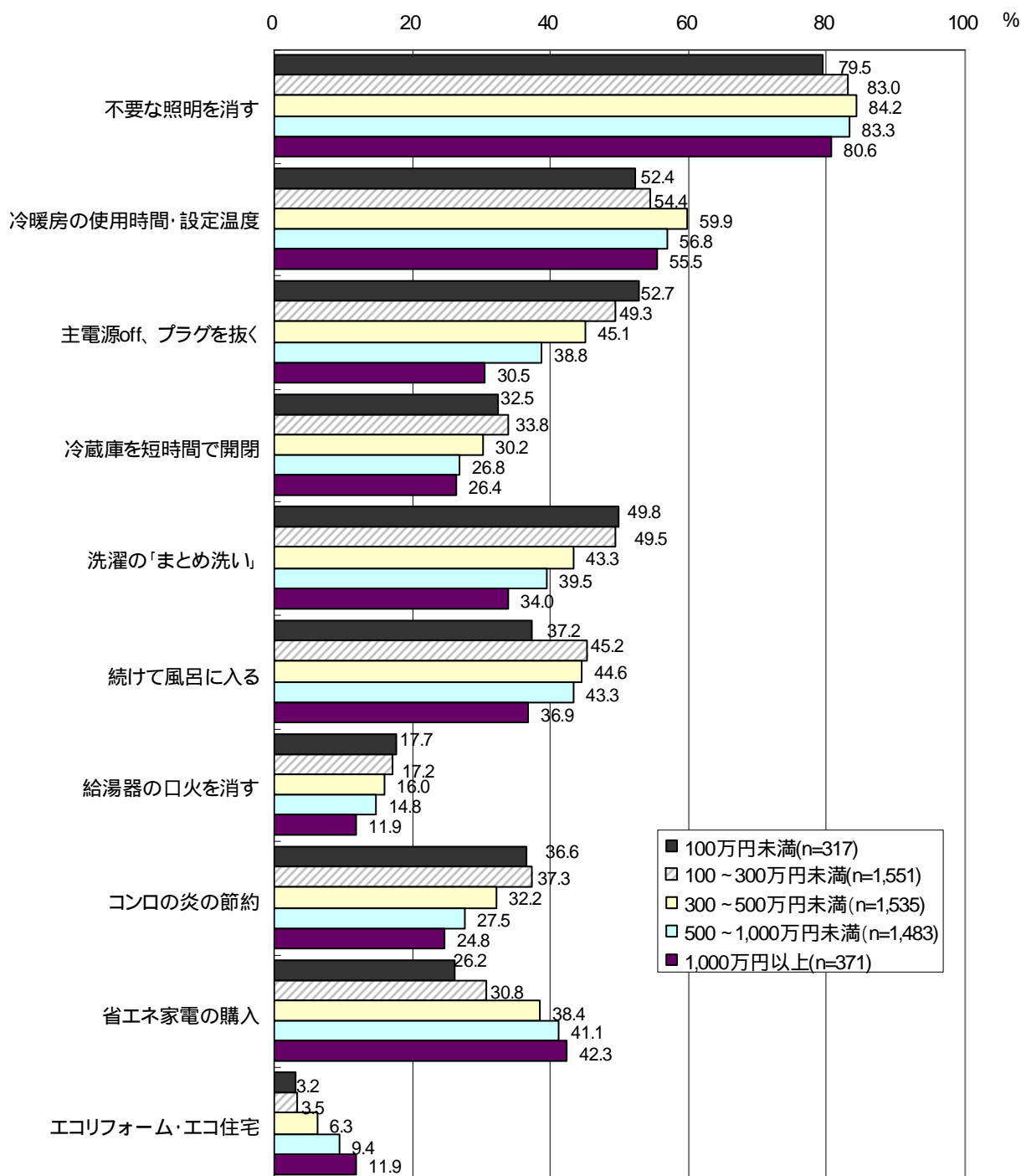
世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
単身世帯	不要な照明を消す 78.4	洗濯の「まとめ洗い」 57.2	主電源off、プラグを抜く 49.9	冷暖房の使用時間・設定温度 49.6	コンロの炎の節約 37.1	冷蔵庫を短時間で開閉 35.2	省エネ家電の購入 24.7
一世代世帯	不要な照明を消す 83.0	冷暖房の使用時間・設定温度 58.7	続けて風呂に入る 51.7	主電源off、プラグを抜く 49.2	洗濯の「まとめ洗い」 46.6	省エネ家電の購入 38.6	冷蔵庫を短時間で開閉 33.9
二世帯世帯	不要な照明を消す 82.7	冷暖房の使用時間・設定温度 56.1	続けて風呂に入る 42.3	主電源off、プラグを抜く 40.3	洗濯の「まとめ洗い」 39.5	省エネ家電の購入 36.0	コンロの炎の節約 31.3
三世帯世帯	不要な照明を消す 83.6	冷暖房の使用時間・設定温度 55.7	洗濯の「まとめ洗い」 44.3	続けて風呂に入る 42.8	主電源off、プラグを抜く 37.6	省エネ家電の購入 33.5	コンロの炎の節約 29.3
その他	不要な照明を消す 79.0	冷暖房の使用時間・設定温度 洗濯の「まとめ洗い」 54.3	続けて風呂に入る 39.5	コンロの炎の節約 37.0	主電源off、プラグを抜く 35.8	冷蔵庫を短時間で開閉 34.6	

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「不要な照明はこまめに消す」が最も高くなっている。

「テレビ、エアコン等の待機電力を消費する製品は、長時間使わないときには主電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜く」、「洗濯はできるだけ『まとめ洗い』をする」については年間収入額が多くなるほど低く、100万円未満はそれぞれ52.7%、49.8%となっているのに対し、1,000万円以上はそれぞれ30.5%、34.0%となっている。一方、「家電製品は省エネルギー型のものを購入する」、「住まいはエコリフォームやエコ住宅の新築を行う」は年間収入額が多くなるほど高くなっている。

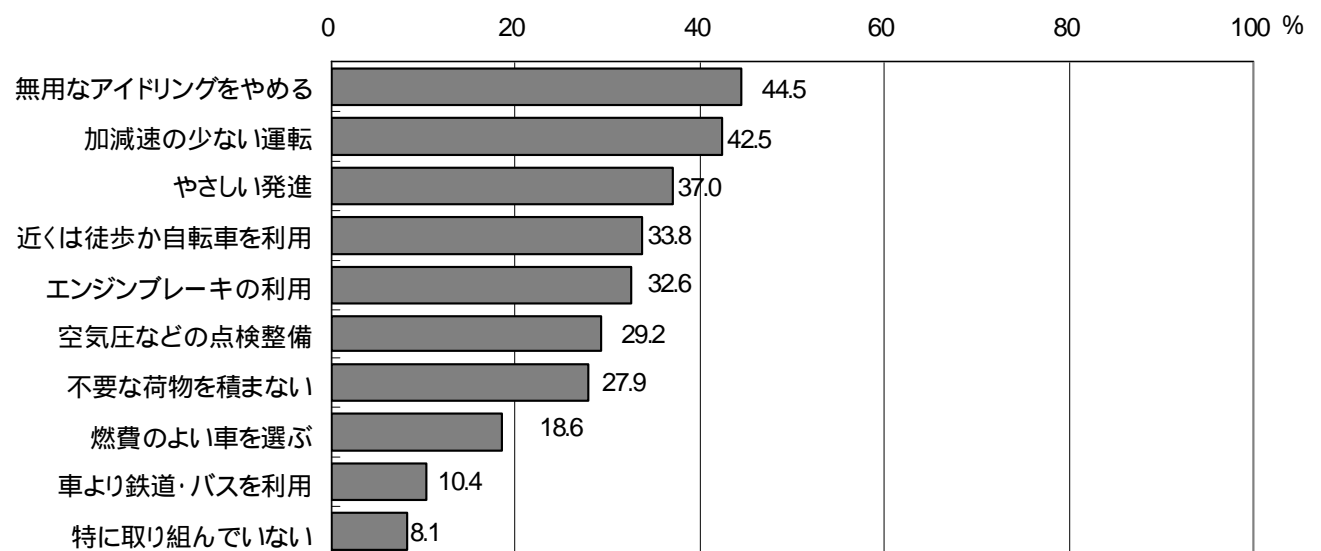
図表3-6-6 日常生活のなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(世帯全体の年間収入別) (%)



問6 - 2 あなたが、自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組についておたずねします。あなたが積極的に取り組んでいるものはどれですか。次の中からあてはまるものすべてを選んでください。(はいくつでも)

自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組については、全ての項目で 50%未満の取組状況となっている。その中で、「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」が 44.5%と最も高く、次いで「車間距離に余裕をもって加減速の少ない運転をする」(42.5%)、「ふんわりアクセルでやさしい発進をする」(37.0%) などとなっている。

図表3-6-7 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)



【地域別】

北勢地域、伊賀地域、伊勢志摩地域は「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」が、中南勢地域、東紀州地域は「車間距離に余裕をもって加減速の少ない運転をする」が最も高くなっている。

「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」は北勢地域が 47.0%と最も高く、最も低い東紀州地域(37.5%)より 9.5ポイント高くなっている。

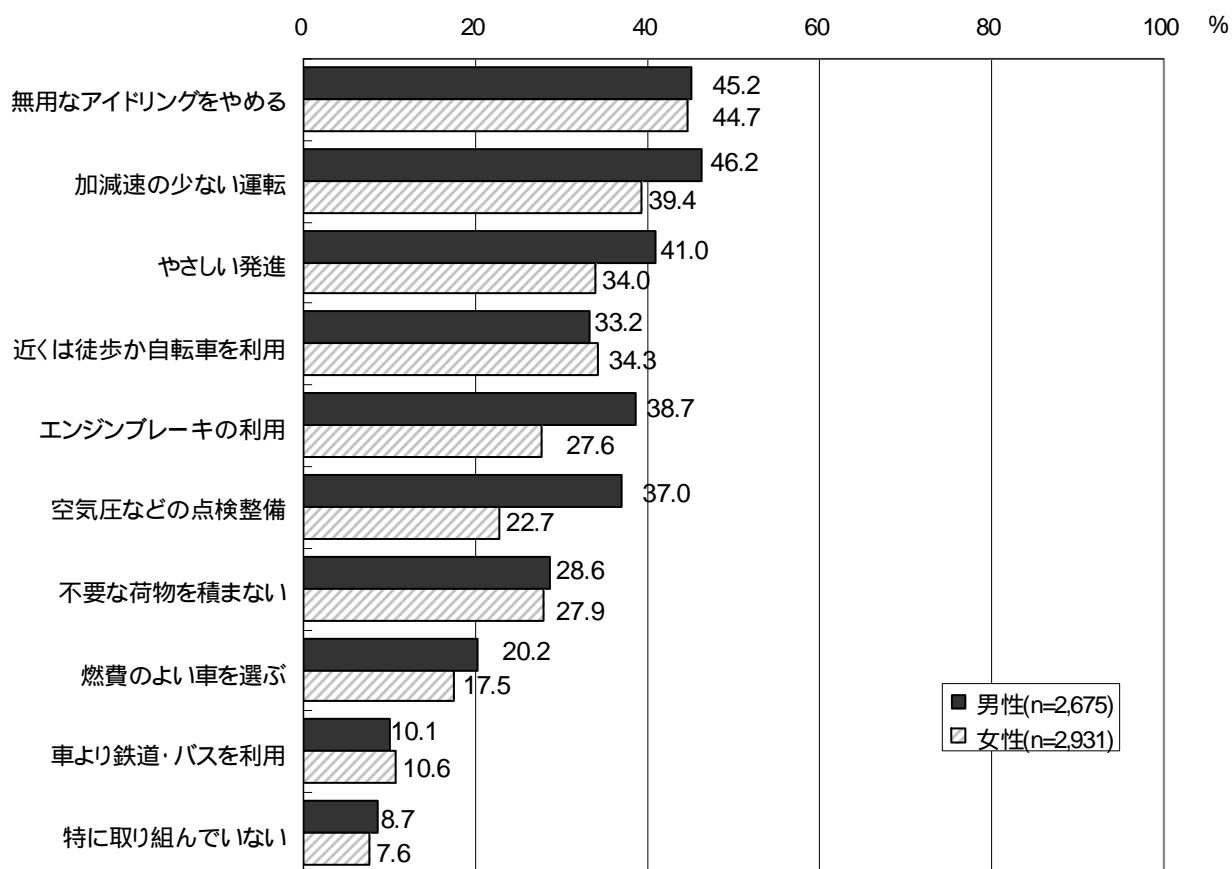
図表3-6-8 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(地域別上位7項目) (%)

地域	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
北勢地域	無用なアイドリングをやめる 47.0	加減速の少ない運転 43.2	やさしい発進 38.8	近くは徒歩か自転車を利用 35.7	エンジンブレーキの利用 33.9	不要な荷物を積まない 30.2	空気圧などの点検整備 29.2
伊賀地域	無用なアイドリングをやめる 45.6	加減速の少ない運転 40.2	やさしい発進 34.2	エンジンブレーキの利用 32.1	近くは徒歩か自転車を利用 29.9	空気圧などの点検整備 27.7	不要な荷物を積まない 26.7
中南勢地域	加減速の少ない運転 42.9	無用なアイドリングをやめる 42.2	やさしい発進 36.5	エンジンブレーキの利用 32.5	近くは徒歩か自転車を利用 32.4	空気圧などの点検整備 30.5	不要な荷物を積まない 26.5
伊勢志摩地域	無用なアイドリングをやめる 42.6	加減速の少ない運転 40.9	やさしい発進 36.6	近くは徒歩か自転車を利用 34.3	エンジンブレーキの利用 31.5	空気圧などの点検整備 28.6	不要な荷物を積まない 25.7
東紀州地域	加減速の少ない運転 41.1	無用なアイドリングをやめる 37.5	近くは徒歩か自転車を利用 30.4	やさしい発進 29.0	空気圧などの点検整備 27.2	エンジンブレーキの利用 25.0	不要な荷物を積まない 23.7

【性別】

男性は「車間距離に余裕をもって加減速の少ない運転をする」が、女性は「駐車時や停車時に無
 用なアイドリングをやめる」が最も高くなっている。「タイヤの空気圧など点検整備を心掛ける」
 「早めのアクセルオフでエンジンプレーキを利用する」は男性が女性より10ポイント以上高くなっ
 ている。

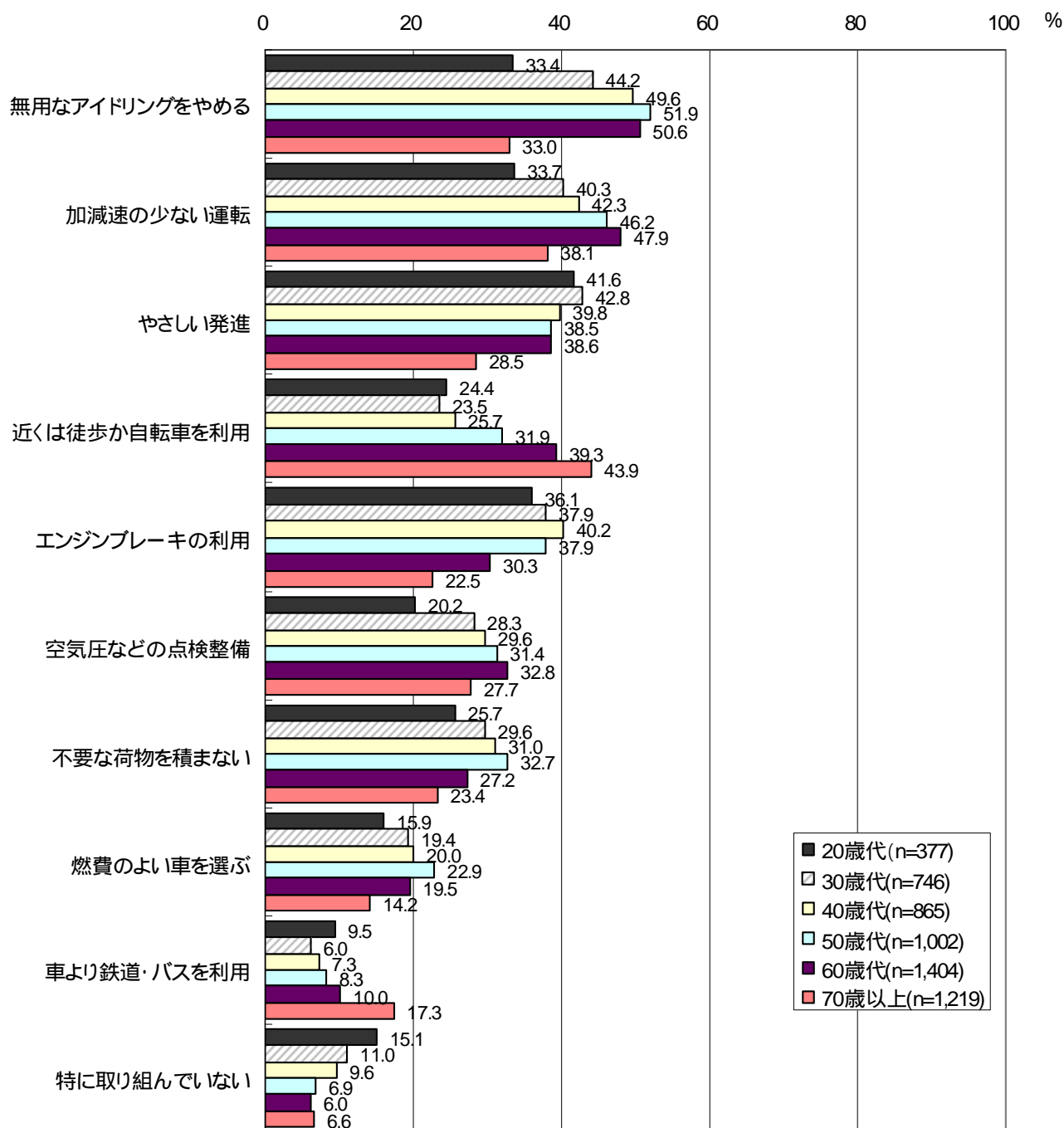
図表 3-6-9 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(性別)



【年代別】

20歳代から60歳代にかけては、「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」、「車間距離に余裕をもって加減速の少ない運転をする」、「タイヤの空気圧など整備点検を心掛ける」などについて、概ね年齢層が高いほど高くなっている。70歳以上では「近くへの用事はなるべく徒歩か自転車で行く」、「車より鉄道・バスを利用」が他の年齢層よりも高くなっているが、他の取組についてはいずれも低くなっている。

図表 3-6-10 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(年代別) (%)



【世帯構成別】

単身世帯は「近くへの用事はなるべく徒歩か自転車で行く」が、単身世帯以外の世帯では「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」が最も高くなっている。

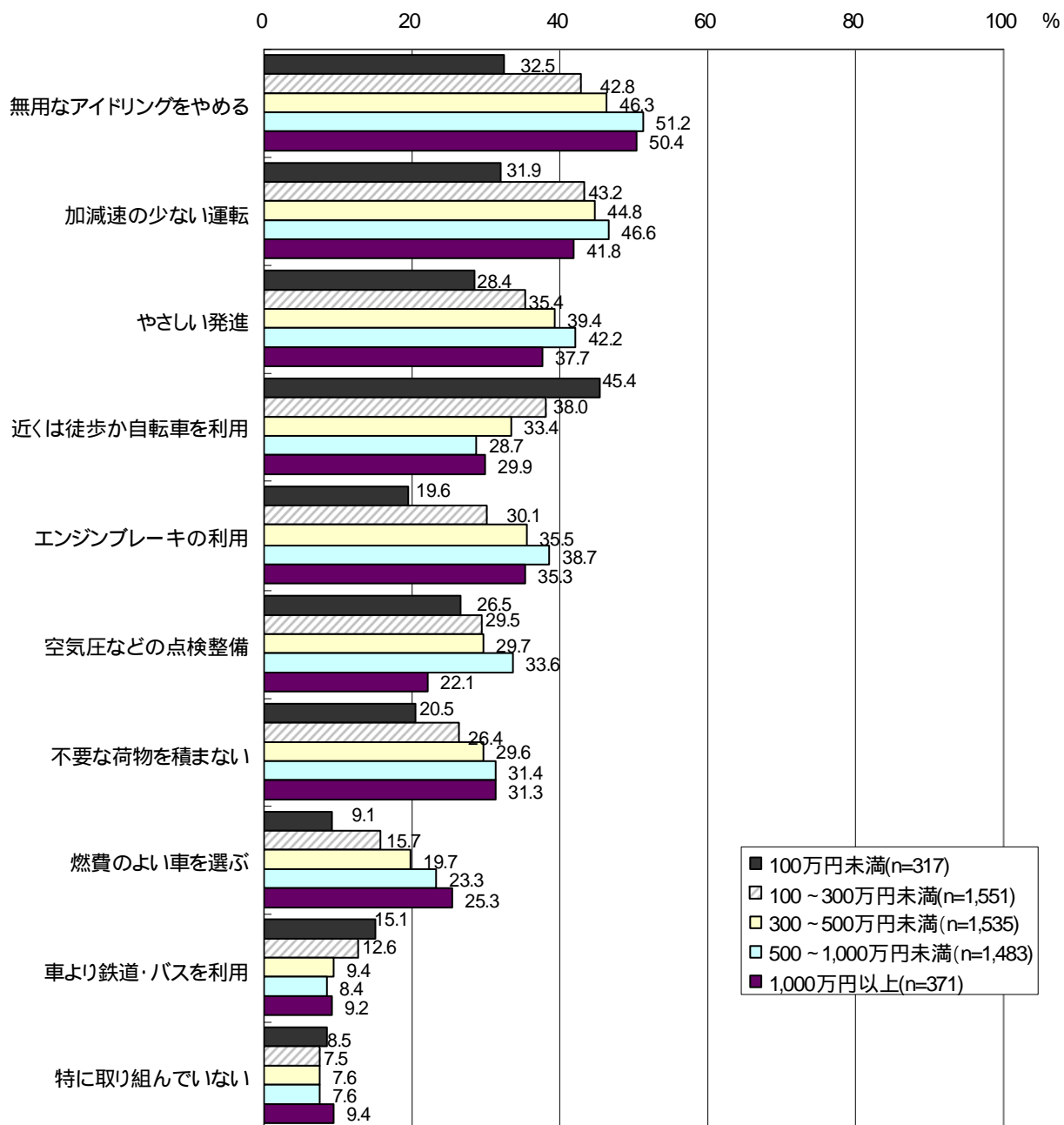
図表 3-6-11 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(世帯構成別上位7項目) (%)

世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
単身世帯	近くは徒歩か自転車を利用 34.9	加減速の少ない運転 31.1	やさしい発進 27.8	無用なアイドリングをやめる 26.6	エンジンプレーキの利用 24.2	空気圧などの点検整備 22.8	不要な荷物を積まない 19.7
一世代世帯	無用なアイドリングをやめる 47.5	加減速の少ない運転 45.4	やさしい発進 39.2	近くは徒歩か自転車を利用 38.4	エンジンプレーキの利用 32.9	空気圧などの点検整備 32.8	不要な荷物を積まない 30.3
二世帯世帯	無用なアイドリングをやめる 45.8	加減速の少ない運転 42.8	やさしい発進 37.7	エンジンプレーキの利用 34.6	近くは徒歩か自転車を利用 31.3	空気圧などの点検整備 29.2	不要な荷物を積まない 28.8
三世帯世帯	無用なアイドリングをやめる 46.8	加減速の少ない運転 43.9	やさしい発進 38.7	エンジンプレーキの利用 33.4	近くは徒歩か自転車を利用 32.4	空気圧などの点検整備 27.8	不要な荷物を積まない 26.7
その他	無用なアイドリングをやめる 42.0	加減速の少ない運転 34.6	やさしい発進 32.1	近くは徒歩か自転車を利用 不要な荷物を積まない 25.9		空気圧などの点検整備 エンジンプレーキの利用 23.5	

【世帯全体の年間収入別】

「近くへの用事はなるべく徒歩か自転車で行く」、「車より鉄道・バスを利用」については、概ね年間収入額が少なくなるほど高くなっている。「駐車時や停車時に無用なアイドリングをやめる」、「車間距離に余裕をもって加減速の少ない運転をする」、「早めのアクセルオフでエンジンブレーキを利用する」などについては、概ね年間収入額が多くなるほど高くなっている。

図表 3-6-12 自動車を利用するなかで実践している地球温暖化対策の取組(複数回答)(世帯全体の年間収入別) (%)



問6 - 3 地球温暖化を防止するためには、今の生活の仕方（ライフスタイル）を見直さなければならぬという考え方がありますが、あなたはご自身のライフスタイルについてどのような考えですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んでください。（は1つだけ）

地球温暖化を防止するためにライフスタイルを見直すかどうかについては、「見直したい」と「どちらかといえば見直したい」を合計した肯定的回答の割合が53.9%で、「見直すつもりはない」と「どちらかといえば見直すつもりはない」を合計した否定的回答の割合（24.9%）より高くなっている。

【地域別】

すべての地域で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、50.0%以上となっている。そのうち、「見直したい」は東紀州地域が15.2%と最も高くなっている。

【性別】

男女とも肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高く、女性は58.6%と男性（49.5%）より9.1ポイント高くなっている。

【年代別】

すべての年代で肯定的回答の割合が否定的回答の割合より高くなっているが、60歳代以上は他の年代と比べて低くなっている。20歳代は「見直すつもりはない」が12.2%とやや高くなっている。

さらに、性・年代別でみると、20歳代から50歳代の女性は肯定的回答の割合が65.0%以上と高くなっている。一方、20歳代の男性は否定的回答の割合が44.1%で肯定的回答の割合（44.0%）より高くなっている。

【世帯構成別】

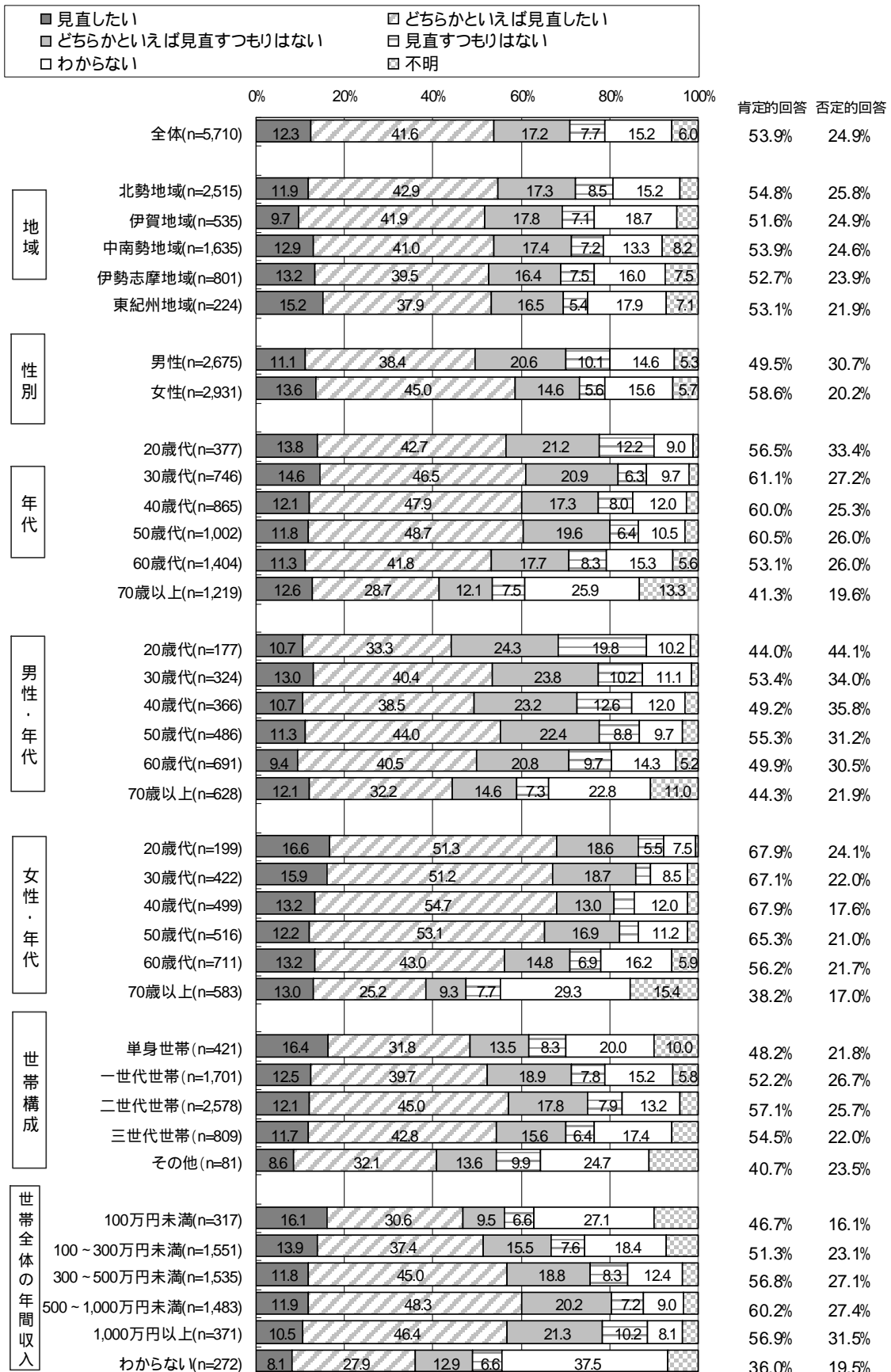
世帯構成に関わらず肯定的回答が否定的回答より高くなっている。

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額が1,000万円未満の層までは、年間収入額が多くなるほど肯定的回答の割合が高くなっている。また、年間収入額が多くなるほど否定的回答の割合も高くなっており、100万円未満の16.1%に対し、1,000万円以上は31.5%となっている。さらに、年間収入額が少なくなるほど、「わからない」「不明」が多くなっている。

下の図表 3-6-13 に記載の肯定的回答は、「見直したい」と「どちらかといえば見直したい」の割合を合計したものであり、否定的回答は、「見直すつもりはない」と「どちらかといえば見直すつもりはない」の割合を合計したものである。

図表 3-6-13 地球温暖化防止のためにライフスタイルを見直すことについての考え方



問6 - 4 家庭から排出される温室効果ガスの排出量は、1990 年度に比べて 2008 年度では、約 2 割増加しており、温室効果ガスの排出削減が進んでいない現状があります。

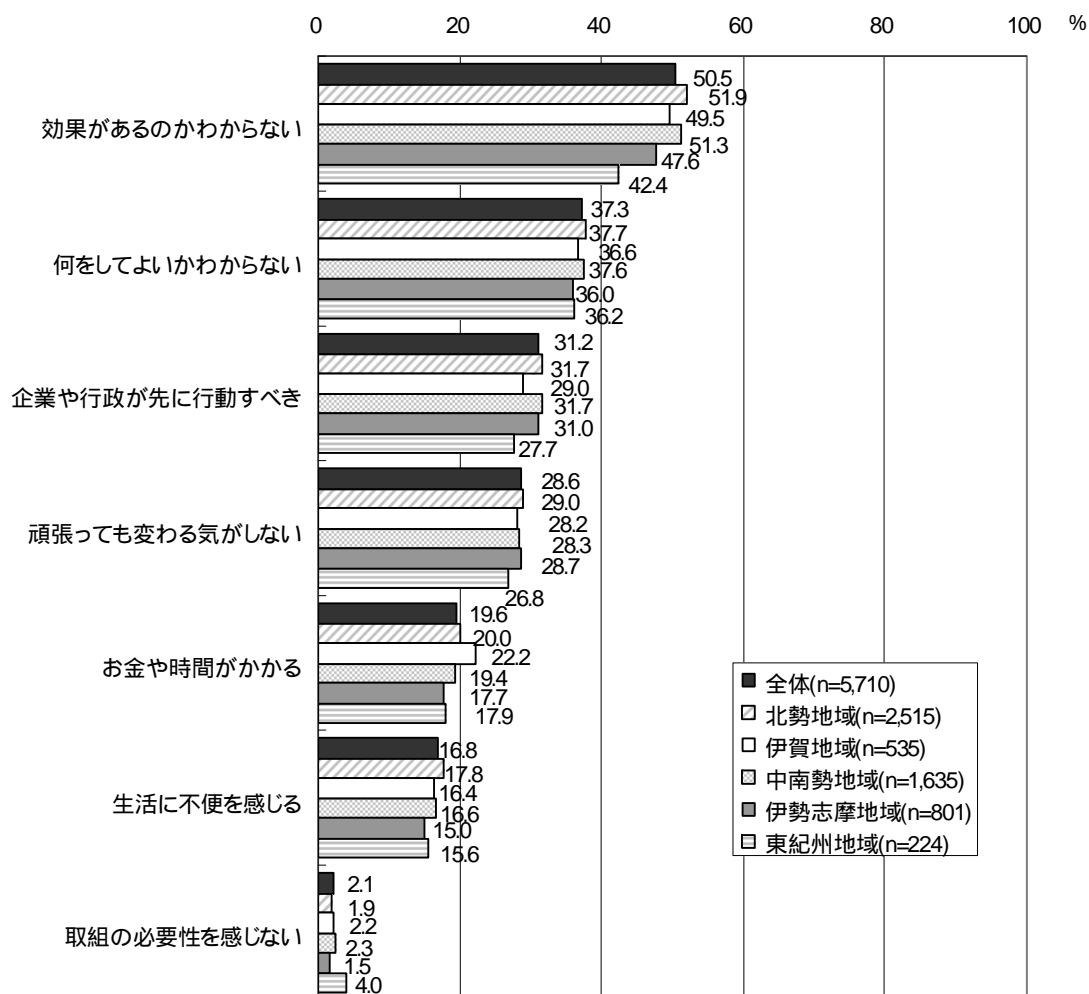
家庭での取組が進まない要因として、あなたはどのような理由があると思いますか。次の中から あてはまるものすべてを選んでください。(はいくつでも)

家庭における温室効果ガスの排出削減に向けた取組が進まない理由を質問したところ、「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が50.5%と最も高く、次いで「具体的に何をしてもよいかかわからないから」(37.3%)、「企業や行政などが、県民より先に行動を起こすべきだと思うから」(31.2%)の順となっている。

【地域別】

すべての地域で「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が最も高く、特に、北勢地域(51.9%)、中南勢地域(51.3%)の順に高く、東紀州地域が42.4%と最も低くなっている。

図表3-6-14 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)(地域別)



選択肢のうち、「その他」、「わからない」の値を省略している。

【性別】

男女とも「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が最も高くなっている。次いで、男性は「企業や行政などが、県民より先に行動を起こすべきだと思うから」が、女性は「具体的に何をしてもよいかかわからないから」が、それぞれ高くなっている。

図表 3-6-15 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)(性別上位7項目) (%)

性別	1位	2位	3位	4位	5位	6位
男性	効果があるのかわからない 51.7	企業や行政が先に行動すべき 34.2	何をしてもよいかかわからない 34.1	頑張っても変わる気がしない 30.6	お金や時間がかかる 21.6	生活に不便を感じる 17.9
女性	効果があるのかわからない 50.1	何をしてもよいかかわからない 40.4	企業や行政が先に行動すべき 28.6	頑張っても変わる気がしない 27.0	お金や時間がかかる 18.0	生活に不便を感じる 16.1

【年代別】

すべての年代で「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が最も高く、次いで、20歳代から60歳代までは「具体的に何をしてもよいかかわからないから」が、70歳以上は、「企業や行政などが、県民より先に行動を起こすべきだと思うから」が高くなっている。

さらに、性・年代別でみると、「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」は40歳代の男性が59.0%と最も高くなっている。また、「具体的に何をしてもよいかかわからないから」は20歳代および30歳代の女性がそれぞれ47.2%、46.9%と高くなっている。

図表 3-6-16 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)(年代別上位7項目) (%)

年代	1位	2位	3位	4位	5位	6位
20歳代	効果があるのかわからない 53.8	何をしてもよいかかわからない 40.1	頑張っても変わる気がしない 37.7	企業や行政が先に行動すべき 29.2	生活に不便を感じる 26.5	お金や時間がかかる 19.1
30歳代	効果があるのかわからない 54.3	何をしてもよいかかわからない 42.2	頑張っても変わる気がしない 31.4	企業や行政が先に行動すべき 23.3	お金や時間がかかる 22.4	生活に不便を感じる 21.0
40歳代	効果があるのかわからない 57.6	何をしてもよいかかわからない 36.3	頑張っても変わる気がしない 29.1	企業や行政が先に行動すべき 25.7	生活に不便を感じる 21.4	お金や時間がかかる 19.9
50歳代	効果があるのかわからない 53.2	何をしてもよいかかわからない 37.7	企業や行政が先に行動すべき 30.1	頑張っても変わる気がしない 29.2	お金や時間がかかる 22.0	生活に不便を感じる 20.3
60歳代	効果があるのかわからない 51.9	何をしてもよいかかわからない 37.5	企業や行政が先に行動すべき 36.8	頑張っても変わる気がしない 27.5	お金や時間がかかる 18.9	生活に不便を感じる 14.0
70歳以上	効果があるのかわからない 40.0	企業や行政が先に行動すべき 35.5	何をしてもよいかかわからない 34.0	頑張っても変わる気がしない 25.0	お金や時間がかかる 17.2	生活に不便を感じる 9.0

【世帯構成別】

世帯構成に関わらず、「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が最も高く次いで「具体的に何をしてもよいかかわからないから」が高くなっている。

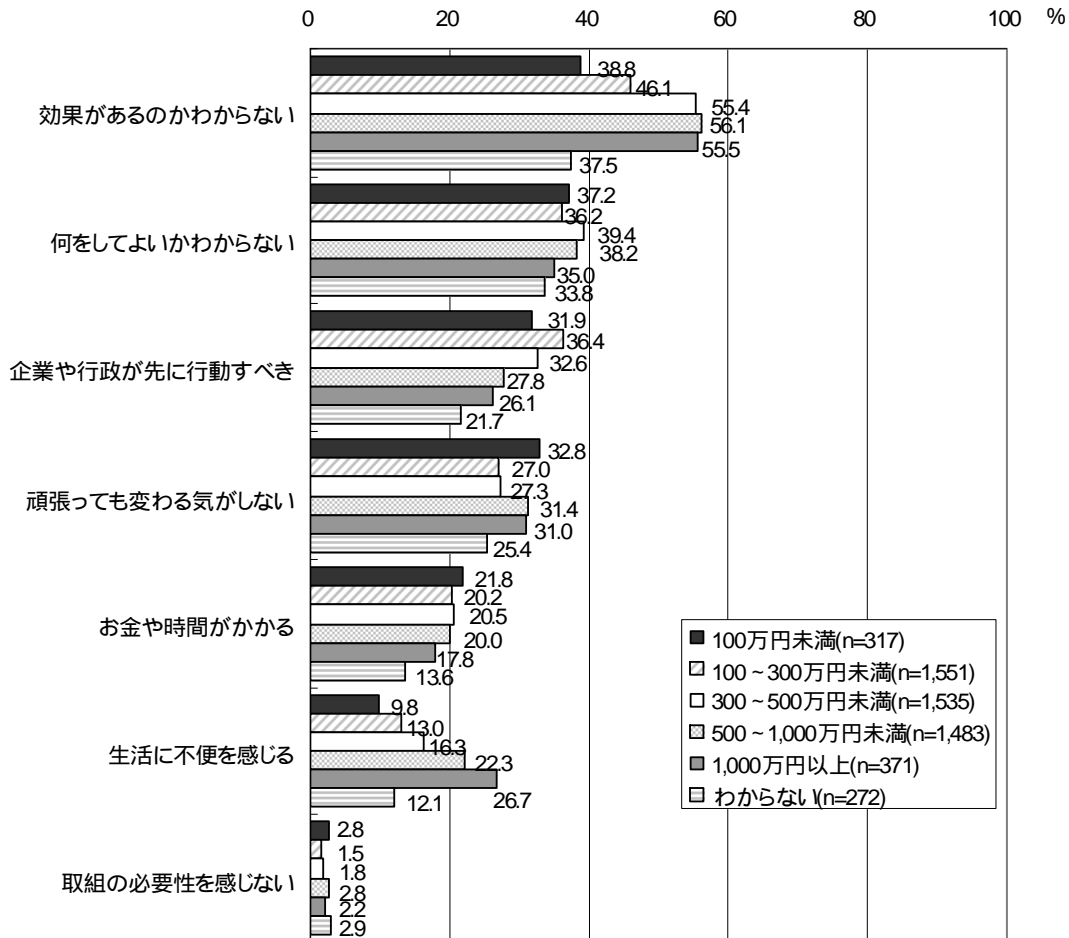
図表3-6-17 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)(世帯構成別上位7項目) (%)

世帯構成	1位	2位	3位	4位	5位	6位
単身世帯	効果があるのかわからない 39.7	何をしてもいかわからない 34.4	頑張っても変わる気がしない 30.9	企業や行政が先に行動すべき 27.8	お金や時間がかかる 17.1	生活に不便を感じる 15.2
一世代世帯	効果があるのかわからない 51.1	何をしてもいかわからない 37.5	企業や行政が先に行動すべき 36.9	頑張っても変わる気がしない 27.6	お金や時間がかかる 19.9	生活に不便を感じる 15.4
二世帯世帯	効果があるのかわからない 52.8	何をしてもいかわからない 37.5	企業や行政が先に行動すべき 頑張っても変わる気がしない 29.2	29.2	お金や時間がかかる 20.0	生活に不便を感じる 18.2
三世帯世帯	効果があるのかわからない 51.2	何をしてもいかわからない 37.9	企業や行政が先に行動すべき 28.9	頑張っても変わる気がしない 27.8	お金や時間がかかる 20.1	生活に不便を感じる 17.2
その他	効果があるのかわからない 44.4	何をしてもいかわからない 40.7	頑張っても変わる気がしない 32.1	企業や行政が先に行動すべき 25.9	お金や時間がかかる 生活に不便を感じる 19.8	

【世帯全体の年間収入別】

世帯全体の年間収入額にかかわらず「地球温暖化防止にどれくらい効果があるのかわからないから」が最も高くなっている。概ね年間収入額が少なくなるほど「企業や行政などが、県民より先に行動を起こすべきだと思うから」が高くなっている。また、年間収入額が多くなるほど「取組を行うことで、生活に不便を感じるから」が高く、100万円未満の9.8%に対し、1,000万円以上は26.7%となっている。

図表3-6-18 家庭で温室効果ガスの排出削減の取組が進まない理由(複数回答)(世帯全体の年間収入別)



選択肢のうち、「その他」、「わからない」の値を省略している。

7. 自由意見

最後に このたびのアンケート調査に対するご感想、または三重県政に対するご意見などございましたら、ご自由にお書き下さい。今後の参考にさせていただきます。

今回の調査で、上記の質問を設定して回答者の方にご意見をお聞きしたところ、計 1,713 人の方から回答が得られ、延べ 1,878 件の意見を下記の通り大きく 2 つに整理しました。

(1) みえ県民意識調査についての意見 (266 件)

いただいたご意見の中には、内容を同じくするご意見もありますので、ご意見をいくつかの類型に分類し、主な意見として集約しました。

アンケートの目的 (103 件)

- ・ どのような目的でこのアンケートを実施しているのかがわかりにくい。
- ・ アンケートを実施し県民の声を聞くことは大切だと思う。これからも継続して行ってほしい。
- ・ アンケート調査の実施自体が税金の無駄遣いだと思う。

アンケートの実施方法 (32 件)

- ・ アンケートの協力者に対し、粗品進呈等あれば、より多くの情報が集まり精度向上につながると思う。
- ・ 封筒 (返信用封筒) を大きいのにしてほしい。
- ・ アンケート調査を書面で実施するより、市町単位でヒアリングや対話を行うほうがより県民の声が聞けるのではないか。

調査票の構成 (44 件)

- ・ アンケートの質問はわかりやすく答えやすかった。
- ・ このアンケートを通して、県政への意識や、日ごろの生活などを振り返ることができた。
- ・ 設問の項目が多すぎると思う。もう少し答えやすい設問量、内容にしてほしい。
- ・ 職業や年齢、また生活スタイルなどによっては、答えにくい設問があったので考慮してほしい。

対象者（数）の抽出方法（23件）

- ・ アンケート対象者は、無作為ということだが、どのような名簿からどのように選ばれているのか。
- ・ 今まで何度も送られてきているので、一度対象者になった人は外すなどの配慮をしてはどうか。
- ・ 無作為とはいえ、高齢すぎて十分な回答ができないので、年齢制限などをもっと若い人を中心にしてはどうか。

アンケート結果の公表（24件）

- ・ アンケート調査結果を無駄にせず、三重県をより良くしていく為に活かして欲しい。
- ・ アンケート調査結果をどのように活用していくかを明確にしてほしい。

アンケート結果の活用方法（40件）

- ・ 集計結果をぜひ知りたいが、どのように知ることができるのか。
- ・ ホームページで集計結果を公表する予定とあるが、インターネットを利用していない家もあるので、配慮してほしい。
- ・ 集計結果を「県政だよりみえ」や市町の広報誌、地域の番組などで紹介するなど、誰もが知ることができるようにしてほしい。

（2）その他の意見（1,612件）

さまざまな分野に対するご意見も幅広くいただきました。

いただいたご意見につきましては、関係部署に伝達し、諸施策の今後の展開を検討するための参考資料として活用いたします。なお、参考までに「みえ県民力ビジョン」における16の政策別およびその他に分類した内訳は次の通りです。

【みえ県民力ビジョン(974件)】

01.危機管理	124件	09.スポーツの推進	19件
02.命を守る	95件	10.地域との連携	37件
03.暮らしを守る	33件	11.文化と学び	9件
04.共生の福祉社会	84件	12.農林水産業	22件
05.環境を守る持続可能な社会	49件	13.強じんて多様な産業	42件
06.人権の尊重と多様性を認め合う社会	6件	14.雇用の確保	82件
07.教育の充実	43件	15.世界に開かれた三重	153件
08.子どもの育ちと子育て	43件	16.安心と活力を生み出す基盤	133件

【その他(638件)】

01.知事に対して	147件	03.行政全般・その他について	444件
02.幸福感について	47件		

(参考) 標本誤差と調査の精度

母集団から一部の標本を抽出して調査を行い、その結果からもとの全体の値を推定するのが標本調査であるが、この際に生ずる“標本調査の結果”と“全数調査の結果”との差が標本誤差である。標本誤差の幅は、サンプル数(n)、および回答率(P)によって決定される。

標本誤差 $E = \pm 2 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}}$	E : 標本誤差 n : サンプル数(n) P : 回答率(%)
--	--------------------------------------

次表は、上式に n と P の値を代入して標本誤差を求め、作成したものである。

標本誤差の早見表

回答の比率(p) サンプル数(n)	5% 又は 95%	10% 又は 90%	15% 又は 85%	20% 又は 80%	25% 又は 75%	30% 又は 70%	35% 又は 65%	40% 又は 60%	45% 又は 55%	50%
10,000	0.4	0.6	0.7	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0
5,710	0.6	0.8	0.9	1.1	1.1	1.2	1.3	1.3	1.3	1.3
5,000	0.6	0.8	1.0	1.1	1.2	1.3	1.3	1.4	1.4	1.4
1,000	1.4	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9	3.0	3.1	3.1	3.2
500	1.9	2.7	3.2	3.6	3.9	4.1	4.3	4.4	4.4	4.5
100	4.4	6.0	7.1	8.0	8.7	9.2	9.5	9.8	9.9	10.0

回答の比率(p)とは、ある選択肢が選ばれる割合であり、その割合が50%のとき標準誤差は最大となる。

アンケート調査を行う場合、許容できる標本誤差の範囲は3%程度の範囲までとされている。

仮に、ある設問のある選択肢が選ばれる割合(回答の比率)が50%の場合、信頼度95%、標準誤差±3%(同じ調査を異なる調査対象で行った場合、100回中95回までは-3%~+3%の間に収まること)では、1,111件のサンプル数が必要であり、同様に標本誤差±2%では2,500件のサンプル数が必要であるという考え方となる。

今回の調査では、5,710件の有効回答数が得られており、三重県全体の意見を推定するために十分な精度を得ていると考えられる。(次式及び「サンプル数決定の早見表」参照)

$$\text{サンプル数 } n = \left(\frac{k}{E}\right)^2 \times P \times (100 - P) \quad (1) \quad 1$$

n : サンプル数 P : 回答の比率(%) E : 標本誤差 k : 信頼度係数 2

1 : 一般的に人口1万人以上を目安に無限母集団と捉えるため、本調査においては、無限母集団のサンプル数を決定する式(1)を使用した。

2 : 信頼度係数は、正規分布表から求められ、信頼度95%の場合は1.96であるであるが、近似値として2を用いている。

サンプル数決定の早見表(信頼度 95%)

標本誤差 回答の比率(%)	± 1%	± 2%	± 3%	± 4%	± 5%
1、99	396				
5、95	1,900	475	211	119	
10、90	3,600	900	400	225	144
20、80	6,400	1,600	711	400	256
30、70	8,400	2,100	933	525	336
40、60	9,600	2,400	1,067	600	384
50、50	10,000	2,500	1,111	625	400